



伊藤音次郎日記

1918(大正 7)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼0ページ▲▼

大正七年

▲▼1ページ▲▼ 一月

確固タル基礎ノ設立ニ努力シ製作事業ノ端緒ヲツクルコト
安定飛行機ノ研究
發動機根本的ノ改良

▲▼2ページ▲▼ 大正7(1918)年1月1日(火)

此記事三日ノモノナリ

今日ハ終日飛行界ヲ讀ム 夕方タイクツニナッタノデ清ヲツレテ公園ヲ散歩シオートバイ競争ヲ見帰途ニコ、ニ立ヨリ帰宅

▲▼3ページ▲▼ 大正7(1918)年1月2日(水)

天気晴

昨夜ノ雨モ晴レテ午後カラハ上天気ニナッタ

午前中眠ル 午後安堂寺町方面ノ廻礼ニ行キ帰宅後飛行界ヲ讀ム

夜四良平君ノ支那料理デ皆々一杯ヤル

佐野午後堺へ行 荒瀬京都ニ行

▲▼4ページ▲▼ 大正7(1918)年1月3日(木)

天気晴

五時半起床 ロソ、ギ神前ニ燈明ヲケンジお祝ヲ終ル 父モ病床ヨリ出デ、氣(ママ)嫌ヨカリキ 後一寢入ナシ十時頃起床 四良平、松谷君等ト晝食ヲナス 其前吉田勝三郎氏ニ會フ 数見君ノ言傳ヲナス

午後近所ノ礼廻リヲナシ後千賀状ヲ百枚バカリ書ク 夕食後早ク床ニ入ル

松谷、四良平、兄ト之レカラ遊バナイノ遊ンデハイケナイトサワイデ居タ オカシカッタ

此記事一日ノ分ナリ

▲▼5ページ▲▼ 大正7(1918)年1月4日(金)

天気 晴

今日ハ發動機分解 六番ノコンネクチングロットノメタルガ、ヘツテ居タ。後ノメンベアリングガ、ヤケ色シテ居タノデ驚イテ調べタガ何ントモナカッタ エキゾーストバルブガ皆ヨクナカッタ 其他異状ナシ

夕方関ノマネキニヨリ風呂ニ入り裏ノ兄ト共ニ行ク お吉モ最(ママ)非ニトノコトデアッタガ之レハコトワッタ 十時頃辭シテ帰ル 西風寒イ日デアッタ 晝前井上長君帰ル。桜井氏大ニ乗氣ニテ好都合ノ由

▲▼6ページ▲▼ 大正7(1918)年1月5日(土)

天気 晴

藤原君ガ來テ起キタ 八日市へ今日日帰ノ予定デ行クトノコト。ニサイクル成績悪シケレバ最(ママ)非カワリノモノガホシイカラ頼ムトノコトデアッタ

佐野、コンネクチングロット六番ノメタル摺り合せ

自分ハオイルポンプノギアーヲ広瀬ニ頼ミニ行キ後チ掃除ヲ手傳フ 大工一人來 水上ノ木取リヲサセル。夕方佐伯庄兵衛氏來 工場ヲ見セ雁風楼ニテ食事ヲナス

▲▼7ページ▲▼ 大正7(1918)年1月6日(日)

天気 晴

コンネクチングロットノメタル出來タ ピストンリングヲ掃除シタ 午後自分ハエキゾーストバルブノ予備ガナイカ中島へ尋ネニ行ツタガナカッタ 帰上田君ニ會フベク毎日ニ立ヨツタ 待ツテ呉ト云フノデ應接室ニ居ルコト一時間 ツニ留都(ママ)デアルトノコト 馬鹿々々シカッタ

井上君ト兄サン來 自分不在中デ失敬シタ

▲▼8ページ▲▼ 大正7(1918)年1月7日(月)

天気 晴

七時半起床 七草カユヲ祝ツテ後シリンダーヘツドヲ井上君ガ神戸へ行クノデ持ツテ行ツテ貰フ 荒瀬ヲツケテヤル 銅芳ト云フノガワカラナクテ梁瀬ノ店ヘタノンデ來タトノコト

エキゾーストバルブノスリ合せヲナシシリンダーヲ取付ケル

▲▼9ページ▲▼ 大正7(1918)年1月8日(火)

天気 晴

時事 米原附近積雪四尺東海道線不通急行列車十一時間延着ス

昨夜アマリ油コイモノヲ喰ツタノデムネ悪シク胃散ヲノム 八時頃起床

エンジン組立 午後グレゴアノ出發準備

大工水上分半日机半日

夜井上、佐野、荒瀬等ト自分ノ居間デコーヒヲノミツ、昔ノ行李ヲ開イテ色々ナモノ

ヲ見テ樂ンダ

▲▼10ページ▲▼ 大正7(1918)年1月9日(水)

天気 晴

今日ハ休業シタ 朝伊田ノ三瀬君ガ來タ メヅラシイ人デアッタ 二階デ此四月福島

デ共進会ニ水陸二台ニテヤル話ガ出デ千五百円ト定メテ五百円手金受取ルト同時ニ

契約スルムネノ書付ヲ書イタ 東京ノ帰途中デガマロモ時計モトラレテ困ルノデア金ヲ

貸シテ呉レトテ十五円貸シテヤッタ ドウモアヤシカッタガクレルツモリデア貸シタ 十日

戎ノ小遣ガナクナッタ

後千百八十馬力水上ノ設計ヲナス

午後活動ヲ見後千西ノ家ニ馳走ニナル 戸田、関ノ一族 十一時床ニ入

午前中機体發送 阿部ニ〇送ツタカト打電ス 夜、機体發送待テ〇マダトノ返電アリ。

話ガアヤシクナツテ來タノデ、機出タ止メラレヌ困ルト打電シタ

▲▼11ページ▲▼ 大正7(1918)年1月10日(木)

天気 曇リ

今日ハ讀書(自修論) 晝前工場ノ岩田サンガ一人ノ少年ヲ連レテ來ラレタ 飛行家志

望ナソウナガ中學三年トノコト 勉學ヲ進メテ帰ラシム 後千井上、佐野、松谷清平ト

大山館ニ行ク 大入ニテ閉口ス

夜早ク床ニ入り大飛行機ノ設計ト自修論ヲ讀ム

▲▼12ページ▲▼ 大正7(1918)年1月11日(金)

天気 晴

今日ハ上翼中央ノ改造ヲナス

井上君ニ毎日ノ上田君ヲ訪問シテ貰ツタガ約束ヲシテ居イテ會ツテ呉レナカッタ由 大

ニシヤクニサワル モー毎日ノ交渉ハ止メルコトニシタ
阿部ヨリ手紙來

夜白津君來 水上ヲ買ヒタイトノコト 六千円ニ値貸シシテアルガ君ノ事ダカラ四千七
百円現金引替ナラト云フコトニシタ 明日又來ルトノコト

▲▼13ページ▲▼ 大正7(1918)年1月12日(土)

天気晴

水上手入ノ爲メニ三百円兄ニ都合ヲ頼ンダ處後工場ヨリ電話ニテ沢村氏ヨリ五十円
寄贈セラレタトノコト 午後礼ニ行ツタガ不在デアッタ

夕方白水君來 親叔ノ人ト同行シタカラ一寸何處カデ會イタイトノコトデイロハ三行
ク 二千円ダケハ金ガ出來テ居ルガ其上多少ノコトハ出來ルトノコトダガ四千七百円デ
ハトテモ買エナイノデ負ケレ呉レトノコト 明日返事スルコトニシテ分カレタ
夜兄ヤ父ト相談 余リ思ワシクナイ飛行機ダガラ賣ルコトニ極メタ

▲▼14ページ▲▼ 大正7(1918)年1月13日(日)

天気晴

信太郎又風引イタガ元氣ハヨカッタ

プレーンノ骨入レカニ皆出來タ 布ヲヌイニヤル

夕方又白水君ト昨日ノ人ト來ル 兄ノ相談ノ結果三千五百円現金五百円手形ノ計
四千円ト云フコトニ云ツタガ結局三千五百円二手ヲ打ツコトニシタ ソシテ契約書ヲ作
ツタ 發動機ノ悪イコト フロートノ永ク使用ニタエヌコトハ昨日スデニ話シテ置イタノデ
契約面ニタゞ中古ト入レテ居イタ
千円手金山口ノ小切手ニテ受取ル

▲▼15ページ▲▼ 大正7(1918)年1月14日(月)

天気晴

朝山口銀行へ昨日ノ金取付ニ行ク

帰途佐渡島西店ニ立寄り小主人ニ面會 今日迄ノ経過ヲ話シ難波ノ工場ニ行ク 兄ニ
千円渡シ沢村へ礼ニ行ツタガ又不在デアッタ
帰ツテ仕事ヲナス。プレーンノツギ手ヲナス
夜家ノ話ニ幾度カ裏へ行ツタガツヒニ話セナカッタ

▲▼16ページ▲▼ 大正7(1918)年1月15日(火)

天気 晴

プレーンツキ手ノ金物ヲツクル
父ハ兄ニ千円渡シタノヲ怒ツテ取ツテ來イトノコトデアッタガ色々ナダメテ其マヽニシタ
裏ヘモ今日話シテシマッタ ナンダカ内所ト云フコトハ僕ニハ出來ナイコトデアッタ
夜床ノ内ニテ飛行界ヲ讀ム
昨夜オソク阿部カラ手紙來タ

▲▼17ページ▲▼ 大正7(1918)年1月16日(水)

天気 晴

今日カラ機体、金物全部出來ル
藤原ヨリ發動機ノ成績ヨイトノ報告アリ
自分考察ノデスク出來ル 白ニスヲ塗ッタガダメ 昨日ノ塗ノ粉ガ出デ尚キタナクナツ
タ 夕方階上ノ室ニスエ付ケタ
夜佐野ト今來タ雜ノ中ノ飛行機圖ニツイテ研究シタ

▲▼18ページ▲▼ 大正7(1918)年1月17日(木)

天気 晴

今日ハ機体出來上ル 午前藤原君來ル 晝食ニ牛肉ヲ喰フ 發動機ヤ、調子ヨキ由 明日ヨリ八日市ニ行ク由
夜井上、佐野、荒瀬ト雑談 十時頃床ニ入ル
夕方一巡查來 タノミタイモノガアルトテ六年中ノ事故ト十二月來ノ飛行機操縦者
氏名

▲▼19ページ▲▼ 大正7(1918)年1月18日(金)

天気 晴

今日ハプレーン組立機体ニ取付ケ中央ノ柱ヲ取付ケル
シリンダーヘッド井上君ニ取リニ行ツテ貫ツタガ出來テ居ナカッタ
夜氏名簿ヲツクル 約八十名

▲▼20ページ▲▼ 大正7(1918)年1月19日(土)

天気 晴

頭痛ガシテタマラズ十時頃起床 工場ニ行キプレーンノ取付ヲ終リ取ハヅシテ箱入レト

ナス

午後アンマヲ取り床ニ入ル

夜スツカリ頭痛ガ直ツタノデ大山館ニ行クツモリデ皆ツレテ行ツタ處明日カラナノデ帰途講談クラブラヲ求メ床ノ内ニテ三時頃迄ニ讀ミツクシタ

兄昨夜帰ラズ 今夜十二時頃桃太郎外一名ニ送ラレ帰ツテ來タ

井上長一 一時半頃出タラシク三時頃便所へ行ツタ處居ナカッタノデ貫又キニ入レテ居ク

▲▼21ページ▲▼ 大正7(1918)年1月20日(日)

天気晴

今朝白水ヨリ廿一二日頃解決ニ行クトノハガキガ來タ

プレーンヲ張ル 殊(ママ)ンド完成シタ

夜鉄ノ爪ヲ見ニ行ク 大入デ閉ロシタ

帰ツテ帰途求メタ鐘焼デお茶ヲノム

信太郎モ起キテ居タ

柳原梁瀬ニ行ツテ居ナイトノコトデアッタ 不都合ナヤツダ

▲▼22ページ▲▼ 大正7(1918)年1月21日(月)

天気晴

プレーン完成ス 塗料ガヌレナイノデ中止シテ其マ、箱ニ入レタ。フロートニコールターヲ流ス

午後朝日ニ小西サヲ尋ネル 不在。山縣君ヲ訪ネ柳原ノ詫ヲナス。帰途関鉄工所ニマワリニ時間バカリ話シテ、ウエルド屋ヲ聞イテ帰ル 夜夕食後裏ニテ姉ト話ス處へ西ノ姉ガ來テニ時間程シタ

▲▼23ページ▲▼ 大正7(1918)年1月22日(火)

天気晴

稲垣ヨリコトワリ狀來ル 藤原君ヨリ近況報道アリ

フロート木捻入レヲナス 夕方早ク終ル

午後自分ハ讀書ヲシヨートシタガ頭ガ変デ出來ナカッタ

夕食後延次郎君ト夜店ニ行キイロハニテ馳走ニナル 桃太郎送ツテ呉レル

山県氏、シリندانーヘッドワザ、自動車デ持ツテ來テ呉レタ

▲▼24ページ▲▼ 大正7(1918)年1月23日(水)

天気 晴

午前お吉ト春千代ノ写真ヲ取ル 夜現象(ママ) 春千代ノダケガヨカッタ お吉ト信太郎ハダメ

午後上天氣ニナッタノデ塗料ヲヌルコトニシタ

▲▼25ページ▲▼ 大正7(1918)年1月24日(木)

天気 晴

プレーン塗料塗り終ル 井上神戸 夜帰ル 夜写真焼付ト現象(ママ)ヲナス
發動機完成 オイルポンプノギヤハ夕方出來ルトノコトデアッタ
山県ヨリ來信アリ

▲▼26ページ▲▼ 大正7(1918)年1月25日(金)

天気 晴後曇リ

朝阿部ヨリ二月三日飛行 一日三十日披露會ニ付其前ニ上京ノコトニ手紙來ル 夕方白水へ其由通知 成可ク廿八九日頃迄ニ引取ル様頼ンデヤル
午前エンジン機体ニ取付ケ後チ井上佐野ト測候所へ見學ニ行キ多少得ル處アリ 晝食後堺川ノ浪花瓦斯ニ行キ溶接機ノ説明ト價格ヲ聞キ江戸堀ノ帝國酸素アセチレン会社ニ行キ同様用件ヲナシカタログヲ得テ帰ル 讀書

▲▼27ページ▲▼ 大正7(1918)年1月26日(土)

天気 晴

終日自修論其他ノ讀書ヲナス 目ガ痛クナッタノデヤメタ

▲▼28ページ▲▼ 大正7(1918)年1月27日(日)

天気 晴後曇リ

終日佐野トボールトタンバクノ設計製圖ヲナス
夕食前関ノ叔母來ル 十一時前帰ル 酒ノ相手ヲナス 用件ハ西ノ延次郎君ノ自動車問題 僕ハヤメサセテ貰フコトニタノム
阿部ヨリ三十日披露會ニツキ廿九日中ニ來テ呉レトノコトデアッタ 金ソレ迄ニ送ルト
アツタガアト一日ヨリナイノニト思ツタ

▲▼29ページ▲▼ 大正7(1918)年1月28日(月)

天気 晴

今日モ製圖ヲナス 夕方終ル

夜阿部ヨリ○オクルスグコラレルカヘントノ電報アリ イツデモタアルト返電ス

京都ヨリ晝頃平岡君來 飛行ノ話アリ 大坂附近ニテ費用ヲ要ゼザル處ハ五百円ニテ費用飛行家持 其他ハ四百五十円ニテ費用向フ持 ニケ所連絡飛行ハ一ヶ所半分ヲ貰フコト

▲▼30ページ▲▼ 大正7(1918)年1月29日(火)

天気 晴

出發準備ヲナシ午前中工場ニ兄ヲ尋ネ金ヲタノミ帰宅 阿部ヨリノ送金ヲ待ツ 一向來ラズ井上君ト相談ノ上兎ニ角上京スルコトニシ八時三分ニテ二人出發 ヨク空イテ居タノデ充分眠レタ。飛行機ノコトハ佐野、兄、吉ニヨク命ジ尚タンバックノ見積リヲ取ルコトヲ命ジテ居イタ

▲▼31ページ▲▼ 大正7(1918)年1月30日(水)

天気 晴風ナシ

九時半着 鳥飼氏ニ入ル 阿部ニ電話ヲカケ來ル 三日ヤルコトニス 金ノコトハリシキリニツトム 然シ実費ダケハドウシテモ出ス様ニスルトノコト

晝食後日比谷ヨリ銀坐ヲ散歩シウエルト機販賣店ヲ一軒タツネ四時約束ニテスピードニ行ク 五時半阿部帰ル 會場ナル池洲ニ行ク 千覽氏ト入口ニ會フ 十一時開(ママ)散 面白カッタ 飛行記者團ノミ數見氏ノ出張教授ノ披露モアリタリ

▲▼32ページ▲▼ 大正7(1918)年1月31日(木)

十時両国發ニテ稲毛ニ下車 大口ニ行ク 折悪シク大工ニ拂フトノコトニ五十円貸ス 一列車オクレ大口ト武時半ニテ成田山ニ參拜 四時ニテ千葉ニ歸リ清宮ノ妻君ヲ見舞ヒ加納屋ニテ夕食スベク行キ白戸君ヲ招ク 十一時過ぎ白戸宅ニ行キ二時頃迄サワイデ眠リニツイタガ目ハツブツテモ眠レズ夜ヲ明ス

▲▼33ページ▲▼ 補遺

一月飛行ナシ

◆▼35ページ▲▼ 大正7(1918)年2月1日(金)

天気 晴

岸飛行場へ行ツモリニテ白戸君ト一所ニ來タガ今日ハ休ダロウトノコトニヤメニシテ助手一同ヘ十円ヤツタ

昨夜眠レナカッタノト酒ヲノミ過ギタノデ終日ボンヤリシテ居タ 晝食後井上山県ト三洋社ニ挨拶ニ行キ徒歩ニテ芝浦へ場所ヲ見ニ行ク。昨年ノヌレ米整理デ此前ノ場所ハダメナノデ其一ツ向ニシタ 広サモ広シ 北風ニハモツテ來イノ場所デアッタ タ、杭ガ多ノガ欠點デアッタ 白戸ハ晝食後帰ル

羽賀ニ行ツタガ主人不在 安部ニ行ク 井上山県コ、ヨリ遊ビニ行ツタ 來ル十一日二六新聞名前替ヘノ祝賀會ニ飛ンデ呉レトノコト 二百五十円 安イガヤルコトニシタ

九時半頃アンマヲ取ル内数見君來 十一時過ギ帰ル 会社ノコト万事ヌケ目ナキ様第一第二第三迄ノ策アルトノコトデアッタガドウタガ

三日當日夜僕ト阿部ノ名儀(ママ)ニテ桜井、大江、数見、外一名ヲ招待スルコトニナツタ 費用ハ向フテ出ストノコトダガ知ラン顔モ出來マイ

佐野、吉ヨリ來信アリ 平岡ノ方ノ話來ル 井上長ヨリ日本商事ノ話持チ上リ明日會フコトニス 今月ハヨサソウナリ

◆▼36ページ▲▼ 大正7(1918)年2月2日(土)

天気 晴風ナシ

佐野へ発信 夜手紙來ル 堺飛行ノ件手紙出ス 同時ニ打電ス

八時起床 四時頃カラ眠レナカッタ 顔ヲソリ朝食後鳥飼ニ行キ十一時井上來 中井氏都合悪シク晝食後行ク。當方ニモ話シアリ 商事会社ハ發動機ヲ取寄セ、當方ノ話ソレ迄ニマトマレバ發動機ヲユヅツテ貰フコト 當マトマラザレバ商事会社ト提携シテヤルコトニ話シス 中井氏明日來觀セラル、由 井上貞午後手傳ヒニ來ル アンマヲ取り九時頃ヨリ床ニ入り十一時眠リニツク

◆▼37ページ▲▼ 大正7(1918)年2月3日(日)

天気 晴後雨

四時頃ヨリ目醒メ六時井上君來 阿部君起キル 余ハ四時起床 自動車オソク九時漸ク出發 場ニ行ク 此時ヨリ空ヤ、曇リ來ル 白戸、鳥飼、お母サン、春子サン、加藤親

子、堤サン海野サン外大分知ツタ人ヤ知ラナイ向フダケ知ツタ人ガ居タ 意外二人ガ
沢山デタ 久シ振リナノデ注意シテ風向ヒニ出發 上昇力少ナカッタ 一二度キレタノ
デ場上ニ引返シタガアトヨカッタノデ墨田川ニソヒ上ル 月島上ニテ一度又キレタノデ
浅草迄行カズニ帰リ二三週(ママ)後着陸。池洲ニテ晝食皆ト共ニシ五時半開(ママ)散
帰宅 七時床ニ入ル

◆▼38ページ◆▼ 大正7(1918)年2月4日(月)

天気 晴

七時雨戸ヲクルト青イ日ガマシク。パット目ヲ射タ 気持ノヨイ朝デアッタ
入浴 日記 新聞。吉へ手紙ヲ書キ十一時仕度シテ三洋社へ阿部君ト行ク 大江、毛
利、数見氏ト自動車ニテ日本橋春日ト云フ料亭ニ上リ桜井氏ヲ待ツテ晝食ヲ馳走ニナ
ル 約一時間半。桜井氏ノ質問、博識サスガニ大会社ニ重キヲナス人ト思ツタ 又其服
ノお粗末ナノニハマス、敬服シタ。

吉野塗料店ニ阿部君ト共ニ行キ前ニテ阿部ハ二天ト六三四堂ニ行ク 数見氏ト会社計
画ヲ議シツ、共ニ鳥飼ニ行キコ、ニテ分カレル 岩橋君ヨリ電話アリ 明日午前中カ夜會
見スルコトニス 明日所沢行キノ予定ナリシモヤマトヨリ午後社長ニ會見ノコト申込アリ
テ中止ス。

夜山県、五平ト金音館ヲ見太田屋ニテ夕食 十二時床ニ入ル

◆▼39ページ◆▼ 大正7(1918)年2月5日(火)

天気 曇リ

曇リ 少雪降ル

七時起床 新聞 朝食後会社組織ノ目論書ノ下書ヲ作ル

散髪ニ行ク 井上ヨリ電話ニテ鳥飼ニ行ク 丁度十二時 石田君モアリ日比谷ノ松本ニ
テ食事ヲナシ打合セヲナス 石田氏先ヅ帰リテ電話アリ 一時半井上トヤマトニ行ク
阿部氏ニ會ヒ社長室ニ通ル 余ト同年ナリト 頗ル貧弱ナル社長振リナリ 代社長ニモ
會フ。飛行界ノ状況ト自分ノ希望ヲ述ベ何分宜シクト頼ム 社長ハ社トシテハ社會ニ対
シ面白クナイカラ社長個人トシテ富豪ニ三氏ノ意ヲ聞キヨケレバ余ニ招會(ママ)スベシ
トノコトニテ辭ス

三時白戸ト有楽町ニテ會フ 商事会社発動機注文ノ件井上ニタノム 中井氏明日重
役會議ノ上明後日否ヤ返スベシトノコト。

余ハ久シ振リニテ都筑氏ニ會フ後チ白戸ト今朝ニテ山田ト千覽氏ニ會フ 山田ノ発動
機買入レノ件 六時失敬シテ帰ル 食後シヤツヲ求メ兄ニ手紙ヲ出シ十一時床ニ入ル

◆▼40ページ◆▼ 大正7(1918)年2月6日(水)

天気 雨

所沢行中止 佐野ニ水上ノ件注意ヲ発信。お母サンヨリ電話アリ 午後二時鳥飼氏ニテ會フ約束 午前中会社ノ目論見書ヲ作ル

お母サン四時過ぎ漸ク來ル 道々両方カラ詫事ヲシテ後チ鳥飼氏ノ御馳走ニテ自動車ニテ丸万ニ行キ十円お母サンニ小遣ヲ上げテ帰ル 帰途約束ニテ八時半数見氏ヲ訪。根本的ニ提携スル件ニツキオタガヒニ語り會フ 余ノ計畫等モ話ス 決(ママ)局会社組織ニ対シ努力共(ママ)カスルコトニナル 阿部モ同席 成立ノ上ニ多少援助スルコト 数見君ハグレゴアヲ四千円トシ同額ヲ氏ノ権利株ニ貫ヒタシトノコト サレドホールスカット有ル間ハヨケレドモ賣渡後ニナレバ余ノ取ル處一ツモナクナルニ付其場合ハ同機ヲ六千円トシ氏ト半額ツノ権利株ヲ取ルコトニ話マツマル サレド会社組織ニナラザル貧弱ナモノニテハ左様出來難キハ勿論ナリ 明夜會見ニ決シ十一時半阿部ト帰ル 電車來ラズ寒カッタ

◆▼41ページ◆▼ 大正7(1918)年2月7日(木)

天気 晴

午前七時起床 井上ヲ呼びニヤリ讀書

十時井上來 上野ヨリ赤羽ニ行ク 道悪シク困難ス 漸ク岸工場ニツク 飛行場セマク之レデハ新機試験等思ヒモヨラザル處 井上中尉ノ飛バナイノモアタリマエト思ツタ。事務所ニ刺ヲ通ジタガ給仕一名出デ來リ要領ヲ得ズ 兎三角飛行機部ハ一人モ來テ居ラヌトノコト 何ニカ事情アルラシク感ジタ ヤット宗里君ノ住居ヲ聞キ行ツタガ風引デ寢テ居タノデ名ヲ云エバ氣ノ毒ト思テ引返スコトニシタ 井上君ハ昨夜カラ帰ラヌトノコト 人ヲ馬鹿ニシテ居ル。阿部ニ帰り井上君ニ中井氏ノ返ヲ聞キニ行ツテ貰フ 不在ナリシト

七時ヨリ井上下数見氏ニ行キ夕食ヲ馳走ニナリ会社ノ目論見書訂正ナシ阿部君ニ渡ス 十二時漸ク赤電車ニテ帰り床ニ入ル

◆▼42ページ◆▼ 大正7(1918)年2月8日(金)

天気 晴風強シ

十一時半所沢着 細村屋ニ入り晝食後協会ニ行ク 後藤君外二名ト後藤正雄君アリ會談後後藤君トスパットニユーポールヲ見ニ行ク スパット構造弱ワソウニ見エタガ、サワツテ見テ丈夫ナノニ驚イタ 小イサノハ予想以上デ成程一寸飛ベナイト思ツタ 機関鏡モ二種類見タ。スタンダードガ飛ブト云フノデ待ツタガ飛バナカッタ。風ナギノンビリシ

夕上天気デアッタ。後藤、田中、飯沼三君ト若葉ニ行ク アトヨリ佐藤君來 十時過ぎ
帰宿 床ニ入ル
支拂ヲ佐藤君ガスルトノコトデアッタガスグ宿ノ主人ニ拂ヒニヤッタ
井上ハツヒニ來ラズ

▲▼43ページ▲▼ 大正7(1918)年2月9日(土)

天気 晴風ナシ午後ヤ、アル

朝目サメルトトナリニ一人寝テ居ル 井上が來タノカト見ルト違ッテ居タ 後チニ聞ケ
バ昨夜ヨッ。ハラッテ帰ッテ室ヲ間違テ來タ人ダトワカッタ 二三回頭上ヲ通ルプロ。ペラノ
響キヲ聞イテ七時半起床 朝食後仕度シテ出様トスル處へ井上が來タ 協会ノ格納庫
ニ行クト今二人ガ練習中デアッタ ヤハリ後藤ガ一番上手デアッタ。井上君ニニューポ
ールヲ見セルベク隊へ行ッタガ隊デハ工合ガ悪イトノコトデ研究會へ行キ有川サンニ會ッ
テ氏ノ案内ニテニューポール、スパット、スタンダードヲ見ル。尚民間製作品買レルカニッ
ヒテ聞イテ見タ處大ニ奨勵ノ意味デヤクニ立ツダケノモノガ出來レバ飛行機デモ買フト
ノコトデアッタ 大ニ力ヲ得タ 再ビ協会ニ行ク 佐藤後藤両氏ノ練習デアッタ 佐藤
氏ニ井上同乗サセテ貰フ。三上綱吉氏へ手土産ヲ以テ行ッたら後チ停車場迄タバコヲ
持テ來テ呉レタ 四時十一分ニテ帰ル 井上君ハ目黒ニテ降り余ハ鳥飼氏ニ立寄ル 日
野氏ヨリ明日招待サレテ居ルトノコトデアッタ 白戸來テ居ルトノコト
白水ヨリ引取りニ來タトノコト ギヤラスグ送レト云ッテ來タ 小包デ間ニ合フカト聞イ
テヤッタ
出信五通 受信七八通アリ

▲▼44ページ▲▼ 大正7(1918)年2月10日(日)

天気 雨

降りソウモナイノデ九時宅ヲ出テ東京自動車ニ井上ヲ訪フ 居ラナイノデ鳥飼氏ニ行
キ手紙デ伊セ飛行ノ返ヲシタ 五百円デニ二三哩ノ處ハ場所サエアレバ連絡シテモヨイト
云ッテヤッタ
鳥飼氏ト日野氏ヲ訪 十二時約束ヨリ一寸一時間バカリ遅レタガ色々有益ナ話モ聞
イテ四時帰ル グレゴア手入ニ行ッテ居ルトノコトニ行ク 井上、山県二人アリ 橋善ニ
テ夕食 帰宅 講談俱樂部ヲ讀ミアンマヲ取り眠ル
大坂ヨリ引取人六人カラ來テ居ルトノコト マグネットモスグオクレトノコト二十一日ス
デカラニシテ貰フ様云ッテヤッタ 若シイケナケレバ買ッテ渡セト打電 ギヤート附属品
ハ送ッタ

▲▼45ページ▲▼ 大正7(1918)年2月11日(月)

天気 曇り

三時頃カラ風ツヨク組立困難ス 十一時頃ヤ、静カニナル。イヨ、ヤロートスルト例ノ捻ガユルンデシメルノニ困難シタ ヤット直ツタガ市街飛行ハ氣ニナルノデヤメ場ノ上ヨリ芝離宮方面迄飛行シタ 二回ヤツタ 第一回ハ大分ユレラレタ 丁度東風ガ北ニ変ル時デアツタ 二回ハヤ、静カデアツタ 今日ハ昇上(ママ)カモアツタシ思様ニ飛ベタ ヤハリ練習ガ第一ダ

見晴シニテ晝食ニマネカレタガ馬鹿ニシタ宴デアツタ。スグ出テ池洲ニテお母サンヤ大口加藤ト十林 鳥飼後チニ助手七名モ來リノム オワリテお母サントお春サント新聞ヲ見ニ行ツタ

▲▼46ページ▲▼ 大正7(1918)年2月12日(火)

天気 晴

七時起床 鳥飼ニ行ク ナニモ來テ居ナイノデ阿部ニ帰ル マグネット持チ帰レトノ電アリ 四時ニテ出發トキメ後事ヲ井上君ニス、ベテヲ依頼シ出發ノ旨打電ス。

四時東京駅發ニテ出發 阿部、數見、井上、山県、信田等ノ見送リアリ 大分コンダ阿部ヨリ四十円受取ル 残ノ内三十円熊ノ皮代外五十四円井上ニ渡スコト

▲▼47ページ▲▼ 大正7(1918)年2月13日(水)

天気 晴

六時過ギ大坂着 佐野ガ來テ居タ 電車ニテ帰ル

竹島ニ挨拶ニ行ク。兄モ居テ將來ノ話モ出近所デ二三台自動車ヲ買ツテ自動車屋ヲヤツタラトノコトデアツタガ自分ノ飛行機製作所ノ意見モノベルト、一度計算ヲ立テ、見ヨトノコトデアツタ イツレニシテモ五六千円ハ出ソウナ話デアツタ。後チ広瀬ニ行ク 白水來 飛行機渡ス 三千二百円受取り三百円マグネット渡サヌカワリナリト コンナコトナラ今日帰ルニモ及バナカッタノダ 夜早ク床ニ入ル

▲▼48ページ▲▼ 大正7(1918)年2月14日(木)

天気 晴

午前中手紙ヲ書キ其他ノ整理ヲナス 午後神戸ヘノームノ事聞キニ行ク 丁度沢野ガ居タノデ今手紙ヲ出ソウト思テ居タ處ダ 丁度ヨカッタトノコトデアツタ イヨ、賣ルコトニナツテホームスガ組立ノ爲メ持ツテ行ツタトノコト 期日ト賣ル方法ニツヒテハマ

ダ未定トノコト 兎二角同道シテ見ニ行ク 處ガ意外々々 一台サエ古イモノデシカモマ
グネトガナイ 今一台ト來タラシリンダーハ五本ヨリナクピストンハ一本モナカッタ 古
金同様ナモノデアツタ
帰途住吉ニ立寄ル夫人ハ又床ニツイテ居タ 主人ハ今日ハ寄合デオソクナルトノコトデス
グ帰ツタ

▲▼49ページ▲▼ 大正7(1918)年2月15日(金)

天気 晴

今朝水上ノ金ノ内井上、裏加藤ノ分七百五十円バカリ父ニ貰フベク交渉シタガ聞入レ
ナイノデシヤクニサワツテナラナカッタ
午後原稿ヲ書ク 夜八時書キ終ル
お徳ク帰りタイト云フノデ今夜出發セシム

▲▼50ページ▲▼ 大正7(1918)年2月16日(土)

天気 晴

九時半起床 終日ノーム五十二テ宙返用機ノ設計ヲナス 夜九時迄ヤル
夜姉ニ父へ話シテ呉レル様タノンダ

▲▼51ページ▲▼ 大正7(1918)年2月17日(日)

天気 晴

今日関鉄所へ行ッテ一ツ研究シテ見様ト思ツタガ余リ寒サガハゲシイノデツヒニ中止シ
タ。ソシテ夕方迄昨日ノツゞキヲヤツタ
夕方西ノ宅へ散歩ニ行キ夕食ヲ馳走ニナル
帰宅後裏ノ宅ニテ九時頃迄色々將來其他ニツイテ話シラス
岩橋ヨリ來信 井上中尉ヨリ近日友人高島君行クトノ來信アリ

▲▼52ページ▲▼ 大正7(1918)年2月18日(月)

天気 晴少曇 寒

時事 押川製鉄所長官自殺ス

今日モ非ニ寒カッタ 終日宅デノームノ製圖ヲナス

▲▼53ページ▲▼ 大正7(1918)年2月19日(火)

天気晴

今日ハアタ、カデアッタ 風モ静カニナッタ
午前中殆ンド小守リヲナス 午後住友銀行ニ行キ六百円受取ル 父ヨリ 帰リニ関鉄
工所ニヨリボールトタンバツク製作ニ関スル意見ヲ聞キ附近ノ同種ノ製造所ヲ見テ帰ル
夜清水來 同ジク事ヲ聞ク 十時頃帰ル

▲▼54ページ▲▼ 大正7(1918)年2月20日(水)

天気晴

朝食新聞後清水へ工場ニ見學 後千谷町へ機械見ニ行ク 無ナカッタ 帰途佐渡島ニ立
寄り商報ヲ貰フ。西店ニ行ク 來客多ク一時間程居タガ話セズニ辭シタ
帰リテ晝食後タンバツクボールトノ見積リヲ作ル 夕方終ル
山県ヨリ來信 返信 井上ニ發信
吉昨夜ヨリ熱ハゲシク終日床ニツク
夜ルナ。パークへ佐野、荒瀬ヲ連レテ行

▲▼55ページ▲▼ 大正7(1918)年2月21日(木)

天気晴

吉快方ニ向フ 余頭痛ハゲシク午後床ニ入リアンマヲ取ル 夕方ヨリ快クナル
夜黒岩涙香ノ捨小舟ヲ求ム
井上長一ヨリ報告アリ

▲▼56ページ▲▼ 大正7(1918)年2月22日(金)

天気 晴風強シ

四時半起床 六時港町發 車中捨小舟ヲ讀ム
十時四十分桑名着 高島君ホームニ迎フ 共ニ旅館江戸屋ニ到リ社長横山外一名ニ會
ヒ車ニテ城内ニ丁度消防隊ノ駛(ママ)査アリ 督部長郡長各町村長ニ挨拶ヲナシ飛行
場ヲ見ニ行ク 思ワシカラズ夕方方十万山ト云フヲ見ル 之レモ思ワシカラザリシ
夕方方七八軒挨拶ニ廻リ夕食後梅ヒヨニテ十一時迄遊ブ 社員三名ト

▲▼57ページ▲▼ 大正7(1918)年2月23日(土)

天気晴

風ナク小春日和デアッタ 八時起床 朝食後車ニテ昨日ノ場所ヲ見ニ行ク 長堤三千

間ナリト 其中程ニヤ、好イ處ガアッタノデソコニ決定シタ ノドカナヨイ日デアッタ。
木曾川ハ洋々トシテ流レテ居ル。地形ヲ見ルニ蠣ノ養殖ニハ好敵(ママ)地ダト思ツタ。自
分デアツテ見タイ氣ガシタ 晝食後社長外三人ト富田ニ行キ場所ヲ見ル 同町長モ同
道ス 後四五軒挨拶ニ廻リ五時五分ニテ帰途ニツク 龜山ニテ夕食 十一時港町着 今
夜ハ眠レナカッタ 三時頃漸ク眠ニツク
桑名ヨリ飛揚富田着 富田飛揚桑名着陸ニテ五百円。月中ニ高島君來坂 契約手金
受取ルコト 期日飛行ハ四月三日ノ予定
木曾川畔地藏堂前ニ巴(ママ)蕉ノ句 白魚ヤアケボノヤ白魚白キコト一寸 トアリタ
リ 白魚ハ當地ノ名物ナリト

▲▼58ページ▲▼ 大正7(1918)年2月24日(日)

天気晴

ノドカナ日曜日デアッタ

数見氏へ寄附不可ノ返出ス 阿部へモ同ジク 井上貞ニ返。山県へ發信 不在中ノ手紙
其他ノ整理ヲナシタ方松谷ト公園ヲ散歩シコーヒーヲノミ帰途本屋ニ立寄り三宅克
己氏ノ写真ノ写シ方ト黒岩涙香ノ死美人ヲ求め夜オソク迄讀ム

▲▼59ページ▲▼ 大正7(1918)年2月25日(月)

天気晴

今日モ春ラシイ上天気デアッタ

晝迄床ノ中デ死美人ヲ讀ミツクシタ 午後写真ノ写シ方ヲ讀ミ、夜写真ノ材料ヲ求め
ニ出タ 九時床ニツク
大西光蔵君へスピードト手紙ヲ出ス

▲▼60ページ▲▼ 大正7(1918)年2月26日(火)

天気晴

午前中大西、山西、山口、藤井靖、藤井甚へスピードト手紙發送

午後佐野ヲ連レテ天下茶屋方面へ写真ヲ写シニ行ツタ ドウ道ヲ間違へタガ田辺ノ方へ
出デ意ナ處ヲ写スコトガ出來タ 四時頃住吉ニ出テ參詣シテ一二枚写シ五時過ギ帰
宅 夜現象(ママ)ス

午後チ本屋ニ行キ飛行界ヲ求メル

兄今夜帰ツテ來タ 昨夜ツル姉ガ見ニ行ツテ大ケンカノ結果今日ハ朝カラ終日寢テ居
タ 血下リガシタトノ云ツテ居タ

▲▼61ページ▲▼ 大正7(1918)年2月27日(水)

天気 雨

朝入浴後飛行界ヲ讀ム 夜写シモノヲナス

▲▼62ページ▲▼ 大正7(1918)年2月28日(木)

天気 雪後曇リ

三時頃大雨デアッタガ朝起キルトスデニ一寸程ツモツテ居テ尚盛シニ降ツテ居タ

井上君ヨリタンバツクボルトノ圖來ル 鳥飼へ十八日電送ニテ呉レトノコトニスグ送ル

午後小細ニ見學ノ爲メ佐野ト九條ニ行ク 帰途余リ寒イノデー一杯ヤツタ

山県ヨリ鳥飼三百円借リタイトノ手紙ニ対シ返信ヲ出ス。外白戸、其他發信

夜青島カラ飛ビ出シデヲ讀ミ早ク眠ル

晝兄ニツヒニ出資ノ件話シタ 兄ハ自分ノ仕事ノ關係上竹島デ借リテ呉レルナトノコト

デ其變リ裏へ渡スモノヲ渡スカラ其内オレデ借リ先トノ飛行機ノ金モ皆貰ツテヤレト

ノコトデアッタ 兄ヨリ話シテ呉レル様タノム

▲▼63ページ▲▼ 補遺

十一日飛行

▲▼64ページ▲▼ 三月

今月中ニ住宅並ニ格納庫建築シ得ル様努力スルコト

▲▼65ページ▲▼ 大正7(1918)年3月1日(金)

天気 晴曇半バス

午前中写真ノ焼付ヲナス

午後塗料ノ研究

夕方裏へ行ク 姉一人ノ時吉ガ稲毛ニ小供ガアルノデハナイカト云ワレタ時ニハ自分デモ

顔色ガ変ルカト思フ程ギクツトシタガ無言デ押シ通シタ

夜氣ヲマギラス爲メルナパークニ行キ帰途南海食堂ニテ一杯ヤツテ帰ル

▲▼66ページ▲▼ 大正7(1918)年3月2日(土)

天気 晴

今朝床ノ中デ井上君ノ声ヲ聞イタ 神戸ヘ行ツタトノコト

磯部氏ノ会社大分進歩シツ、アリトノコト

今日ハ塗料デーデアッタ。エーテルヲマゼタラヨイモノガ出来タ

▲▼67ページ▲▼ 大正7(1918)年3月3日(日)

天気 晴

午前中写真焼付ヲナス

午後井上君來 東京ノ模様ヲ聞ク

数見君ノ方ダメ。ヤマトモダメ。日本商事モダメ スベテ面白カラズ。制作業モボールト
タンバックハ極メテ少イ由 之レモ非(ママ)観説デアッタガ飛行機ノ注文ヲ取ル前提トシ
テヤルダケノ希望デアアルノデ困難ハ目ニ見エテ居ルガ困難ヲ切りヌケルダケ一ツ努力仕
様ト決心シタ

山県カラグレゴア四千円デア買ヒニ來テ居ルトノコト 今日ハマダ返事ガ出セナカッタ

夜六所ノ叔母ノ葬式ニ行ツタ

帰ツテカラノーム五十ノ設計ヲヤル

井上タ方カラ神戸ニ行ク ワイマーク件頼ンデヤル

▲▼68ページ▲▼ 大正7(1918)年3月4日(月)

天気 曇リ夜雨

山県稲垣ニ返出ス

午後兄ノ處へ行ク 金ノ件請求ス 中々一寸ヤツテ呉レソウモナカッタガ兎ニ角早クヤツ
テ呉レル様タノム 竹島ハヤメテ呉レトノコトデアッタ 今一度小主人ニ會ツテ話シヲシヨ
ウト思ツタ

今日ハ製圖モ一寸ヤツタダケ。今頃少シモ脳ガ明キリシナイノデ閉口ダ

夜井上下佐野ト三人デ花月ノ落語ヲ聞キニ行キ帰途南海食堂デーパイヤツテ帰ル

▲▼69ページ▲▼ 大正7(1918)年3月5日(火)

天気 曇リ

終日ノームノ製圖 夜モヤツタ

鳥飼氏ヨリ百五十円ダケ電報デ送ッテ呉レトノコトデアッタガ明八時ニ出テ電報ガ三時三十分ノ受付ケデアッタ 然シ金六井上君ニ返シテナイノデ色々々々未親父ニ話シテ出シテ貰フコトニシタガ時間ガステニオソイノデ明日オクル旨打電ス

▲▼70ページ▲▼ 大正7(1918)年3月6日(水)

天気晴

朝兄ヲ呼ビニ行キ父ト相談ノ上漸ク金ヲ出シテ貰フコトニナリ佐野君ニ送ッテ貰フ 十時頃井上下宅ヲ出テ神戸ニ行ク 沢野氏ニ會フ マグネットアッタトノコト イヨ、入札ニキマッタ由。後チ井上君ニ又行ッテ貰フ 最(ママ)非ホシケレバ入札日ニナントガシタラヨカロウトノコトデアッタ

晝食後井上君ノ姉ヲ見舞ヒ三ノ宮ニテ分カレテ帰ル。若旦那ノ兵隊サンヲ求メテ車中帰宅後モ讀ム

▲▼71ページ▲▼ 大正7(1918)年3月7日(木)

天気晴

昨夜中ニ鳥飼氏ヨリ二通ノ電報アリ 今朝返事ヲ出ス 四千円現金引替間違ヒナケレバ賣ルト出シテ手紙ヲヤル

夕方マグネット一個手数料トシテ呉レトノコトニ承知

午後西ノ宅ニ行キ後チ新川ノ写真機屋ニ行ツタガ面白クナク朝日座ノニコ、大會ヲ見タ 之レモヨイノガナカッタ

夜裏ノ宅ニ行キ姉トシバラク話シテ帰ル

▲▼72ページ▲▼ 大正7(1918)年3月8日(金)

九時頃起床後塗料ノ研究 ゼラチン失敗ス 井上君午後來 佐野ト平岡ノ梅ヲ見ニ行ク マダ早カッタ 写真機ヲ持ッテ行ツタガ何ニモ写サナカッタ

暗リ峠ニ至リ昔ヲシノブ 工場ガ皆大キクナッテ居タ ソシテ数ノ増エタノニハ驚イタ

夕方帰坂 藤井写真機店ニテ写真機ヲ買フ 桑名ヨリ十五日迄ニ最(ママ)非行クカラ待ッテ呉レトノ手紙ガ來タ メタルヲ贈ルノ花環ガニツニツドウノト書イテアッタガ契約サエキレイニ履行シテ呉レバソレデ沢山ダ

夕方鳥飼氏ヨリマグネット一個手数料ニホシイトノコトニ承知ノ旨返スル

▲▼73ページ▲▼ 大正7(1918)年3月9日(土)

天気晴

今日八午後一寸製圖ヲナス

夜裏ノ内デ酒ヲ馳走ニナル

夜数見氏ヨリ來信 計畫ノ趣意書等ヲ送ツテ來タ 熟考ノ上返スル旨返信

▲▼74ページ▲▼ 大正7(1918)年3月10日(日)

天気雨

清平ト奈良ニ行ク約束モ雨デ止メ

藤原君來 晝食ヲ共ニス 神戸デ後援者ヲ得テ又ヤルトノコト

鳥飼氏ヨリ四千円現金間違ナシ其カワリマグネットクレトノ手紙來 豊ヨリ、オシイトノ手紙來ル

▲▼75ページ▲▼ 大正7(1918)年3月11日(月)

天気晴

一月上京以來ノ金銭出納ヲ整理ス

阿部ヨリ十五日發刊トノハガキ來ル 返事ニグレゴア賣ツタコトヲ云ツテヤル 又協会ノ

コトモ自分ノ意見ト一致シナイコトヲ書イテ数見君ハ傳言ヲタノンデヤツタ

午後製圖ヲナス

午前小供ノ写真ヲ写シ午後お吉ヲ写ス 夜現象(ママ) 皆ヨク影ツテ居ルニモカ、ワラズ

ヌケ過ギテウスクナルノハ現象(ママ)液ノ精ダロト氣ガツイタ

▲▼76ページ▲▼ 大正7(1918)年3月12日(火)

天気晴

今日ハ一寸製圖ヲヤツタ 夜写真ノ焼付ケ

夜店ヲ見ニ行キ佐野、井上下南海食堂ニテ一パイノム

沢村義太郎氏余ニ五百円ヲ一年間二分チ二月々贈リタイトノ希望ノ由 兄ヨリ話アリ

目下ノ考察中ノ計畫ヲ立テタル上、助力ヲアオグコトニスベク明朝兄ト同道 會談スベ

ク兄ト相談ス

神戸ノノーム卅日正午入札ノ由

▲▼77ページ▲▼ 大正7(1918)年3月13日(水)

天気晴

終日ブラ、何事モナサズ
午前工場へ沢村氏ヲ尋ネルベク兄ノ許ニ行キシモ先方不在ニテ中止
津田沼ヨリ返事來ル

▲▼78ページ▲▼ 大正7(1918)年3月14日(木)

天気晴

晝過井上來 スグ帰ル

今日ハ頭痛ガシテイケナカッタ。午後佐野ト天王寺附近ヨリ舍利寺へ写真ヲ写シニ行ツ
タガツヒニ何物モ得ズ帰ツタ

津田沼へ宅地ノ地價ヲ聞合セニ手紙ヲ出ス

夜磯部氏ノ空ノ戦ヲ讀ム

▲▼79ページ▲▼ 大正7(1918)年3月15日(金)

天気雨

四時ノ汽車デ高島君ガ來タ 契約ハ極メテ単簡(ママ)ニハコンデ二百五十円受取ツタ
ソレカラ佐野ト温泉ニ行キ帰リニヤヨヒデタ食 高島君ハ意外ニモロクオオレテシマッタノ
デ宿ヲ取り余等ハ井上君ガ來テシバラク居タ 一時頃帰宅 兄ハマダ帰ツテ居ナカッタ

▲▼80ページ▲▼ 大正7(1918)年3月16日(土)

天気雨

昨日ノ酒残ツテ終日氣持チ悪シク床ニ入ル

鳥飼氏ヨリ來信アリ返信ス 之レダケガ昨日ノ仕事デアッタ

▲▼81ページ▲▼ 大正7(1918)年3月17日(日)

天気晴

上天氣ニ朝湯ノ中デ裏ノ兄ト相談シ探梅ニ出ルコトニシタ 晝食後井上長君モ來タノ
デ佐野ト清モ行ツタ 目的ハ金熊寺 アマリヨクハナカッタ

清ガ帰りニエコタレタ。写真ハ四枚写ス 夜現象(ママ)ス 柳原來 現象(ママ)液ヲ作ル

▲▼82ページ▲▼ 大正7(1918)年3月18日(月)

天気晴

午前散髪 午後道頓堀附近へ写真材料買ヒニ行ク 夜焼付十数枚 成績ヨシ

▲▼83ページ▲▼ 大正7(1918)年3月19日(火)

天気晴

十時半宅ヲ出ス 松谷同行 神戸ニ行ク。ワイマークタレモコナイトノコト 大ニ有望トナル 三菱ニ發動機ヲ見ニ行ク 丁度試験中デアッタガ見セテ呉レナカッタ 技師長ラシキ奴頗ル人ヲ馬鹿ニシタ挨拶振リニ怒リ心頭ニ發シタガ余自身ニシカリ 余社会ニミトメラレザルモノ一曾努力ノ要スベキニ心付キ帰途岡本ノ梅園ヲ見ル 今迄ノ平岡金熊寺ノ内一番ヨイ様ニ思ツタ 佐渡島ニモアッタ 夫ハ心好イト見エテ床ニアッタガ起キテ居ラレタ

▲▼84ページ▲▼ 大正7(1918)年3月20日(水)

天気晴

午前八時 味ヲ井上君來 八時半出カケル
ワイマークニ行ク 田村君ト岩名君アリ。外ニタレモ來ナイトノコトニカフエーニ行キ井上君ヲシテ宜シク田村君ニ交渉セシム 井上七百五十円ニ入レ田村九百円ニ入ル 後沢野君ニウマクヤラレテ田村ツヒニ千二百円ニ買フ 余又シテヤラルノ觀アリ 田村ガ沢野ニ信賴シテ余ヲ別ニシタルハ馬鹿々々シカリキ 沢野夜菱亭ヲオゴル。余飛行機ダケナリ共注文取ルベク交渉シ彼レ承知セシニ又最後ニ立ツ 白戸ノ飛行機買フトノコトニツヒニ之レモダメ シリンダー二本ダケ貰フコトニシテ十一時帰ル

▲▼85ページ▲▼ 大正7(1918)年3月21日(木)

天気晴

午前九時頃ヒヨッコリ稲垣君ガ來タ 期シテ居タコトトテニ階ニ案内シ入浴ニ行キ公園動物園ヲ見テ帰り晝食。余酒ノンダノデー睡ス 君ハ天王寺ノ友人ノ處へ行カレタ。ガ不在ニテスグ帰ル 四時頃ヨリ佐渡島ニ場ヲ見道頓堀ニ出テ朝日座ノ活動七少年ヲ見名物蠣料理ヲ喰ヒ夜帰宅
岩名君來テ居タ。藤原カラオドカサレテアヤマリニ來タノデアッタ 喰ヘナイ代理ダ

▲▼86ページ▲▼ 大正7(1918)年3月22日(金)

天気晴

今日ハ和歌山見物ニ行ク 住吉ニテ乗替ノ時間ヲ利用シテ参拝 公園見物 和歌浦ア

シベヤニテ晝食 留、増、光、三人トモ出テ來テ先キノ面白カッタ話デニギヤカニ晝食ヲ終ル 紀三井寺ニ参拜 梅が大分咲イテ中ニハ満開ノモノモアッタ 帰途濱寺ニ立寄り 帰坂 七時頃

夜藤原君來 井上佐野、荒瀬モ居タ ニギヤカデアッタ 後チ今日ノ写真ヲ現象(ママ)ス 平岡ガ井上君ノ知人ノ處デ僕ニ關係アルモノノ如クニシテ五円借りタマ、トノコトデアッタ 井上君ガ拂ツテ來タトノコトニ僕ガ出スコトニシタ

◆◆87ページ◆◆ 大正7(1918)年3月23日(土)

天気 晴

神戸行キ 朝温泉ニテ朝食 中正夫君來 一兩日中ニ上京スト 晝食後佐野ト三人出ル 布引諏訪山海岸通り楠公ト見須磨寺ニ青葉ノ笛ヲ見テ舞子ニ行ク 海岸ト松ノ間へ人家並列シテサナガラ海ヲ見セジトワザト垣根ヲメグラセタル如シ 失望シテ神戸ニ帰り丸三ニテ神戸肉ヲ馳走シ夜十時帰宅

兄何ニカ不平アリ余ニ云ヒガ、リス。近頃見物ニ歩ルクノワツルガ心ヨカラズ思タノデアロー 然シスグ中ナオリハ出來タ。吉又寢テ見タノデ兄ノ腹イセ ウントイジメテヤル 永ク泣イテ居タ様デアッタ 何ンナ心持チデ泣イテ居ルカハ分カラナカッタ

◆◆88ページ◆◆ 大正7(1918)年3月24日(日)

天気 晴

十時頃出宅 島津ヲ訪フ 不在。大坂城ヲ見ル 梅田ヨリ箕面ニ行ク モミジモ桜モ梅モマダ皆早カッタガ楓ノ細枝色付キテキレイデアッタ

宝塚ニ行キ晝食後四時帰ル 稲垣氏ハ京都ニ行ク 明日各務ヶ原ニ行ク予定ナリシモ稲垣氏十一時ニ帰ラズ止メト思テ床ニ入ル 火事アリソコへ同氏帰ル ヤハリ行クコトニス 井上下神セシモ田村ヨリ渡スナトノ電報アリ呉レズトノコトニスグ手紙ヲ出ス

◆◆89ページ◆◆ 大正7(1918)年3月25日(月)

天気 雨

終日宅 トランプナドヲス 晝前小西某來 エルブリッジ發動機見ニ行ク 高津宮下デアッタ處ガ發動機ヲ今何處カ玉造ノ方へ持ツテ行ツテナイカラ次ギニシテ呉レトノコトデアッタ 僕ハ小西迄六百円ト外二百円小西ノコミッション合計七百円ナラ(但シ完全デアリ附属皆付ケテ)買フト云フコトニシタ

夕方渡辺ト云フ稲垣君ノ友人ガ來タノデ夕食ヲ共ニス

藤原ヨリ手紙來 京都ノ稲垣ガマダヤツテ呉レトノ依頼状アリ ヨコシテ居ルノデ見タ

▲▼90ページ▲▼ 大正7(1918)年3月26日(火)

天気 曇り

キレイニ晴レテ居タノデ稲垣君ト入浴朝食ニ行ク 帰リテ日記ヲツケル 豊ヨリ手紙來急ニ考ヘ直シテ各務ヶ原ニ行クコトニシタ 汽車八十一時四十四分梅田發 犬山行キニハドコデ下車スルカラ案内所デ聞クト尾張一ノ宮ガヨイトノコトニ一ノ宮ヲ買フ 稲垣君ノ友米田君ニ會フ 卒業後ハ海軍航空隊ニ入ル予定ナリト 氏ハ神戸ニ行ク ホームニハ先着ノ渡辺君アリ 車中トランプヲ遊ブ 京都ヲ過ギテヨリ天候儉(ママ)悪トナリ雨シキリナリシモ関ヶ原ニテ雲間青空ヲ望 天気関ヶ原トシヤレル

稲垣君川河(ママ)ノ増水ヲ見テ犬山カラ木曾川ノ渡シガ出ナイカモシレヌトノコトニ大ニ迷ヒツヒニ岐阜下車 駅前トラヤニ入 ビールヲノミツ、様子ヲ聞ク 毎朝自動車行クガ六人乗レテソレハ将校ガ乗ルコトニナツテ居ルトノコトニ宿ヲ聞キ其自動車ヲヤトヒテウ沼ナル大黒屋至ル時七時十分 軍人ノ靴多シ 室ナシトノコトナリシモ自動車デ來タコトト名刺ニ見セテヤット物置ラシイ處ニ入レラレル 野宿ヨリマシダ 井上少将田中館徳川サンモオラレタ 徳川サンニ面會ヲ求メルト明日ニシテ呉レトノコトデアッタ 九時床ニ入ル

▲▼91ページ▲▼ 大正7(1918)年3月27日(水)

天気 晴

四時半起床 仕度後五時半出ル 天高く晴レ清々シ 昨夜見覺エノ松並木ヲ進ム内左手ノ格納庫ヲ見ル 嬉(ママ)ビ勇ンデ畑道ヲムヤミニ進ム 飛行場ニ入ル モ式百馬力飛揚ス スパット其他見エズ 見物ラシキ人モ居ズ 飛行場又所沢ヨリヤ、セマシ 不思議ニ思フ内今飛揚セルモ式ハルカ西方ノ松林中ニ着陸セリ ヨツテ松林ノ向ニ飛行場アルヲ知り約千米突バカリ進ム ニューポールスパットノ勇姿ヲ見ル 所沢ト違ヒ場ノ取シマリ頗ルカン。刺通シテ機ニ近接スルコトヲ得 ニューポール先ガ二三分間試運轉ヲナシ出發予想程ニモアラズ。出發ハスローアリ余ルニナス故舵ヲ大キカリシ 隔(ママ)陸後ノ上昇カスミスナンノ其ノ 実ニ驚イタ 二三分ニシテ雲中ニ這入ッタ 此時西北伊吹ノ方ヨリ黒雲ムラ、昇ル 北風寒ムシ スパット稍ヤ長ク試運轉ヲナス 音スコブルヨシ。之レコソ如何ニト見ル中スタート 一度三隔(ママ)陸セズ上ゲ下ゲ四五回ニ及ンデヤット浮ク 昇騰力又少ナシ 低ク十四五分ニテ着陸 ウマカッタ コレオコノ着陸ノ仕方ナレバス。パッドデモニューポールデモ成ル程安全ダト思ッタ 其内ニューポールモ又帰り大キク一度ジャンプス 驚イタカシテエンジンストップシテシマッタ スパット長尾 ニューポール間カベ氏スグ帰ル 九時宿ノ拂シテ立ツ 以下三九〇頁

(900ページへ続く)

◆▼92ページ◆▼ 大正7(1918)年3月28日(木)

天気 晴

昨夜トナリノ居酒屋デサワガシテ三時頃迄ヨク眠レナカッタ

今日ハ晴レテ風モナカッタ 協会ハ飛ンダカ知ラ

九時起床 日記 朝食後十一時二十分ニテ發 桑名下車 伊セ新報ニ立寄ル 荷物モ昨日來タ由 佐野モ先刻江戸屋ヘ行ツタトノコトニ江戸屋ニ行ク 居ラナク後チ横山氏ト二人デ來ル 機ノ點檢ニヤル 余ハ明日限リノ阿部ヘノ原稿ヲ書ク 夕食後終ル スグ出ス。高島君ト新ラタニ入ツタ中山君來 又ノミニ行クトテ桜座ニ行ク 十二時帰宿 床ニ入ル 田村ヨリ機製作依頼ノ手紙頼 又白戸ヨリ賣渡シノ交渉ハ受ケタルモ材料ハアルガマデ出來テナイトノコト 田村ニ明日帰坂スルカラ一度會ヒタイト打電シテ居ク

◆▼93ページ◆▼ 大正7(1918)年3月29日(金)

天気 曇後晴

七時半起床 白戸阿部ニ發信 九時ニテ富田ニ行キ飛行場ヲ見ル ヤハリ以前ノ場所ヨリナカッタ

佐野ニ設備ノコトヲタノンデ十一時ノ列車ニテ四時湊町着。夜オソク井上來 昨夜タノマレタ自動車ノ件ヲ話ス。夕方田村ヨリ又來信 シリンダー貸スカラ買ワナイデ呉レトノコト 尚一度來談ヲ請フ旨書イテアッタノデ明日行クコトニシタ

◆▼94ページ◆▼ 大正7(1918)年3月30日(土)

天気 雨後チ晴

小雨ノ中ヲ九時半ノ急電ニテ出發 十時半淡ノ輪着 二時出船ダトノコトニ旗亭ニ入り晝食

二時半洲本着 宿ヲ取り直チニ山崎ニ行ク 田村飛行機云々ノ看板ガ出テ居タ 岩名モ居タ 發動機ノ手入レヲ終ツタ處デアッタ 闕伽坐庵ト云フニ導カレ茶ノ御馳走ニナル 田村ノおバースンノ妹サンダトノコト 尚先山ノ箸ヲ貰フ 風影絶佳デアッタ 後田村ト二人デホテルニ行キ夕食ヲ馳走ニナル

結局白戸ノ機体買入ノコトニ結(ママ)シ他ノモノハ買ワナイコトニス。シリンダー二個ヲ借ルコトニシタ 賣ツテ呉レト頼ンダガ万一自分ノガ壊レタ場合又ハ何ニカノ都合デ一台マトマル場合ニノミ返シテ呉レトノコトデ借リルコトニシタ

宿ニ帰り浪六ノ落花狼藉ヲ讀ム 一時頃眠ル

▲▼95ページ▲▼ 大正7(1918)年3月31日(日)

天気 晴

六時二十分前起床 兵庫廻リノ船ニノル 六時二十分發 波ハ静カデヨカッタ 十二時築港着。船中田村ノ後見影山ニ會フ 白戸ノ處(行クラシカッタガ云ワナカッタノデ船中ニア直チニ白戸宛ノ手紙ヲ出シ書キ帰宅後梅田込入レニ行ク 帰途高左右ニ高ヨリ立寄リエルブリッジノ所有者ヲ知ルコトガ出來タ

▲▼96ページ▲▼ 補遺

飛行ナシ

予定実現出來ズ

▲▼98ページ▲▼ 大正7(1918)年4月1日(月)

天気 晴

時事 後藤正雄氏協会モ式ニテ六時三十分間ニ所沢大坂間ノレコードヲ作ル
晴レテ風ナシ。藤原君寢テ居ル間ニ來ル 母ト分カレルコトナッタノデ小使ヲ貸シテ呉レトノコトニ有リ合セノ十円ヲ貸ス。後藤氏ノ出發ヲ新聞社ニ聞合セタガ不明ニテ練兵場行キヲ中止シ晝食後高松氏ヲ訪フ エルブリッジ讓受ケヲ乞フテ帰ル 桑名ヨリ帰坂後込ニ森田ト想(ママ)談シテ居クトノコトデアッタ
後チ氏神ト母ノ墓ニ参リ明日ノ準備ヲナス

▲▼99ページ▲▼ 大正7(1918)年4月2日(火)

天気 晴

四時半起床 仕度シテ六時ニテ出發 十時四十分着 豊ニ久シ振リニテ會フ 晝食後父ハ番取ニ行ク 鳥飼氏來 二時飛行機ヲ場ノ近クニ運ブトノコトニ皆行ク 自分モ鳥飼氏ト場ニ見ニ行ク 写真ニ枚取ル。四時過ギ機來ル 試験(ママ)轉ヲナス 頗ルヨシタ方帰宿ス。父又帰ル

▲▼100ページ▲▼ 大正7(1918)年4月3日(水)

天気 晴曇雨

二時三時四時漸々目醒メテ夜ハ明ケタ 雲低クアヤシカッタガ後チ晴レル 皆ハ六時ニ

行ク 余六七時二行ク 組立テヲナシ九時井上佐野富田ニヤル 十一時風ナク日ウララカナリ 十一時十分出發 場上ヲ一週(ママ)ノ後チ富ニ向フ 場上三四週(ママ)ノ後チ着陸 約十五分 晝食ヲ馳走ニナル内場合乱レテセイリキ整理ニ困難ス 一時暗雲西風ヨリミナギリ雷鳴アリ イソイデ機上ノ人トナリ桑名上空ヲ一週(ママ)シテ場上一ノ高ク低ク飛ンデ着陸 二十分間 スグ分解ス 此時ヨリ雨フリ時デ雷鳴アリ スレナガラ片附ケ終ル頃二人ハ富田ヨリ帰ル 富田ニテ川島ニ會フ サイダーヲ貰フ 飛行機ハ福永ガ買フノダソウダ 本人來 處ガ金ヲ千七百円ヨリ持ツテコナイトノコトシカモ濱松ノ銀行ノ小切トノコトニ機ハ鳥飼氏ニ預ケ千七百円へ手金トシテ明後日鳥飼氏受取ツテ送金スルコトニシアトハ一週間内ニ出來ルトノコト 余上京ノ上取引スルコトニス。

影山氏來 白戸ヨリノ手紙持參 今迄ノ話ヲ皆シテ注意シタ
鳥飼氏夕方出發 豊十時二十分ニテ帰ル

◆▼101ページ◆▼ 大正7(1918)年4月4日(木)

天気晴

七時半起床 各所ノ禮廻リヲナシ新報社ニモ立寄ツタガ誰レモ居ナカッタ 十時四十五分ニテ出發ス 皆ハスグ帰坂 余ハ父ト町屋ニ行ク 夕方六時デ帰ル予定ナリモ止メラレル 写真ヲ写シテヤッタ 夜オクメ姉サンニモ會フ

◆▼102ページ◆▼ 大正7(1918)年4月5日(金)

天気晴

朝起キルトスグ浜ヲ散歩シ帰リテ朝食後スグ車ニノリ九時五十五分ノ汽車ニテ出發ス 二時帰坂後手紙ノ整理ヲナス 夜写真現象(ママ) 藤原君來 僕ニ一言母ニ語ツテ貰エバウマク五千円位出來ルト頼ミニ來タノデアッタ

稲垣ヨリ又々訪問飛行ノ事ヲ云ツテ來タ

信太郎昨二足バカリ徒イタトノコト 今日ハ頭バカリ前ニ出シテダメデアッタ

◆▼103ページ◆▼ 大正7(1918)年4月6日(土)

天気曇リ後雨

朝食後高松氏ヲ訪フ 先日ノ方ガ一兩日中ニ話ガ分カルカラソレ迄待ツテ呉レトノコトデアッタ。帰途西店ニヨル 店ノ有様モ大分変ツテハイカラニナツテ居タ 店員モ増シテ居タ 明朝會談ノ予約シテ帰ル途ニテ晝食 朝日座ノ活動ヲ見テ夕方二時半帰ル 雜誌其他ノ整理ヲナス 夜写真ノ焼付ヲナス

▲▼104ページ▲▼ 大正7(1918)年4月7日(日)

天気 雨

温泉二行キ朝食後九時西店二行ク 二三分ニシテ主人來 色々陳述 一万円ノ内四千円有ルカラ残り六千円ノ半分三千円借用ノコトヲ申込ム 一寸六ツケ敷イトノコトガ一度竹島トモ想(ママ)談シテ見ルガ先ヅダメト思ツテ居テ吳レトノコトデアッタ ガツカリシテ帰途工場ニ兄ヲ訪ヒ晝食ヲナシ竹島ノ主人ニ一ツ話シテ見テ貰フベク話シ結局僕自身明朝話シスルコトニナッタ 夕方帰ル
鳥飼氏へ○マダトレヌカト聞ク 明日送ルトノ返アリタリ

▲▼105ページ▲▼ 大正7(1918)年4月8日(月)

天気 雨

腹痛ク九時過ギ迄床ニ入ル 後チ起床 竹島主人ニ出資ヲ乞フベクニ回行キシモ來客アリ。其意ヲ得ズ 晝食後工場ニ行キ兄ニ又頼ム
高松氏ニ電話ニテ先方ノ返事アリシヤ否ヤヲ聞ク ナシトノコト 行キテ話シヲナス 九百円ニテツヒニ買受ケルコトニス 明日試運轉ノ上引取ルコトニシテ帰ル。父夕方帰坂ス 夜腹尚ホ悪ルク床ニ入ル

▲▼106ページ▲▼ 大正7(1918)年4月9日(火)

天気 晴後雨

九時頃高松氏ヲ訪ヒ共ニ玉造ノ山縣ト云フ石驗(ママ)製造屋ニ行ク ソコニ發動機ガアツタ 試験台ニノセ廻轉サセル キレルノデカーブレータヲ調ベルトパッキンノクズノ様ナモノガ出タ 又ヤル 調子ハヨカッタガ時々バツ、ト止マリツヒニ廻ラナクナッタ ヤ、ンシバラク分カラナカッタガマグネットノコンタクトブレーカー内ノ折(ママ)續片ノネジガユルンデ其爲メデアルコトガ分カッタノデ試運轉ヲ中止シ引取ルコトニス。井上君ト晝夜銀行ニ行キ金ヲ受取り井上君ニ持ツテ行ツテ貰フ 余ハ高左右ニ行ク カーチス七十五野島氏ノ分今日ハ三十円ダト云ツテ居タ ヤッコサンカケ引ノエライヤツダ
夜八時三分ニテ出發 發動機ハ今日スグ引取ツテシマッタ

▲▼107ページ▲▼ 大正7(1918)年4月10日(水)

天気 雨

九時半東京着 十二時稲毛着

今日ハ大口一家ノ待遇ハ馬鹿ニヨカッタ 何ンダカ気持チガ悪ルイ 十四日落成式ヲヤルトノコト 後チ墓参ヲナス 大口ハヤリ稲毛ニシロトノ意見デ津田沼ノ地所ナド坪一円位ノモノダナンテヒヤシテ居タ 坪一円ナラ畑ダガ 後チ格納庫ノ場所ヲ見テ徒イタ 家ヲ健(ママ)テルノハ畑ノ中ヘスレバ地所ヲ買ツテモ返ツテ安クツク様ニ思ツタ。夜一杯馳走ニナリ床ニツク 九時

▲▼108ページ▲▼ 大正7(1918)年4月11日(木)

天気 雨

八時起床 十時ニテ上京 鳥飼ニ行ク 金今ニ三日トノコト 白戸ヨリ電話アリ 今夜六時立ツトノコトニ三時頃ヨリ上野ノ丸万ニ行キ余オゴル 白戸ノ妻君ト助手一名出發ヲ見送ツテ妻君ト電気博ヲ見後チ加藤ニ行キ百円プロペラ残金ノ外余リハ檜材料代トシテ預ケル 十一時出テ新宿ニ行ク

▲▼109ページ▲▼ 大正7(1918)年4月12日(金)

天気 晴

七時起床 八時鳥飼ニ行ク 十時ノ列車ニテ津田沼ニ行キ場所ヲ見ル 格納庫ノ位置其他都合ヨカリシモ舟道アリテ飛行機ノ出入リ便ナラズ 南下シテ鷺沼ノ南端ニ至ル 飛行場少シ汝ノ干キ方少ナキ様ナレドモ丁度貸家モアリ 格納庫ノ位置モヨイ 鳥飼氏シキリニ急イデ、ツイニ之レニ取キメル 家賃五円ナリ 沼千四百四十番地 ソレヨリ徒歩ニテ稲毛ニ帰ル ソコヘ丁度千葉ノ頭ガ來タノデ頭ニ相談 明朝八時ニテ津田沼ニ行クコトヲ約ス 夕食後スグ一寸横ニナツタラ眠ツテシマッタ

▲▼110ページ▲▼ 大正7(1918)年4月13日(土)

天気 雨

八時四十四分ニテ千葉ノ頭ト共ニ津田沼ニ行キ吉野サンニ札ヲ述ベ家ニ行 主人ハスデニ東京へ帰ツタトノコト 格納庫ハ二棟並ベテ健(ママ)ツコトニナツタ 約三百円位カヽルトノ予算ニテ余ハ上京 鳥飼ニ行キ晝食後阿部ニ行ク 五時頃阿部帰宅 夕食後両国駅前ニテ宿ヲ取ル。八十年後ノ世界ヲ讀ム

▲▼111ページ▲▼ 大正7(1918)年4月14日(日)

天気 曇少雨

晴レソウニアツタガ晴レナカッタ 今年ノ花見ハ然々(ママ)駄目

九時頃鳥飼ニ行キ十時ノ汽車ニテ福永六津田沼へ 鳥飼ト余ハ稻毛へ 二時頃鳥飼帰京
加藤親父ハ寢テシマッタノデ大口ト二人デ千葉へ行ク 大口買物ノ爲メ祝トシテ其買
物ノタシニ十円ヲ大口ニ贈ル 白戸ニ行ク 本日無事飛行セリト 藤岡ト云フ新練習生
ガ來テ居タガ帰京シタ 他ノ練習生モ一人モ居ナカッタ 夕食後九時ノ汽車ニテ帰稲
ス 後チ明日二百名バカリノ客ニ対スル準備ノ手傳ヒヲナシ十二時床ニ入ル

▲▼112ページ▲▼ 大正7(1918)年4月15日(月)

天気 晴

昨夜ノ大雨デ今日ハ上天氣ニナッタ

八時四十四分ニテ上京 太田工場ニヨリ佐藤ニヨル 佐藤不在 鳥飼ニ行ク 稲垣君來
タトノコト

セールフレザーニ行ク 陸海軍ノ証明ガナクテハコマイトノコトデアッタ

後チ鳥飼、山縣、池田、青島、信田、トアスカ山ヨリ上野ニ出テ丸万ニテ食事シテ帰ル
アスカ山ハ花吹風雪ノ如ク変装セル人ノ波ニギヤカト云フヨリムシロ、ゴチヤゴチヤト云
フニ如カズ 変装ガイタツラニ下ヒテ居ルノガキタナカッタ ムシロ不快デアッタ

太良左エ門夕方來 飛行機積込ム

余ハ七時五十分ニテ帰稲 スグ床ニ入ル

明日金送ルトノ打電アリタリ

▲▼113ページ▲▼ 大正7(1918)年4月16日(火)

天気 晴

八時四十四分ニテ上京 今日ハ出發出來ル予定ナリシニ○マダ來ラズ夕方津田沼ニ行
キ福永ニ請求ス 泊ル

浅野ニ行キ丁度アイシヨージノ薄板ガアツタノデ一クハリ買フ 尺平方七錢 桜井ニ行
キ一尺五ノ五寸ニ間半モノ一丁ヲ買フ 代百二十円七十錢 佐藤ニ行キタンバツクル
百五十個注文ス

▲▼114ページ▲▼ 大正7(1918)年4月17日(水)

天気 晴夜雨

六時起床 山県ト帰京 ○五百円ダケ來ル 太良左エ門飛行機取りニ來ル ツヒデニ檜
材モタシテヤル

後チ阿部ニ行ク 不在 加藤ニ立寄り櫛ノ木ヲタノミ松本板金店ニテクムヲ聞キ合セ
帰宅 新橋下車 時事ノ千覽君ヲ引出シ日比谷ヲ散歩 太田ニテ夕食後帰ル 其間協
会ノ手ヲ経バ陸軍ノダイムラー百馬力四千円ニテ買ヘルベシトノコトニ明日聞イテ貰フコ
トニシタ
本日田村上京 鳥飼宅ニテ會フ
鳥飼宅ニトマル

▲▼115ページ▲▼ 大正7(1918)年4月18日(木)

天気晴

風呂ニ行キ散。パツ

十一時千覽來 今協会へ話シテ來タトノコトデスグ行ツテ見ル 高木、大原両氏アリ。
砲兵工廠モイソガシイ ドウダカ分カラヌガ話シテ見ルトノコト 宜シクトタノシンデ高
木氏ニ晝食ヲ馳走ニナル 食堂デ室田ノ社長ニモ會ツタ
三百円金モ來タノデ四時ニテ帰坂ス 阿部來 十円トラレタ

▲▼116ページ▲▼ 大正7(1918)年4月19日(金)

天気晴

六時半着 帰宅 入浴 伊勢ノ叔父ガ昨日來タトノコトデアッタ 手紙ヲ見テソレ、
返信ヲ出ス
不在中小西卯兵衛來 發動機ノ件ニツキ八ヶ間敷クドナリコンダトノコトニ之レモ手紙
ヲ出シテ居ク
午後父ト道具類ヲ求メニ出タ 帰途晝夜銀行ニテ現金七百円受取ル
夜兄ト島健君ト岩崎氏トルナパークニ行ク 骨(ママ)稽デアッタ 帰宅十時半 床ニ入
ル

▲▼117ページ▲▼ 大正7(1918)年4月20日(土)

天気晴

七時起床 荷造リヲナス 午後少時眠ル 夕食ハ裏デ送別ノ爲メ鳥ノ馳走デ西ノ親子
ト伊セノ叔父モ列席シタ
明日ハ金物屋ノ運動会ダトノコト

▲▼118ページ▲▼ 大正7(1918)年4月21日(日)

天気晴

荷物ヲ全部運送屋ニ運ンダガ貨車ガ廻ッテナカッタ

朝小西ガ來テ後チ高松氏ト中島君ヲ連レテ來タ 結局高松氏ノアツカヒデ廿五円與ヘ
タ

▲▼119ページ▲▼ 大正7(1918)年4月22日(月)

天気曇リ雨

晝頃カラ西ノ叔父伊勢ノ叔父立會ノ上ニテ姉ト兄ノ資産分ケヲナス 資産ト云ツテモ
ナニモナイガ広業所ノ五千円ヲ二分シテ分カルコト シカシ今金デナサズ其マヽニオキ今
後利益配當ハヤハリ二分スルコトニ決シ家ハ當分父ガ其儘ニ預リ兄ハ店 姉ハ裏ヲ借リルコ
トニ決ス

余ハ三時約束ニヨリ電氣旅館ノ支配人ニ會ヒニ行キシモ居ラズ 帰ッテ酒宴ニ加ワル
夜錢屋五兵衛ヲ讀ミ早ク床ニ入ル

▲▼120ページ▲▼ 大正7(1918)年4月23日(火)

天気曇リ

晝食後新報ノ數見君ヲ尋ネタガ不在 国民ノ町田君モ不在 ヤムヲ得ズ写真トメタル
ヲ国民ニ預ケテ朝日ニ行ク 小西氏モ不在 佐渡島西店ニヨル 來客アリ待ツコトニ時
間余 竹島主人來 アトヨリ初塚前中來ル ドウヤラ店ノ近頃ノ案件ラシイノデ町田
君ニ電話ニテ写真ノコトヲ話シテ帰宅 後今夜 荷物出タトノコトニ今夜出發スベク工場
ニ行キ兄ト沢村氏ヲ訪ヒ挨拶シテ佐々木、広瀬、竹島ニモ挨拶シテ帰宅 スデニ七時半
モーオソイノデ明日ニセヨトノ皆ノ進メデ中止スルコトニシタ

▲▼121ページ▲▼ 大正7(1918)年4月24日(水)

天気晴

今日ハ又日ガ悪イトテ明日ニナッタ

知覽ヨリ手紙來 協会ノ方砲兵工廠ト交渉シテ呉レル迪ニ進行シタガアトデ止メル訳
ニ行カナイカラ尚念ノ爲メヤツテ貰フカ尋ネルトノコトニスグ工場ニ行キ兄ニタノシダガ
困ルトダケデ止メヨトモ云ワナカッタガ不得要領デアッタ 夜父ニ話シタガ父ハ例ニヨッ
テ不服デアッタ 兄ニ千十円ノ預金通ヒヲ渡ス

▲▼122ページ▲▼ 大正7(1918)年4月25日(木)

天気晴

六時起床 八時二十八分ノ特急ニ乗ル喜代市兄井上荒瀬。汽車ハスイテ居タノデ楽デアツタ 本ヲ讀ンダリ機ノ構造ヲ考ヘタリ又ハ信太郎ト遊ンデタイクツナク着京 鳥飼ニ電話カケルト藤原ガ來テ居ルトノコト 何ンデモ井上中尉ニ飛行機ヲ買フ爲メナリトスグ兩國ニ行ク 丁度白戸ガ千葉へ歸リト一所ニナル
稲毛デハ大口夫妻ガ來テ呉レテ居タ
入浴後一杯馳走ニナリ床ニ入ル 十二時
馬鹿ニクタブレタ

▲▼123ページ▲▼ 大正7(1918)年4月26日(金)

天気雨

九時ノ汽車ニテ津田沼ニ行キ家ヲ見ル 今日ハ馬鹿ニセマイ様ナ氣ガシタ
海岸云々ノ件ハ思ツタ程デモナク村山ト云フ組長ノ宅ヘ一寸挨拶ダケニハ行ツテ居イタ
十二時ニテ上京 雨ガ降り出シタノデ鳥飼氏ダケへ行ク 千覽電話カケタガ居ナイノ
デハガキヲ出シテ居ク 藤原電話カケタガ居ナカッタ 夕食ヲ馳走ニナリテ帰ル
阿部ニ五十円貸ス

▲▼124ページ▲▼ 大正7(1918)年4月27日(土)

天気晴

今日ハ白戸ノ處デ終日遊ブ 夜活動ヲ見テ帰ル
頭ニ三百円渡シ白戸ニ二百円貸ス
今荷物ガ着イタトノコト
お吉東京ヘヤル お春サンニネクタイピンヲ貰ツテ歸ヘタ 上等デアツタ

▲▼125ページ▲▼ 大正7(1918)年4月28日(日)

天気晴

知覽カラ手紙ガ來ルカト待ツタガツヒニ來ラズ 九時八分ニテお吉ト母ヲ連テ津田沼ニ
行ク 大分方付イテ居タ。ソレデモ終日取方付ヲナシタ食ニ一杯ヤル 丁度千葉ノ頭モ
來タ 久シ振リデ自分ノ家ニナツタノデイ、氣持ニヨツタ 永々ノ居候モ今日カラハウ
ト手足ガノバサセル
福永滑走練習 大分ウマクナツテ居タ

▲▼126ページ▲▼ 大正7(1918)年4月29日(月)

天気 晴

八時起床 昨夜イ、気持ニヨツテシマッタ

今日ハ終日引越ノ通知状百五十枚ト手紙ナド出シタ

晝食後福永練習ス 一度同乗サセルツモリデ自分先ツ單獨ニテ津田沼ノ初飛行ヲ行

フ 野外ノ影(ママ)色ノヨイコト今頃ガ絶頂ダ 南風大分上ニハアッタ 着陸ハドーモヘタ

ニナツタ様ナ氣ガシタ 後チ豊サンヲ乗セプレーンノ上ニ(右側ノ前)ノセ直線ヲ行フ 帰

リニ左側ニ乗セタガ追風ノセイカ上ガラナカッタ トメタトキ後部ヲ廻サレルト同時ニ

前ガ重イノデテールガ下ガラナカッタ爲メサカ立チシテソリダケ折レタ 車輪一個スポ

ークガ折レタ 明日ノ練習ハ間ニ合フ 福永上京サス

九州ノ研究生小川君來 福永君ト共ニ帰ル。夜藤原君ニワカニ車ニテ向ヒニ來リ停車

場前ノ旅館ニ行ク 岸氏トラクター破壊シタトノコトニテ僕ノヲ讓ツテ呉レトノ話シ

三千五百円ニテ佐野ノ練習サセルコトヲ條件ニシテ約束ス 練習費用ハ藤原持チ

▲▼127ページ▲▼ 大正7(1918)年4月30日(火)

天気 晴後曇

六時起床 鳥飼ヨリ多少受取ルベク上京ス 明日持ッテ行クトノコトニ加藤へ堅木ヲ注

文シ阿部ニ行キ様子ヲ見ルニヤット三號ハ出セル運ビニナツタトノコト 雑誌三冊借リテ

協会ニ行キルノ一ヲ頼ンデ伊東屋其他ニテ買物ヲナシタ方帰ル 食後スグ床ニ入ル

山県上京セリトノーム五分ばかり廻シテ見タトノコト

▲▼128ページ▲▼ 補遺

三日二十九日飛行

三月ノ予定今月実行終ル

▲▼129ページ▲▼ 五月

エルブリッジ設計初

▲▼130ページ▲▼ 大正7(1918)年5月1日(水)

天気 雨

エルブリッジノ設計ニ着手ス 終日カゝル

豊夕方帰ル 昨日ノーム廻シタ處シリンダーノキーガ一本ナクナッタトノコト 明日分解ニ決ス
田村來 車輪二個渡ス

▲▼131ページ▲▼ 大正7(1918)年5月2日(木)

天気 晴

今朝吉ガ又小供ガ出來タラシイトノコトデアッタ 何ンダカ女ノ様ナ氣持ガシテナラナカッタ 他(ママ)分四月八日カ九日ニ這入ッタノデアロー スルト又一月頃ニ出ルコトニナル
八時十七分ニテ千葉ニ行ク 白戸ニテ田村君ニシリンダーノキーヲ一個貰フ 帰途色々買物ヲナシ一時過ギ帰ル
ノーム五十馬力分解ヲ手傳ヒ後チエルブリッジヲ分解ス 夜一杯ヤツテ床ニ入ル

▲▼132ページ▲▼ 大正7(1918)年5月3日(金)

天気 晴

風アリ エルブリッジノスケッチト組立
井上、荒瀬ヨリ來信 捻切バン送リタル由
藤原十日頃來ル由 助手三日出發セリトスト
頭三三十円渡ス
格納庫建築ノ爲メ五人來ル 昨日一人
夕方巳ノサンガ通ツタノデ草花ナド買フ
夕食後手紙ヲ一二枚書イテ床ニツク

▲▼133ページ▲▼ 大正7(1918)年5月4日(土)

天気 晴

機体設計ニ終日

晝過ギ頭ト大口來 十六日宴會前三四十円借リタイトノコトデアッタ
二人ガ帰ルトスグ白戸來 一杯ヤル 千葉オノ吾月デー人デヤツテ來タトノコト 藝者ノノロケニ大ニアテラレタ コソ、ヨクヤルモノダ 苦シイ中ニソシナ金ガドウシテ出來ルノガソレガ不思議デナラナカッタ 大分ニゴマカスノデアロウ
夕方帰ル 宮内先程遊ビニ來テ夕方帰ヘツタ
終日風ツヨカッタガ夜ニ入り尚ハゲシクニ時過ギ迄眠ラナカッタ
藤原ノ助手平居君晝前來ル 今夜ハ宅ニトメル

▲▼134ページ▲▼ 大正7(1918)年5月5日(日)

天気 晴後雨

朝風ハナイダ 顔ヲ洗ツタ處へ中島正夫トカ云フノガ來テ飛行機ヲ買イタイ金ハ三万
円位出ルトカ大キナ話デ金ノ來ル迄ドヨカ宿ル處ヲ世話シテ來(ママ)レトノコトデアッ
タガ危儉(ママ)ト認メタノデウマク東京へ帰シタ

エルブリッジ廻シテ見ル 舶來ノプロペラニテ九百五十回轉百六十瓦。ドウモカーブレ
ターガ少(ママ)イサイ様ナノデグレゴアノヲ借りテツケタ處千五十回轉ニテ百八十瓦
ヲ引イタガ風ハグレゴア位吹イテ居ルノニ引カナイノデ大ニ非感(ママ)シタ 夕方藤原ガ
來タカラスグ其話シラシタ ソシテ佐野ヲ加藤へプロペラヲ取りニヤル 明日ソレデモイケ
ナケレバ鳥飼ノノームヲ買フコトニスル様ニス 夜藤原、平居、山縣、五平、青島、福永ト
大勢ニテ食事ヲ共ニス

▲▼135ページ▲▼ 大正7(1918)年5月6日(月)

天気 晴

終日設計 エルブリッジ試運轉 舶來ノモノニテ二百二十瓦。加藤ノ分ニテ八百六十六
回轉ニテ二百四十瓦ヲ引ク 加藤ノ分廻轉ヲ出サシムベク先ヲ七十五ミリ切ルコトニス
山県今夜上京ス
羽田ノ長田來ル
好晴ニテ氣持ヨシ 福永練習ス

▲▼136ページ▲▼ 大正7(1918)年5月7日(火)

天気 晴

終日設計 夜ニ及ブ

海軍ノ卒業飛行アリ 朝ニ二台午後三台通ル

エルブリッジ試験 フレードノ先キ切り取ツテ九百四十六回ニテ二百廿五瓦ヨリ
引カズ中止ス

ノーム夕方試験ス 最大四百四十瓦 平均三百八十五瓦ナリシト ヤハリノームハヨク引
ク

今朝福永ノ練習ニ六分行キテ注意ヲ與フ 山県後チ歸リ來ル
静岡ノ平井來ル 福永君ハ長田ト合セ三人トナル

▲▼137ページ▲▼ 大正7(1918)年5月8日(水)

天気 晴

山県ノノーム完成 写真ヲ取ル

十時頃迄設計ヲヤツタガ、カタガコッタ精カ又目カラ頭痛ヲ初メタノデ中止シタ方アン
マヲ取ル 夜ヨクナツタ

頭へ四十円渡ス

明日今朝浦川へ返書投函ス 飛行機買ヒニ行クカラニ割カケテ居イテ呉レトノコトデ
アツタ

鳥飼氏今日モ來ラズ

▲▼1388ページ▲▼ 大正7(1918)年5月9日(木)

天気 晴

晴レ 風静カ 日モヨイノデ八時頃山県ノ機体引出シ先ヅ牽引力試験ヲナス 三百瓦
ヨリ引カズ心配ナガラヤル 沖ニ向ツテ静カニ滑走ヲ初ム ノーム七年振りナノデスイ
ツチノ練習ヲ二三回ヤル ヤガテ全速力デ走ル 安定ヨイノデ上ゲテ見タ 少シ力ガ足
リナイノデ左右動ヲヤツタガ一週(ママ)シテ着陸。機ヲ海岸ニ上ゲタ處へ鳥飼氏來 花
月ノ主人池田氏ハツ子皆來ル デ又一度一週(ママ)シタ 此度ハ以前ヨリ樂デアツタ
殊ニ着陸ニオイテヨカッタ グレゴアヨリ余程樂ニ着陸出來タ 後チ御祝ヲナス
午後藤原君帰ル 二千五百円受取り郵貯ス 内二十円佐野ニ與ヘル
山県ニ今日ノ祝トシテ五円

夕方格納庫モホゞ出來上ガッタノデ頭ニパイノマス 藤原ガ肉ヲ一貫分買ツテ來タノ
デ丁度ヨカッタ

夕方カラ千葉へノコギリヲ買ヒニ行ク

▲▼1399ページ▲▼ 大正7(1918)年5月10日(金)

天気 雨

シトシト降りテ終日降ツタ 今日ハ現圖引キニ一日ヲ終ル

▲▼1400ページ▲▼ 大正7(1918)年5月11日(土)

天気 晴

今日ハ金物ノ圖面ヲツクリ後チプレーンノ現圖ヲ引ク

格納庫手バナレニナル 頭來 自分ノ方ハ地ナラシヲ入レルト五百円一寸出タガ全部支
拂ヒヲスマセル 鳥飼氏ノ方モ勘定書キヲ造ル 豊帰京 モタセテヤル 夕方アンマヲ取
ル

喜代市兄ヨリ來信 兄ノ方モ金ガ入ルカラ余リ云ツテヤルナトノコト
今朝手金ガ這(ママ)ツタカラ入ラナイト云ツテヤツタバカリダ
夜一杯ヤルトスグ眠クナツテ床ニ入ル

▲▼141ページ▲▼ 大正7(1918)年5月12日(日)

天気 晴無風

ノーム試運轉 ヤケルト力ガナクナル様ダガ冷テ居レバ六十キロ引イテ居ルラシイ
飛行ハセズ

今日ハプレーンノ金物全部圖ガ出來タ

中島某今朝早ク又ヤツテ來タ 十時半頃東京ヘ行クニ五十錢貸シテヤル

阿部ノ初夏號來ル 貧弱ナリ

竹島高子娘(ママ)十七日婚札ナリト

▲▼142ページ▲▼ 大正7(1918)年5月13日(月)

天気 晴少雨

今日ハ足ノ金物圖

午後稲毛ノ母來ル

▲▼143ページ▲▼ 大正7(1918)年5月14日(火)

藤原一足先キニラジエータヲ持ツテ行ク 余七時五十分ニテ上京 佐藤ニテ買物 藤原
ニ一寸會フ ソレヨリ板金。桜井ヨリ鳥飼ニ行ク 板金ヲ預ケテ宮口ニ行ク 不在 加藤
ヲ訪ネル 中風ノ輕イノダトノコト 一昨日帰宅シタトノコトニ會テ五円見舞トシテ居
ク 一二ノ橋ノポールトヤニ行キ買物ト注文ヲナシ附近ニテ晝食後散髪 鳥飼ニ歸ル 藤
原板金持ツテ先キニ歸ル。大藪來ル パウリスタニ行ク 知覽ヲ訪タルモ不在。釘ヲ買ヒ
佐藤ニ立寄り品物ヲ受取り百円預ケテ帰宅 五時半
山県直線ヲヤリ福永ジャンプ三回ナシタリト

▲▼144ページ▲▼ 大正7(1918)年5月15日(水)

天気 晴

今日機後部ノ現圖並ニ金物エンジンシトヲ作り後チ機体ノハギモノヲナス

午後ヨリ風出テ練習中止

頭來リタルモ鳥飼氏ヨリ金來ラズ

知覧ヨリ島津ノローン買ワナイカトノ手紙アリタリ 一度會イタト返事シ旅費五円送
ル 藤井甚太郎氏ヨリ手紙來 法律ヲ專修スル爲KOノ寄宿舎ニ居ルトノコト 遊ビニ
來ル様手紙出ス

▲▼145ページ▲▼ 大正7(1918)年5月16日(木)

天気 晴

天気ヨシ 山県帰京

來客 高橋君來 夕食後帰ル 油屋ノ主人イモヲ持ツテ來テ呉レタ
金物ヲヤル

知覧ノ件ニツキローンノ連續時間價格等ニツキ大西君ニ聞合セノ手紙出ス

▲▼146ページ▲▼ 大正7(1918)年5月17日(金)

天気 雨

金物製作 ウェルトニヤル分組合セヲナス 晝食後藤原上京ス

山県足金物 自分操縦機

來客ナシ

來信井上貞ヨリ吉ニ來ル

▲▼147ページ▲▼ 大正7(1918)年5月18日(土)

天気 晴

午前中金物組ミ操縦機 晝食後千葉へ買物ニ行ク 父十五日大坂發 名古屋長野ヨ
リ都合ニテ松島ニ參リテ來ルトノコト チヤブ台茶碗等ヲ買ヒニ行ク 白戸ニ立寄ル 夕
方ノーム五十田村ノヲ試験ヲ見テ御馳走ニナリ練習生諸君一同ニ送ラレ買物シテ十
時七分ニテ帰宅ス 車居ラズ両手ニサゲテ帰ル

▲▼148ページ▲▼ 大正7(1918)年5月19日(日)

天気 晴

エルブリッジ試験 カーブレター鳥飼氏ヨリ昨日持參ノモノ附ス 全開出來ズ ヤハリ二
百三十瓦位下マリナリ 後チ、ゼススヲ附ス 二百五十瓦ヨリ六十瓦迄引ク 中止シテ
藤原君ニカーブレタートプロペラ買ヒニ行ツテ貰フ

午後白戸夫妻來 千覽モ來ル ノーム試験ス ドウモ少シ力ガ不足ラシカッタ 七八分
飛ブ

知覧ノ話 支那カラ金ヲ取ツテ居ルカラ安クスルダロトノコトデアッタ

▲▼149ページ▲▼ 大正7(1918)年5月20日(月)

天気 雨後曇

コモノ穴ヌキヲナス 佐野金物

山県朝白戸ニ行ク 帰ツテノームノプロペラケツル

夕方青島帰宅

午後藤原帰り千円受取ル 母堂モ來ラル 母堂ニ見セル爲メ千式百円機体製作費ノ内金トシテ八百円ト發動機買入立替金五百円ノ受取ヲ書ク 別二千式百円ノ受取リヲ書キシモ預カッテ呉レトノコトニ預ル

大口來 夕食後帰ル 五十円金シバラク貸シテ呉レトノコトデアッタ

發信 高松ハカタログ請求 日本自動車學校言(ママ)稿ノコトワリ

知覧ニ二千円位 尚以下ナラ尚ヨシトノ書面ヲ出シテ居ク

▲▼150ページ▲▼ 大正7(1918)年5月21日(火)

朝プロペラケツリ直シテ初メテヤル 以前ヨリモ悪ルクナツタ様ナ氣ガシタ 後チ山県直線二回ニテ終ル 一トニ番ガコンプレッションガ丸デナカッタ

初メハ勢ヨク上ガルガ少シ直線ヲ長ク高度ヲツクロウト思テモ中々上ガラナイ 追風デハ大分下ガタ

藤原買物ニ上京 アトニテ母堂ヨリ發動機ハイクラデ最初ニ來タ時金ヲ渡シタカドウカ飛行機ハイクラデイツニ出來ルカトノ間ヒニ打合セテアッタカラ飛行機ハ千二百円發動機ハ二千五百円 最初ノ時ニハ金貰ワナカッタト答ヘタガ此最初ノ時ニツイテハ打合セテナカッタノデ苦シカッタ 生レテ初メテノ苦シミデアッタ ウソハツキニクイモノダ 妻君ガ來タラ打開ケサセル必要ガアル 母堂ノ顔ヲ見ルト氣ノ毒デナラナカッタ 鳥飼氏來 晝前藤原ト一所ニ歸ル

▲▼151ページ▲▼ 大正7(1918)年5月22日(水)

天気 晴

山県一週(ママ)ス 今日ハ調子ガヨイガステキニ上昇力ガアッタ 半週(ママ)頃カラブツ、キレテ降リタ

福永モ直線ヲヤッタ マダフラ、シテ居タガ大分オチツキガアルノデ安全デアッタ

朝父ガアマリ遅イノデ大坂へ手紙ヲ出シタアトエヤッテ來タ 名古屋長野日光松島成

田へ參ッテ來タトノコトデアッタ

昨日稲毛カラ夕方ヒヨ子ヲ八ツ持ツテ來テ呉レタ 藤原ノ母堂帰神 吉種痘ノ爲メ千葉へ行ク 信太郎今ハトポツポト云フタ

▲▼152ページ▲▼ 大正7(1918)年5月23日(木)

天気 晴

父ニ佐野ヲツケテ相撲ヲ見ニヤル

自分ハスパ―打チ 夕方遅クナル

藤原午前上京 午後帰ル

山県午前機体組ミ 午後五平君トガソリン取りニ上京

福永直線練習三回 大分ウマクナツタ 今日デ十八日目ダソウダ

夕方鍛冶屋カラ先日丸太ノ切レ端ヲヤツタ礼心ダロウ キスノアタラシイノヲ三十尾余リ呉レタ 自分ノ大スキナノデ洗いニシテ貰ツテ一杯ヤツタ

父帰ル頃ハ眠クテ横ニナツテ居タ

▲▼153ページ▲▼ 大正7(1918)年5月24日(金)

天気 晴

佐野機体組立 山県自身ノプロペラ 大工休ミ 青島メンスパー 平居コマウチ

自分ハ三時九分ニテ白戸へ行ク 今朝山県二百円貸シテ呉レトノ手紙ヲ持タセテヨコシ

タノデ持ツテ行ク エツエルノ本ヲ徳川サンカラ借りテ來テ居タノデ借りテ帰ル 一週間ダケダトノコトニ大分インガシイ

夕食後帰ル

▲▼154ページ▲▼ 大正7(1918)年5月25日(土)

天気 曇リ少晴

二三日來少シ寒イ 日ノ出ナイ精ダロウ

大工來ル 青島スパ―ケヅリ 佐野機体 自分ハ操縦器 青島午後平居ノ方手傳フアルヲ作ル

藤原上京 午後帰ル 田村君助手ヲ連レテ來ル 土産ヲ貰フ

佐藤喜太郎八分四本返送ス 運賃三十錢拂フ

父十一時頃吉卜稲毛へ行ク 夕方帰ル

夜藤原君ノ妻君來ル

福永上京 後チ山県又上京

▲▼155ページ▲▼ 大正7(1918)年5月26日(日)

天気 晴

テールエレベーター現圖 エレベーターフランカシノスミナス
エルブリッジ試験 タイムラーノカーブレーター二百廿瓦ナリシモ後チノツヅルヲ大キク
シテ二百五十瓦ヲ引ク

プロペラーボスノピン折レル 中止

山県ノノームプロペラ付替へ試験 三百八十瓦引ク

アール全部出来

▲▼156ページ▲▼ 大正7(1918)年5月27日(月)

天気 晴

時事 日本縦断十万円懸賞飛行發表セラル

ドウシテモ帰坂スルト云フノデ今日午後四時ニテ上京 ステーション近ク宿ヲ取り二重
橋ト桜田門ヲ望ミニマカセ見物シ鳥飼氏ニ行ク 丁度ホールスカットヲ持ツテ來タ 後
チ松本楼デタ食ヲ馳走ニナリ九時頃ヨリ銀坐ヲ散歩シツ、荷土産物ノ買物ヲナシ宿ニ
帰ル 十一時床ニツク
今日大口土産ヲ持ツテ來ル

▲▼157ページ▲▼ 大正7(1918)年5月28日(火)

天気 曇リ

七時起床 朝食前父ニ小遣ヒ ミネ姉ニ小遣 外ニ兄ニ金ガ入ルナリ千円位スグニモ送
ル旨ツタ斗傳言ヲタノム

八時三十分發車 人間分カレルト云フコトハ妙ナモノデナンダカ鼻ガツマツタ 自分デナ
ンノ爲メダカオカシイ氣ガシタ

鳥飼ニヨリ三田ニテ買物 阿部ニ行キ發動機買入レ方法ノ研究ヲタノム 中沢君イマ、
デ居タ處ダトノコト 僕ノ處へ見學生ヲタノミタイトノコトデアッタ。コレハ現狀ヲ話シテ
ヨケレバサシツカエナキ旨答ヘル 磯部氏ヨリ余ニ飛行ノ方ヲヤツテ貰フ爲メテイケイシ
タイガ余ノ意向ヲ聞イテ呉レトノ依頼ガアツタトノコト 條件次第デアルコトヲツタエル
様打合せス
帰津後プレーンヲ組ム

▲▼158ページ▲▼ 大正7(1918)年5月29日(水)

天気 雨後曇り晴し

今日ハプレーン金物組ミ終ル 山県ノノーム分解ス 五番ノリングガ折レテ居タ 其他モス
リ合セガイマクツイテ居ナカッタ
福永二三回直線 左ノ橈ヲ折ル 金物ニテハサム
夜写真現象(ママ)

▲▼159ページ▲▼ 大正7(1918)年5月30日(木)

天気 晴

後藤勇吉外四件手紙書ク

プレーンツギ合セヲナシ藤原肉ヌキ 午後プレーン取付 機体佐野、平居機体足 青島
プレーンノフチ

福永直線一回 二回目ニ初メテ旋回ス 一週(ママ)シテウマク風向ヒニ着陸シタ 其ノ
落付イタヤリ方ハ実ニヨカッタ 夜彼レノ爲メニ祝宴ヲ張ル 藤原一人來ラズ 彼レ一流
ノ気覺 シイテ呼ブモ彼レニ苦痛ヲ増サシムルノミ
夕方ヨリ目イタク夜アンマヲ取ル

▲▼160ページ▲▼ 大正7(1918)年5月31日(金)

天気 曇り

今日ハ藤原夫妻 山県、福永モ皆上京 格納庫ハサミシカッタ
自分ハプレーンノ布ヲタチエロンヲ組ミ操縦モ一寸ヤル
佐野プレーント足
平居足 青島プレーンノフチ
ミネ姉カラ札状ガ來タ

▲▼161ページ▲▼ 補遺

九日十九日廿一日飛行
エルブリッジ十二日起工

▲▼162ページ▲▼ 六月

六月中予定

エルブリッジ完成引渡シ
自分ノ新機購入ノ運動ヲ起スコト

▲▼163ページ▲▼ 大正7(1918)年6月1日(土)

天気 曇後晴

青島プレーン 佐野プレーン取付ボルト 平居足 藤原午前プレーンノ布又イニ稲毛
二行ク 山県三時頃帰ル 宮内來 正午 今夜ハ宿ル 夜大飛行ノ話ニテ地圖ヲ開キ皆
ト語ル

塗料試験ヲナス

大工休ミ

▲▼164ページ▲▼ 大正7(1918)年6月2日(日)

天気 曇少雨

青島プレーンノフチ 平居テール 山県佐野藤原

宮内今日帰ルト云フタノヲモ一バン泊メル

夕方方向舵ノ圖ヲ現圖板ニ書イテ居ルト外デ山県ト藤原ガ千葉ヲ飛ンデ居ル田村ガ
白戸ガト白戸ニシテハ高イナナド話ス内ア、ト云ッタノデ出テ見ルト飛行機ハモ一見エ
ズ五百米突位カラ翼ガ立ニ白ク見エタト思ッタラツ、ト降りテシマッタトノコト 田村ハ
ソレ程ノ技量ニ達シテハ居ナイシ白戸ハソシナ急降下ヲヤル筈ハナシ 何カ發生シタニチガ
ヒナイト思タノデ山県ニ見ニヤル 藤原モ一所ニ行ツタ 其間氣ニナツテナラナカッタガ
帰ツテノ話シデハ白戸ガ田村ノ機デヤツテ居タガピストンガ破レタ爲メ急降下 穴川沖
ニ無事着陸トノコトニマツ一安心シタ
夜写真ヲ一枚現像シテ床ニ入ル

▲▼165ページ▲▼ 大正7(1918)年6月3日(月)

天気 雨

今日ハ自分ノ日デアル 晝食洋食ヲツクル

プレーン張り山県 藤原買物ニ上京 佐野足ノフランカン 平居エレベーター 青島方向
舵エレロンノフチ

自分ハスタンションヲ作ル

池ノ昌(ママ)蒲ガ大分ツボミガ出テ來タ。バラモ今日ハニツ咲イタ

夕方早ジマイシテエツフェルノ原書ト写真術ヲ一寸見ル

宮内午後帰京ス

▲▼166ページ▲▼ 大正7(1918)年6月4日(火)

天気 曇り雨

自分ハテールエレベーターヲ張ル 山県平居プレーンヲヌウ 佐野機体 今屋根屋ガ風呂
場ヲヤツテ呉レタ

大工ハ板ケズリニ一日カッテシマッタ ズルイ大工ダ

知覧ヨリローンノ返事ガサラニナイノデ今日又請求ヲ出ス 何ンダカ他ニ買ヒ取ラレル
様ナ氣ガシタカラ

夕方エツフェル原書ト写真ノ本ヲ一寸ヅ、見ル

▲▼167ページ▲▼ 大正7(1918)年6月5日(水)

天気 曇り

操縦器トシートヲ取付ケ 佐野エンジン取付 山県藤原プレーン 平居モ 青島支柱

午後塗料ヲトク 山県マグネト取付ケ 試運転 三百四十瓦引ク 直線ニ一回ヤ調子ヨ

シ 福永旋回ニ一回 初メノ一度ハ右旋回シテ陸上ニ接近ス イマシメテ居ク

午後白戸來 共ニ稲毛ヘ夕食ニ行クツモリデ出タガ汽車ニオクレテ船橋ニ行ク

九時過ギ帰宅

▲▼168ページ▲▼ 大正7(1918)年6月6日(木)

天気 曇り

山県福永各旋回一回ヅ、气流悪シトテ中止ス

佐野過日同乗滑走六百米突一往復 今日滑走山県同乗ニ往復 テール引ズル 直線

完タカラズ 頭部高キ爲メ目標定メ難カルベシ

藤原平居プレーン 佐野ラジエター取付 自分ハフトレバーノ製作取付 阿部ヨリ九

日來ルトノハガキ來

大口ヨリゴム受取リ白戸ヘヤル 大四本小四本 外ニ一本ナリト

▲▼169ページ▲▼ 大正7(1918)年6月7日(金)

天気 晴

久シ振リノ上天気 塗料引ク 足ヲナイノデ藤原君ニ上京買ツテ來テ貰フ

鳥ノ窠川居ル處ヲ花壇ニシタノデ鳥ゴヤヲ夕方カラバタ、ツクッタガ今日ノ間ニ合ワ
ナカッタ

井上カラ佐野へノ通信ニ姉ガ新世界デアレ馬ノ爲メ負傷シタトアッタ 夜見舞ヲ出ス

▲▼170ページ▲▼ 大正7(1918)年6月8日(土)

天気 晴

朝藤原エーテル買ヒニ行キ帰リテ塗料ヲ引ク 山県カバー 佐野支柱金物其他 青島
鳥小屋ト支柱

大藪父與蔵氏トイツモノ叔父サント三人デ來タ 晝食ヲ出ス 菓子ヲ貰フ 宅ニ居クコ
トニス

發信 浅野板 來信 柳原

カタガコッタセイカムネガ痛ノデタ方アンマヲ取ル

▲▼171ページ▲▼ 大正7(1918)年6月9日(日)

天気 曇リ

來信 兄ヨリ 發信 柳原、井上長一

友野氏オードバイニテ來ル スグ白戸へ行クトテ歸ル

晝前阿部兄弟中沢君神戸ノ學生ト車中一所ニナツタトテ池田君來 夕方歸ル

晝間ノ写真夜現象(マ)ス 光線ガ足ラナカッタラシイ

▲▼172ページ▲▼ 大正7(1918)年6月10日(月)

天気 雨

來訪 來信 ナシ

プレーンニ金物ヲツケル 一日カ、ッテシマッタ

機体ノカバー青島ト平居ヲヤツテ居タガ夕方出來タノオ見ルト甚ダ面白クナイノデッ
ヒニヤリ直シヲサセルコトニシタ

夜ジャンプノ言(マ)稿ヲ書ク

▲▼173ページ▲▼ 大正7(1918)年6月11日(火)

天気 晴

福永モ一兩日中ニ分解スルコトニナル 青島ガ少シ變ナノデ今日呼ビヨセ將來ヲ聞ク
ヤツカイニナリタイト云フノデ固ク極メル プロペラヲケツラセル

山県朝千葉へ飛行 歸リ千米突位ニ昇リ白雲中ヲ出ボツス。田村午後飛行機ニテ來ル
發動機調子悪シク着陸後低空ニテ歸ル 福永午前二十分バカリノ飛行ヲナス 午後一

時十分發 東京方面ニスガタヲ消ス 無音デ行ツタノデ大ニ心痛ス 四十分位ニシテ江戸川方面ニ現ワル 四十五分 大分近クナツタ頃グン、下ガリ着陸ス マダ二里以上六アリソウナノデ自分ノームニテサガシニ行キ藤原山県佐野ハ自轉車ニテ走ル ノームノ調子取レズ 低空ニテ頗ルキケンナ飛行シテ帰ル
船橋沖ニ着陸シテ居タソウダガ余ハノームノ調子イソガシクスグ上ヲ飛ビナガラ知ラズニ帰ツタ

夜福永ノ馳走アリ 宅ニテ一同ノム。グレゴアインシットバルブノスピンドル止メノ處ヨリ折レル ニ番シリンダーヌケガケノ切名(ママ)ツヒニ地ニ墜ツ 一同ワイマシム

▲▼174ページ▲▼ 大正7(1918)年6月12日(水)

天気 晴

プレーン組ム 晝食後船橋ノ昨日世話ニナツタ松下善次郎警察外一軒札ニ行ク
井上長一ヨリ佐野アテニ電氣旅館千円出ス 期日一日トノコト 山縣ヲ連レテ行クコトニシテ四良井上二人ニ多少ツ、口銭ノ外ナシデ千円ナラ極メテヨイト佐野ヨリ返事出サセル 尚僕ニ二度帰坂シテ呉レトアツタガ試飛行後帰ルコトニ返事ス
夜写真現象(ママ)ス

▲▼175ページ▲▼ 大正7(1918)年6月13日(木)

天気 晴

時事 道路本日驗査終リ午後ヨリ通行シ得
プレーン取付ケヲ初メタガボールトガ合ワズ閉口
三時頃數見氏自動車ニテ來 久留米ノ野口氏共ニ來ル 此ノ自動車ヲ買ツタノダソ一
ダ 久シ振リノ面談 稲毛ノ海氣館ニ行キ大口モ呼ブ 後チ千葉加納屋(行ク處ガ自
分ニ金ヲ持ツテ居ラナイノデ白戸へ行ク 居ナカッタ 濱ガ來テ共ニ上京 九時頃帰ル
トノコト 留都(ママ)中三十五円借リテ帰ル 四人ハ加藤屋ニ宿ル 支拂ヒハ余スマセテ
大口ト稲毛ニ帰ル 帰途イロ、不平ヲ聞ク 一時半帰着 床ニ入ル
今日カラ開通ノ道ノ初 自動車ノ通り初メデアッタ

▲▼176ページ▲▼ 大正7(1918)年6月14日(金)

天気 曇リ後晴

プレーン取付

信太郎ノ写真ヲ写シタガ動イテイケナカッタ

五時目がサメテシバラクスルトブーツ音ガシタノデスグ起キ共ニ鷺沼ニ帰ル 丁度六時 マダ皆ハ寢テ居タ 自分モ又一寸一寢入シタガ眠カッタ 夜ハ早ク床ニ入ル グレゴア四番一番ノピストンノ端ヨリ三分位ノ處ニ環ニナツテビビガ這入ツテツメデカク トヒツカ、ツタ ソレガ両横一吋バカリハナクテ前後カラワレテ居タ 其他ニモ豎ニヒビラ シイ筋ガアッタ モー之レモ寿命ガツキテ來タカ ヨイ時ノ賣リモノデアッタ

▲▼177ページ▲▼ 大正7(1918)年6月15日(土)

天気 晴

プレーン取付ケ終ル 形ヨシ

山県へ三十円貸ス 格納庫分五十円 内三十円福永ヨリ受取リテ稲毛へ持ッテ行ク。ツヒデニ白戸へ三十五円返シニヤル 帰リニ石野君ヲ連レテ來タ 田村君ノエンジン分解シテ居タトノコト シリンダーヲ焼ケツカセタ爲メソウダ 明日白戸來ルトノコト 石野タ方帰ル

▲▼178ページ▲▼ 大正7(1918)年6月16日(日)

天気 晴

頭ガムヤ、シテイケナカッタ 散髪ニ行キ帰ッテプレーンノ通りト角度ヲ直シテ午後ア
ンマヲ取リ其マ、眠ル

佐野タンク取付 山県カバー

今朝山県一回旋回 佐野滑走三回 後チテールヲ上ゲテ走ル

夜平居君今朝藤原君カラ頼マレタ五十円取リニ來タガ今又大キナ夫妻ゲンカラシタト
ノコトニ今日ハ日曜デ郵便局ガ出セナカッタトテ渡サナカッタ 困ツタ人タチダ

▲▼179ページ▲▼ 大正7(1918)年6月17日(月)

天気 雨

山縣操縦線 佐野金物 自分ハカーブレータ其他

夕食後アンマヲ取リ床ニ入ル

千覽ヘローンノ返事 聞請求

(1805181ページはスキヤン漏れ)

▲▼182ページ▲▼ 大正7(1918)年6月20日(木)

天気 雨

朝曇ッテ居タガ一度廻シテ見ル 二百五十瓦ヲ下ラナイノデ海ニ入レヤッテ見ル 少シ山風ナノデ直線ニ滑走 割ニ速力ガ出ルト思ツタ 帰リニテールガ上ガルノニ間ガアツタチイサク上柁ヲ引イタガキカナカッタ 二三回目ニモ一先キガナクナツタノデ止メル時少シ浮イタ 機体ガ低イノデ地ニツクノガ遅イ氣ガシタ モ一一度ト思フ内風益々加ワリ雨サエシキリニナツテ來タノデ中止

午後白戸ニ行ク 別ニ用モナイ様子デアツタ 帰途道具類ヲ少シモトメテ帰ル
夜試飛行ノ祝宴ヲ張ル

▲▼183ページ▲▼ 大正7(1918)年6月21日(金)

天気 雨

降りテ試験モ出來ナイノデ上京 プロペラ材料代ヲ拂ヒ日本鋳業会社ニテ溶接器ヲ聞合セ 鳥飼ニコーモリヲ返ヘス 昨日箱根行 マダ帰ッテ居ナカッタ 知覽電話カケタガ居ラナカッタ 玉屋ニテ買物 阿部ニ行キタ食ヲ馳走ニナリ妻君ノヤリクリ談ヲ聞キ帰ル 終列車ニナツタ

▲▼184ページ▲▼ 大正7(1918)年6月22日(土)

天気 曇後晴

福永ノ恵美號發送 貨車明日ニナル
晝食ニ送別ノ小宴ヲ張ル 朝自分ハ船橋へ材料ヲ買ヒニ行ク
藤原ハ朝カラ母堂平井ヲ連レテ東京見物ニ出懸ケタ
佐野山県食後東京へ行ク 青島残ル
夕方午後アンマヲ取り後チ恵號ノ神戸港上空飛行ノ圖ヲ畫ク 非常ニヨイ氣持ニナツタ

▲▼185ページ▲▼ 大正7(1918)年6月23日(日)

天気 晴後曇リ

少シ風アリタレドモ近來ノ好天氣ニ付試験ヲヤル 少シ山風東風 西ヨリ向風ニヤル 浮イテハンドルヲカエストスト下ガルノデ非(マ)観シタ 其内ラジエーターノ水ガ噴出シテ何ニモ見エナクナツタノデ着陸 藤原ガヤリタイト云ノデ滑走ヤラセタガアマリ發動機ヲ出シスギテ杭ノ間ヲクル、廻ッテキケンデアツタ。停止後水ヌキヲ附シ左右デ角度ヲ増シテヤル 風東南ニナル 例ニヨッテスースト下ガル 軽ク手ヲハナスト下ガルヤ、上柁ガ手ニコタエル程ダト水平飛行ガ出來タ 前ノ重イコトガワカッタ 下ルノニ

中々下ガラナカッタ スイッチヲ切ルト前へスト行ッテシヨクシタ 右ノ車輪タイヤ
ーノワイヤ切レチユーブパンクシタ 之レニテ中止 上翼ヲ七寸前ニ出ス 此ノ作業ニ終
日カゝル
夜大風ニナル 眠レズ一時半頃格納庫ヲ見廻ル 違状ナシ 自ノ處ガガタ、音ガエライ
ノデ皆ノ處デ眠ル

◆▼186ページ◆▼ 大正7(1918)年6月24日(月)

天気 晴

晴レタレドモ風強シ 十時四十分ニテ内四人藤原四人、八人ニテ成田山ニ參詣 晝食
後四時十分ニテ帰ル 途中自分ノミ千葉ニ下車 白戸へ行ク 大原ヨリ千覽宛ノ返書
ヲ見ル マダ先方ヨリ返事來ラヌ由 十八日附デアッタ。百五十円貸シテ呉レトテ前ノ
分ト三百五十円借用証ガ書イテアッタ 九十円持ッテ居タノデソレダケ居イテアト明
日渡スコトニシタ食ヲ馳走ニナリ七時五十八分ニテ帰宅 久シ振リニヨイ月ガ見ラレタ
入浴後床ニ入ル

◆▼187ページ◆▼ 大正7(1918)年6月25日(火)

天気 曇後晴

朝早ク白戸來 貯金百円出シ内六十円貸ス スグ一所ニ上京ノ予定ナリシモ天気ヲ見
ル爲メアトニナル 其内雨降り出デタレバ晝食後上京 スグ打合セノ場所ニ行ク 某待
合 自分ニ一人ノ女ヲ取持ツベク先生シキリニサワイダガツヒニ手ヲ染メズ 夕方食事
ノ爲メ立花君ヲ呼び初見參ヲナス 場所ハ富士見楼ニテ九時宴終リ終列車ニテ帰ル
白戸ハ浜ニ合フ爲メ東京ニ宿ル

◆▼188ページ◆▼ 大正7(1918)年6月26日(水)

天気 雨

終日ヨク降ツタ

朝八時三十分ニテ上京 鳥飼ニ行キ中外ニ電話スル 白戸マダトノコト シバラク待ツ中
電話アリ スグ行ク 千覽君モ居タ 十一時半頃迄雑談 飛行家俱樂部設立ノ議ガ起
ツタ 鳥飼ニ帰り白津ノホールスカット出資者ト三人デ日比谷ノ松本ニ行ク
後チ阿部ニ行キ外国雜誌ヲ見ル 五時佐野來ル 共ニ五反田へ行キ釜島へ溶接機ヲ注
文 百二十円手金ヲ渡ス 帰途小買物ヲナシ夕食後終列車ニテ帰ル

◆▼189ページ◆▼ 大正7(1918)年6月27日(木)

天気 曇り

風ヤ、静カナリ 試験ス 九時頃發動機調子ト、ノハズ 然ルニスグ浮キ上ル 前軽クナリ過ギタル如シ ケイカン直線 スローニスレドモタヤスク地ニツカズヤット安心ス 其場ヨリ再ビ進ミテ發動機切レナガラ一廻リス ハタシテ前非常ニ輕シ 藤原滑走四回 最後ノ一回テール上ゲシ爲メフワリト浮ク 本人知ラザリシ爲メ心配セシモ無事 之レニテ終リ 發動機ヲシラベル カーブレーターノフロートノ重リ片一方ノ方コワレ(折レル) 居タリ プレーン三寸五分アトニ下ゲル

今朝山県駿(ママ)査ノ爲メ帰国 小遣十五円ト土産料二円與ヘル 福永ヨリ電報アリ 佐野東京十一時發テ出發 明日青島ヲヤル

▲▼1900ページ▲▼ 大正7(1918)年6月28日(金)

天気 晴

久シ振リニ宅、数見、大原、其他へ手紙ヲ書ク

飛行機ノ方ハ藤原準備シテ呉レル 晝食後引出ス 午前エンジン試験 ヤタラニ切レルノデシラベルトプラック二個セトガヒ、ガ入ッテ居タ キレイニシテ午後藤原君滑走ヲヤル ツモリデヤッタ處キレズニ調子ヨクナッタ モットスロート思フ内走り出シテテールガ浮イタト思フトフワ、シテ居タガ其内二三間上ガッテシマッタ トスローニシタガ同時ニ又グット上ガッタノデ思ワズ下ゲロトサケンダガ機ハヤ、上向キノママ右ニ旋回ヲ初メタカラサーシマッタト思フ内右車輪ガ先キニツヒテソレデモゴムヲ三本切ッタダケテ無事デアッタ。

自分ガ一ツヤルツモリデスタートシタガ廻ラナイ 其内ニ風モ出テ來タノデ中止シテ写真ヲ取ル

青島午後出發 母モ稲毛へ帰ッタノデ今夜今夜ハ一度ニ淋シクナッタ

▲▼1911ページ▲▼ 大正7(1918)年6月29日(土)

天気 晴風強

手紙ノ整理ヲナシ飛行機材料ヲ方附ケル處へ白戸來 晝食夕食シテ帰ル 飛行家俱樂部設立ノ打合せ會ヲ一日立花カラ通知アリ次第上京スルコトニナッタトノ知ラセデアッタ

井上中尉ト立花、白戸、自分ノ四人ガ發起ト云フコトニナッタノデアアルソウナ 今夜ハ平居君ニ泊リニ來テ貰ッタ

▲▼1920ページ▲▼ 大正7(1918)年6月30日(日)

天気 晴大風

佐野ヨリ第一回ノ通信アリタリ

今日ハ終日鳥小屋作りニカ、ッタ 大ニクタブレタ

◆▼1933ページ◆▼ 補遺

六月中ノ主ナル仕事

エルブリッジ引渡シ終ル 成績ヨシ

新機買入 ローンハダメラシ 尚話シハ繼續中

大坂方面金件依頼手紙ハ数回発信セリ

ウエルト器具注文 製作所ノ完成ニツトム

十一、廿、廿三、廿七、飛行

◆▼194ページ◆▼ 七月

今月ノ予定

發動機買入法ト金ヲ確實ニスルコト

◆▼195ページ◆▼ 大正7(1918)年7月1日(月)

天気 晴大風

今日ハ井上長、竹島、前中、佐渡島、喜代市へ手紙ヲ書ク

晝食後本ヤ書類ノ整理中井上武三郎中尉來ル ビールヲ出シ手製ノ洋食 食(ママ)氏

ハ晝寝ヲナス 其内二片付モノヲナシ庭ヲ掃除ス 氏起キル 入浴後夕食 九時帰ル

懸賞飛行ノ希望ヲ聞イテ居タ 其他ニ別ニ之レト云フ用事ガアツテ來タ訳デハナイラシ

カッタ

福永安否心配中夕方佐野ヨリ九米ノ風ナレドモ群衆承知セズツイニ決行無事飛行ス
ムトノ入電アリ安心ス

◆▼196ページ◆▼ 大正7(1918)年7月2日(火)

天気 晴風強

藤原君妻君帰神ス 中原君來ル

手紙二通ホド書ク

今日ハ鳥小屋ニ日オイヲ作ツテヤツタリ午後八アンマヲ取ツタリ雑誌ヲ讀ンダリシテ終ル
發動機買入ニツキ種々考ヘタリシタ
毎日ノ風ニ風ノ音ニモアキテ來タ 都會ノ人ナラ天然ノ音樂トカ波ノ音ニモ色ンナコジ
ツケタ贊美ノ仕方ヲスルダローガ自分ニシイテ文明的ノモノニ、タトエサセルナラバ大キ
ナ紡績工場ノソーゾウシサ位ニシカ思エナイ 早クヤメバヨイニ

▲▼197ページ▲▼ 大正7(1918)年7月3日(水)

天気 晴風

今朝ハ久シ振リニ風ノ音モシナカッタ 藤原君ハ練習ノツモリデ早クヤツテ來タ 取アエ
ズ發動機ヲ廻サセル 小サイ方ノカーブレーターデハドーシテモ調子出ズ大キイノト取
カエル 藤原ガ堪定ヲシテ呉レト云フノデヤツテ居ルトスコブル調子ヨク廻ツテ居タ スロ
ーモキイテ居タ 其内ポイント音ガシタノデバックフワイヤーデモシタコトト思ツタガ氣ニ
ナルノデ聞クト藤原ガ青クナツテ居タ 見ルトニ番ノシリンダーガ高クモチ上ガテ水。パ
イプガチギレテ居ル 中ヲ見ルトクラクケースノシリンダー取付フレンジガメチャ、、
ニ取レテ居ル ピストンモ下ノ方ガカケテ居タ 際(ママ)スルニ下ノピストンリングノミゾノ
中ニヒ、ノアッタノガ破レテ其カケヲピストントクラクケースガハサンダモノラシカッタ
色々相談ノ上藤原ト上京 阿部ニテウエルトノ出來ルヤ否ヤヲタシカメテ破(ママ)賀ニ
行キタノム スグ出來ルトノコトニテ一安心 修理費ハ僕ガ半分出スコトニシタ 引渡シ
後トイエドモ之レ位ハシナケレバナナルマイ

中外ニ行ク 不在 鳥飼ニテ待ツ 白戸來ル 明日出發スルトノコト 余ハ五時ニテ帰宅
佐野山県帰ツテ居タ 福永帰リノ汽車賃モヨコサナカッタトノコト

▲▼198ページ▲▼ 大正7(1918)年7月4日(木)

天気 晴風

朝食後日記ヲツケスグ八時三十六分デ上京 有恒會ニ行ク 白戸不在 中外ニテ立花
ト四時生洲ニ會フコトヲ約シテ鳥飼ニ行ク ソコヨリ有恒館ニ電話ヲカケル 一時出發ス
ルトノコトニ行ク ビールヲノミ金三十円ヲ貸シテ上野ニ見送り自分ハ妻君トコ、デ分カ
レテ散髪後晝食ヲナシ阿部ノ所ニ行ク 四時半立花來ル 阿部ト共ニ生洲ニ行キ夕食
ヲ共ニシテ九時出デ十時四十分ニテ帰宅 車居ラズ暗夜ニシカモハラ、細カイ雨が降
ツテ居テ氣持悪カッタ

今日中外社長ニモ面接シタ 發動機ニ台程注文スルコトニ話シタラシイガ堤サンノ方ハ
何ナノガシラ出來レバ有難イガ自分ハ自分デ他ニ金ノ都合ハシナケレバナナルマイ

▲▼199ページ▲▼ 大正7(1918)年7月5日(金)

天気 雨

午前中手紙や日記勘定ヲナシ晝食後十二時四十六分ニテ山県ヲ連レ上京 スグ生洲
三行ク 時二時半 スデニ立花、磯部、佐藤、後藤ノ諸氏アリ 三時半井上中尉ヲ殿リ
トシテ會スルモノ前記ノ外中外社長内藤氏後藤勇吉、田中、飯沼、都筑、小栗、山県
自分 以上十三人 今日ノハ中外社ノ出資ニナルコトニナツタ 多謝々々。俱樂部創立
確定 規約等ハ發起人ニ一任ノコトニ決ス 六時散會。数見氏ヨリ行クカラ待ツテ呉レ
トノコトニ入浴待ツ 七時過ぎ來ル 梅田君同伴 十一時迄サワイデ数見氏宅ニ泊
スルコトニナル 一時頃迄會社計畫其他色ノ雜誌 床ニ入ル

▲▼200ページ▲▼ 大正7(1918)年7月6日(土)

天気 晴

朝食後三洋社ニ立寄ル 大江氏ニ挨拶ヲナシ鳥飼ニ行キ十日頃金ヲ頼ンデ稲垣君ヲ訪
問シヨウト思タガ宅ニ居ルヤ否ヤ不明ニ付ハガキヲ出シテ阿部ニ行ク 中野君ヲ待ツタ
ガ來ラズ 晝食後買物ヲナシ三時半ニテ帰津 買物ヲ整理シ入浴、夕食、就床
喜代市兄ヨリ手紙來テ居タ 大飛行金策内一統不賛成ナリトノコト クソエンギノ悪
イト思タガヤレルダケ一ツヤレト思ツタ
青島一兩日中ニ帰ルトノコトデアッタ

▲▼201ページ▲▼ 大正7(1918)年7月7日(日)

天気 曇後チ晴

障子ヲ取リスダレト取りカエル
午後皆シテ稲毛へ舟ヲ借りニヤル
スピード着 大坂方面發送ヲナス
河村母ヘシボリ一反送ル
今朝便所ニテ終リニ拭フトスルト白イモノガ引張ラレテ來タ タゞノ虫ダロト思ツタガ
イクラデモノビテクルノデ眞田虫ダナト思ツタ 一尺バカリデ切レタノデ又ヤルト次ハ
二寸ホドデ切レタ 見ルト平ラダ イヨ、眞田虫トワカッタ

▲▼202ページ▲▼ 大正7(1918)年7月8日(月)

天気 晴

立花カラ午後來テ呉レトノ電報アリ 十二時四十分ニテ上京 スグ中外ニ行ク 上野へ
行ツタトノコト シバラク待ツ内磯部氏來 四時頃千覽、海野、中沢氏モ會シ戸浪ニ行
ク 井上中尉アリ アトヨリ阿部折橋來。磯部氏提出ノ小林氏義援金募集ヲ武市今

一人モ同時ニヤル事ニ訂正シテ倶楽部ノ最初ノ事業トシテヤルコトニシタ。會ノ規約ハ記者倶楽部デ作ツテ貫フコトニナツタ。外ニ二十日頃僕ノ處へ皆來ルコトト十一月三日聯合飛行ヲヤルコト、ナドデアツタ。昨日夕方僕ダケ少シ早く失敬シテ鳥飼ニ行キ福永ト三人デ日比谷ノ松本ニ行ク道デ花月主人ニ會ヒ一所ニ行ク終列ニテ帰ル

▲▼203ページ▲▼ 大正7(1918)年7月9日(火)

天気 晴

藤原ノエンジン組立取付ケヲヤツテ居タ

先日中原平井ガ山県ノ練習ヲ手傳ツタノヲ藤原夫妻ガ嫌ツタトカデ今日ハ山県モ手傳ワナカッタ 白戸ノ方ヨリハガキ來 晝食後行ク 妻君一人 アンザニーガ動力ナイトノコト シラベテマグネトノコンタクトブレーカーヲ直ス スグ爆發シタ 四時四十分ニテ帰ル

佐野ウエルト器具受取りノ爲メ午後三百円持チ上京ス

▲▼204ページ▲▼ 大正7(1918)年7月10日(水)

天気 晴

帝国館ニ英国飛行隊ノ活動ガアルトノコトニ見ニ行ク 汽車中色々考ヘテ最初ニ稲垣君ヲ尋ネタガ家ガ分カラズアツイノデサガス氣ニモナレズ上野ノ空中博ヲ見ル 一言ニシテ云エバベトマクヲ見ニ行ツタヨウナモノ 貧弱過ギテカワイソーナ様ダ

帝国館ニ行ク コノ方ガヨホドヨカッタ マルデ英国ノ飛行隊ヲ見學ニ行ツタ様ナ氣ガシタ

鳥飼ニ立寄ル 佐野帰ツテ居タ。午前中ハウマク行カナカッタガ午後ハ大分ヤレタトノコト
夕食ヲ共ニシテ余ハ九時四十分ニテ帰ル

今日大坂ニテ活動ノ準備トシテ人ト金額ノ割アテヲ作ツテ見タガサテウマク行ツテ呉レレバヨイガ

▲▼205ページ▲▼ 大正7(1918)年7月11日(木)

天気 曇後雨

朝風ナカッタガ日ガ高クナルニツレ風ツヨクナル 昨日九州地方ヲ暴レタヤツガ來タノデアロー 山県ト二人デ格納庫ヲ嚴重ニス 藤原ハ四人共上京 不在
余ハ鳥小屋ヲ作ル 大汗ヲカイッタ

夜風ハゲシク雨サエ強カッタ 平井、中原二人來リ泊リテ警戒ス

▲▼206ページ▲▼ 大正7(1918)年7月12日(金)

本日ノ記事昨日ノ處ニアリ

▲▼207ページ▲▼ 大正7(1918)年7月13日(土)

天気 晴風

頭痛ガシテイケナカッタ ソレデモ鳥小屋ヲ仕上ゲテシマウ 夕方ヤリキレズアンマヲ取
ル

▲▼208ページ▲▼ 大正7(1918)年7月14日(日)

天気 晴

朝小鳥小屋ヲ一寸手入レシ噴水ヲ出ス

フライトヨリアルバトロスノスケッチヲ写ス 夕方迄

夕方佐野帰ル 秀雄本日ヨリ來ル

藤原君ノエルブリッジ試験ス 初メ調子悪シカリシモカーブレーターノスピンドル調整シ
テヨクナル カヽリ悪ルシ

▲▼209ページ▲▼ 大正7(1918)年7月15日(月)

天気 晴雨

今日ハ稲毛ノお祭り 自分ハアルバトロスノスケッチ 吉八信太郎ヲ連レテ晝食後お参リ
行ツタ アトエ立花君カラスグ來イトノ電アリ ソコ稲垣君來 過日聞イタコトヲ教ヘニ
來テ呉レタノデアッタ ソレカラ別二本ヲ一冊貸シテ呉レタ 吉ガ居ナイノデ何ニモナカ
ツタガビールヲ冷シテ一杯ノム

山県一回稲毛迄飛行 藤原直線一回ヤル 着陸ガ思ワシクナカッタ 注意シテ居ク
四時ニテ稲垣君ト共ニ上京 自分ハ立花君ヲ問フ 不在 鳥飼ニテ帰リヲ待ツ 夕食後
電話アリ行ク 阿部モ居ル パターソン氏郵便飛行ヲヤラセルナラ民間飛行家ニヤラセ
ルベシトノ意見ニテ反対行爲ヲ取ルコトヲ云ヒ出シテ來ル 廿日精養軒ニテ總會ヲヤルコ
トニシタ 明日井上中尉ト会合ノ上規約作ルコトニナツテ分カレル 時ニ、十時過ギ 帰
ル事モ出來ナイノデ仲ニ行キ君津ニ上リ久シ振りニ吉原ヲ味コト 仲ドンガ七年前ニ來
タコトヲ覺エテ居テ名ヲサヽレタノニハ驚イタ

▲▼210ページ▲▼ 大正7(1918)年7月16日(火)

天気 曇後晴

平野ニテ朝食 入浴後帰宅 昨夜眠レナカッタノトビールヲノミ過ギタノトデ大ニヨワツタガ仕方ナク又十二時四十分ニテ上京 立花ニ行ク 阿部モ居リ井上中尉來ル 規約ヲ作ル 當日ノ案内状ヲ出ス 夕方終リ鳥飼ニ一寸立寄り小鳥ヲ買ヒ帰宅 入浴後夕食 大分気分ガナオツタ

▲▼211ページ▲▼ 大正7(1918)年7月17日(水)

天気 晴

終日アルバトロススケッチ
藤原ノエルブリッジ調査 三番ノシリンダー取付 クランクケースノ方半分ヒビガ入り
油ヲ吹き出シテ居タ 藤原ハヤケ気味ニコワレル迄ヤルト云ツテ居タガツヒニナダメテ東京へ直シニヤツタ
小川君、帰京
今朝佐野練習

▲▼212ページ▲▼ 大正7(1918)年7月18日(木)

天気 晴後少雨

佐野ニ金ヲ出シニヤリ藤原ト九時ニテ上京 自分ハ錦糸町ニ下車 久シ振リニ矢島氏ヲ訪フ 丁度居合セタ ペレスノコトニツキ聞キ中古品ヲ頼ンデ帰ベツタ辭シ太田へ行ツタガ來客中トノコトニ佐藤ニ行ク 主人所沢行キ不在 店員ニタンバツクノ見積リヲ頼ンデ居イテ途中買物ヲシツ、太田ニ行ク 小川三良君依頼ノ發動機ノコトニツキ話シナガラツヒデノ如ク氏製作ノ發動機ノコトニ及ビ向デ何ニカツケル飛行機ガアツタラ試験シテ下サイトノコトニ最(ママ)非ヤラセテ下サイト今日ノ目的ヲ達シ帰途買物ヲシテアマリ頭痛ガスルノデ帰宅 アンマヲ取ル
白戸ヨリ無事終ルトノ入電アリ

▲▼213ページ▲▼ 大正7(1918)年7月19日(金)

天気 晴

エルブリッジ組立 エウルト(ママ)ニヨツテ径ガ少シ近イサクナツタ
今日ハ手紙ヲ一二本書ク 高林氏ヨリ大島ニ居ルトノ通信ガアツタ 行ツテ見タイ氣ガシタ

後チケーバーヲ作ルベク製圖シタリ材料ヲ書キ出シタリシタ後 尚アルバトロスノスケッチヲヤル

吉午後ヨリ白戸ノ處ヘ行ク 夕方僕等ガ夕食ノ準備 帰ッテ來タ
青島モ午後帰ッテ來タ

▲▼214ページ▲▼ 大正7(1918)年7月20日(土)

天気 曇リ

後チ晴レ

藤原練習二回 今日ノ直線飛行大ニヨシ

十一時ノ列車ニテ佐野ト上京 買物ヲナシ佐藤ヘタンバック注文シ加藤ニ行キ木型ヲ注文シ尚プロヘラ材料送ッテ貰フコトニシタ

鳥飼ニ行ク 皆モ來テ居タ 相羽君モ來タノデ共ニ行ク。四時半頃一通リソロツタガ所沢ノ連中ガ協会ノ爲メ留メラレタトノコト 大ニフンガイ者ガ出來終ル迄協会ノ攻撃ヲヤルモノガアレバソレハイケヌト云フモノモアリ 又會末デモ一ゴタ、ハアリ 大ニ活氣アルモノデアッタ 然シ余ノ理想トシテハ單ナル社交俱樂部トシタカッタノデアッタガ最初カラ決議事項ガアッタリシタノデ面白クナカッタ
終列車ニテ帰ル

▲▼215ページ▲▼ 大正7(1918)年7月21日(日)

藤原練習直線一回 今頃ハ中々ヨク云フコトヲ聞イテヤッテ呉レル 大ニ宜(ウマ)クモナツタ

機ノ正面ヲ写真ニ取ル スグ現像ス 大ニヨカッタ

後チノームノ機体デ皆ヲ写シタ コレモヨカッタ

午後午睡ヲ取ル

▲▼216ページ▲▼ 大正7(1918)年7月22日(月)

アルバトロスノスケッチ中白戸ノ妻君來 其内タノンデ居イタ車來リ十時二十分ニテ上京 鳥飼ヨリ電話カケタガ立花不在 晝食後阿部ニ行キ雜誌ヲ見ル 阿部不在 二時去ッテ立花ヲ訪フ マダ帰ラズ 散髪ニ行キ待合セル 四時頃帰ル 社交的機関ニシテサシ當リ事業ヲ飛行會ノ外ヤラナイコトニシタ方ガヨカロウトノコトニ一致シタ 事俱樂部ノ家ノ金基本金五百円八岸氏百五十円 中外百五十円 磯部百円 自分百円ト云フコトニシテアツメルコトニナツタ

千疋屋ニテ夕食 知覽ニ大原ノ手紙受取ル 七千円飛行機付ノ由 ヤメニシタ

少シ買物ヲナシ八時四十分ニテ帰宅 月ヨク帰宅後皆ト月ヲサカナニ一杯ノミツ、夕食ヲヤル

▲▼217ページ▲▼ 大正7(1918)年7月23日(火)

天気晴

藤原午前低空ニテ旋回 午後又一回大キク八字型ニ旋回 無事着陸 乗ナレテ居ルダケニ飛ブ様ニナツテカラハ如何ニモ楽ソウデアッタ 夜祝宴ヲ張ル 今日ハアルバトロスノスケツチヲ終リソツプウイズノ三葉モ写ス 練習生希望者ノ返信一通出ス

▲▼218ページ▲▼ 大正7(1918)年7月24日(水)

天気晴

藤原午前旋回二回右廻リ 午後左廻リ 大回一廻 幕張上空百米位ニテ右翼アオラレ、スローニセシ爲メ左ニサイドスリッパ 大ニオドロキシモヤツト無事ナルヲ得タリ 三時頃鳥飼氏有羽小川三氏來 鳥飼氏所用アリ 大急ギニテ帰京 有羽小川両氏夕食後帰京 山県一回 雨少シアリ小円ニテ中止 余初メテ飛行セル写真ヲ取ル 大出來ナリシモ乾燥ヲ急ギシ爲メ佐野日光ニ直射サセシ爲メ台ナシニナス 昨夕ウエルト器具來ル スエ付ヲナス

▲▼219ページ▲▼ 大正7(1918)年7月25日(木)

風アリ練習中止セシム 朝來客ノ用意ニ自分船橋へ買物ニ行ク 二時頃阿部、立花、大坂朝報ノ中島君ガ來タ 久シ振リノ面會 知覽ハ親類ニ死人ガ出來デ來ラレナカッタソウダ

立花ノ話ニチエック軍カラ飛行機ヲ買ヒニ來タガローンヲ讓ツテ貰ヒタイトノコトニ大原ノ手紙ヲ見セル 明日極マリソウデアアレバ打電次第僕モ上京スルコトニシタ 俱樂部ノ金百円請求ガアッタノデ明日持タシテヤルコトニシタ 四時何分カデ帰ヘッタガ後チ巡查ガ來テ今日來タ人ノ名ヲ聞キタイト云フノデ変ニ思タガ多分立花君ノ乗ッタ車ガコワレデ墜落シタトノコトデアッタ

▲▼220ページ▲▼ 大正7(1918)年7月26日(金)

天気晴

山県風ノ中ノ練習ヲヤル 約五六米 稻毛方面ヲ一週(ママ)シテ帰ル 七八百米急降
下練習モヤル

藤原上京ニ金百円立花君ニ事傳テル
余エツフェル原書ヨリカーブヲ写ス

▲▼221ページ▲▼ 大正7(1918)年7月27日(土)

天気 晴風強シ

時事 下ノ関駅ニテ火薬爆発

終日エツフェル原書ヨリカーブヲ写ス

練習休ミ

▲▼222ページ▲▼ 大正7(1918)年7月28日(日)

天気 晴

朝早く立花君ヨリ來テ呉レトノ電報アリ 八時ニテ上京 立花ニ行ク ローンノ賣方順
潮(ママ)ニ運ブトノコト シバラク待ツ内ガストムウイリアムスノ宮下氏來 引ツゞキ武井
重雄氏來。尾崎君ガ又々首ヲツツコンデ來タトノコトニ少シメン到(ママ)ダナト思ツタ
立花君晝食時セミヨーノフノ使者鷺尾某ニ會フベク出テ行ク。井上中尉モ來合セタレバ
氏ト二人ニテ晝食後余ハ廿騎町ニ岩橋ヲ訪ネタレドモワカラス阿部ニ行キ四時頃立花
ニ行ク マダ帰ラナイトノコトニ鳥飼ニ行ク コニテ電話ニテ打合セラナシ日華ニテ食
立花阿部自分 立花明夕尾崎ニ會フコトニナッタトノコト 自分ハ兎ニ角大原ヲ介シテ
話ヲツナイデ居クコトヲ引受ケタ ソノ爲メ明日又來ルコトニシテ大原ニ打電ス
九時四十五分ニテ帰ル 磯部氏外三人ニテ來場セリトノコト

▲▼223ページ▲▼ 大正7(1918)年7月29日(月)

天気 晴

時事 藤原墜落

今日モ昨日ノ汽車デ上京 大原ニスグ行ク 自分トシテハアノ値段ヨリ張込メナイガ至
急ニタノマレタカラト云フコトニシテスグ手紙出シテ貰フ 其由立花へ電話デ返ズ 鳥飼
ニテ晝食 佐野來ル 数見氏ヨリ自動車デ迎ヘガ來タノデ行ク 松本ニ會フ 羽田ニ居
タコトガアルトノコト

買物ヲナシ帰ル 車屋ニ聞クト藤原ガ墜タトノコトニ立寄ルト両眼ノ目ジリト鼻柱ト左
ノ腕ト包帯シテ居タ 左ノウデハ大分深イトノコト

墜落模様ハ本人ハ包ム様ニスルカラ山県ニ聞ク 例ノ氣象カラヤツタガ過日ノ様ニナツタ

ノデメン喰ヒカシガツテ下ゲタ迄ハ分カツテ居ルガソレカラハ夢中デアッタラシイ コノ先ヤレルカドーカ丁度ヤメルコトヲ觀(ママ)ユクスル必要ガアル アノマヽデ進メバキツト命ヲ取ラレル時ガ來ルダロト思ワレル

▲▼224ページ▲▼ 大正7(1918)年7月30日(火)

天気 晴

山県佐野 發動機修理ノ爲メ上京 後チニ聞ケバ藤原モ行ツタトノコト 夕方帰ル 友野へ頼ンダ由
今朝船橋ノ眼科醫ニ見テ貰フ 大シタ原因デモナカッタノデ安心ス 今日ハ鳥小屋ヲ掃除シタリ静カニ終ル

▲▼225ページ▲▼ 大正7(1918)年7月31日(水)

天気 晴

藤原君母昨夜來タトノコト 夕方挨拶ニ來タ 藤原君ヨリ母ニ金ノコト云ヒニクイノデ僕ガ立替テ直シテ呉レルト母ニ話シテ居クカラ前ノニサイクル發動機ト自分ノ自轉車ヲ提供スルカラ一ツ頼ムトノコト 尚足ラナイ處ハ追テ御返シスルトノコト 自分モ大分手元ガウスクナツテ來タ處ナノデ困ルト思ツタガ承知シテ居イタ 夕方明日買物ニ七十円渡ス
今日ハエツフェル原書ヨリノカーブ皆写シ終ル

▲▼226ページ▲▼ 補遺

飛行俱樂部創立

藤原旋回飛行ト破壊迄

▲▼227ページ▲▼ 八月

七月ノ予定ヲ行フコト
練習機製作ノコト

▲▼228ページ▲▼ 大正7(1918)年8月1日(木)

天気 晴

山県一回旋回 写真取ル ヤ、ウマク行ツタ 佐野滑走二往復 後チ山県二同乗 直線
飛行一回
午後エツフェル原書ヲウツス終ル
過日藤原墜落ヲ自分ト間違イ各新聞ニ大キク出タノデ見舞ガ來テ驚イタ
藤原上京

▲▼229ページ▲▼ 大正7(1918)年8月2日(金)

天気 晴

お晝前思ヒガケナク甚太郎氏來 今夜カ明日帰坂スルトノコト 四時頃迄遊ンデ帰ル
今日ハ眞田虫退治ヲヤルツモリデ朝食ヲヤラナカタガ甚太郎氏ガ來タノデ晝ハヤツテ
夜丈ヌキニシテ下剤ヲノミ床ニ入ル

▲▼230ページ▲▼ 大正7(1918)年8月3日(土)

天気 晴

六時頃除虫済(ママ)ヲ半分ノミ後一時間ニテ又半分ノム 後チ二時間シテ下剤ヲノム
ノデアツタガソレヲノマナイ内ニ出テシマッタ。キレイニ洗ッテヨクシラベタガ頭ラシイモノ
ガナイノデ下剤ヲンダガツヒニ出ナカッタ 虫ハ驚クベキ長イモノデアツタ

▲▼231ページ▲▼ 大正7(1918)年8月4日(日)

天気 晴北東風

昨夜來大分涼シク秋ノ様ナ氣分デアツタ
白戸今日上京シテ呉レトノ手紙デアツタガ夕方帰ルトノコト二千葉へ行クコトニシタ 丁
度汽車デ一所ニナツテシマッタ。夕食後帰ヘル
ニーサイクルノ設計ト午後リバーノ製圖ヲナス

▲▼232ページ▲▼ 大正7(1918)年8月5日(月)

昨日ノ記事本日ノモノ一日送り

▲▼233ページ▲▼ 大正7(1918)年8月6日(火)

天気 雨

涙香ノ島ノ娘ヲ讀ム 他ノ事ハ出來ナカッタ
信太郎下痢ト迫行カナイガ今日ハ四回バカリシクジテ吉ニシカラレテ居タ

▲▼234ページ▲▼ 大正7(1918)年8月7日(水)

天気 曇リ少雨

白戸トノ約束ガアルノデ九時半ニテ上京 友野サンニ行ツタガ不在 波賀ニ行ク 藤原君ニ四十五円渡ス 出デ、阿部ニ行ク 不在デアッタガ間モナク帰ツテ來タ 事務所へ阿部君處ノ石野君ヲ入レルコトニナツタトノコト 二時頃ジシテ鳥飼ニ行ク 阿部へ協会ノ昭会(ママ)デ朝鮮飛行ノ申込ミアッタニ附キ飛行機ト豊サンヲ借リルコトヲ話ス 承知シテ呉レタ

白戸ニ電話カケル 演習召集ガ臨時召集ニカワツタトノコト 兎三角有恒館ニ行キ會フ 十一時入営ニナツテ戦ノ終ル迄六ツケ敷トノコトニ明日善後策ヲ立テルコトニシタ 余ガ千葉行クニシタ

立花君六時頃來 パタソン返(ママ)对ニツキ僕ヤ白戸ノ名ヲ一所ニ書イテ檄文ヲ出スコトニシタトノコト 余リ好マシイコトデハナイガ彼レニマカセルコトニシタ
九時四十分ニテ帰津

▲▼235ページ▲▼ 大正7(1918)年8月8日(木)

天気 晴

午前中金錢勘定ヤ手紙ノ整理ト練習機ノ設計
午後一時半ニテ千葉ニ行キ白戸入営後ノ打合せヲナシタ食後帰宅
碁盤ヲ買テ帰タノデ早速佐野君ト二石ヤル 最初自分黒ニテ勝ち二回目白ニテ八目勝ツ

ニワ鳥コーチン九羽ト取替ヘル 今日三個玉子ヲ産ム

▲▼236ページ▲▼ 大正7(1918)年8月9日(金)

天気 晴

白戸ノ約束デ八時三十分出發 白戸ト共ニ先ヅ中外ニ立花ヲ訪フ 海軍省へ行ツタトノコト 事務所へ行ク シバラクシテ阿部來ル 大江君トノ交渉ヲタノム。内藤氏來 立花モ帰ル 外ニ二人壯士ノ様ナ男ヲ二人連レテ居タ。パタソン事件デ運動中トノコト 自分モ白戸モ余リ氣ハ進マナカッタ。記者俱樂部ノ連中ガ櫛引トノ間ニ調定(ママ)シヨートシテ居ルトノコト 自分ハ賛成デアッタガ内藤君ガ大分シリオシラシカッタ 磯部氏來。パタソン事件ハ立花固(ママ)人トシテ飛行俱樂部ニ類(ママ)ハ及サナイ事トシ俱樂部

ノ事ヲ一ニ議ス 磯部氏ハ佛國デ死シタ小林君ノ件自分ニマカセテ呉レトノコトニ一任ス
コレハ俱樂部ノ名ヲ利用スルコトハ勿論ナリ
帰途鳥飼ニヨル 高橋氏十五日米國へ出發スルトノコト 發動機一台頼ンダガ君ハドウ
カトノコトニ二台タノムデ呉レト云フテ居イタ 金六ドローニカナル見込ミ

◆◆237ページ◆◆ 大正7(1918)年8月10日(土)

天気晴

練習機設計 千葉ヨリ島田君來 共二時ニテ上京 鳥飼ニ行ク 白戸待ツテ居タ お
別レダトテ例ノ待合ニ行ク 余勘定ヲ拂フ 新宿迄自動車賃四円ト祝儀一円ヲ入レテ
三十円 七時ニテ出發 所沢着 宿ハ入営青年デーパイ

◆◆238ページ◆◆ 大正7(1918)年8月11日(日)

六時起床 朝食後送ッテ行ク 七時整列入隊 表ニ待ツ間三時間 マダ一時間バカリ
カハルトノコトニ練習ヲ見ニ行ク モーリスデ盛ンニヤツテ居タ カナリモヤガアッタ ニ
ーポールノ五十馬デニ三人滑走練習ヲヤツテ居タ 十一時軍服デヤツテ來タ 十四
日出發 第一次デ出ルコトニナツタトノコト 麥田中尉引ソツトノコト 出發時刻八十四
日午後五時三十五分 十四日午後七時六分新宿 五時間バカリ停車スル由 妻君へ
十四日タツスグイト打電ス 午後外出スルトノコトニ待ツテタガツヒニ來ラズ 四時行
キテ面會 妻君來ル迄余待ツコトニシタ 夜ウツ、眠リカケタ處へ妻君來ル

◆◆239ページ◆◆ 大正7(1918)年8月12日(月)

天気晴

朝食後妻君ト飛行場ニ行キ練習ヲ見ル ニューポール五十馬デ又滑走ヲヤツテ居タ
昨日ノ人ト違ワナイノダローガ下手ナコトオ話ニナラナイ 五六年前ノ練習ノヤリ方
ダソレカラ神明様ヲ見テ帰途自分ダケ三上ノ宅ニヨリ帰ル 吉カラ阿部ヨリ早ク來
イトノ電報アリタリトノコトニ二時ニテ帰ル 阿部ニヨル 大江氏ノ話デアッタ 僕ガ本
氣ニヤルナラ大ニヤルトノ意見デ至急ニ會ヒタイトノコトデアッタ 電話ヲカケタガ不在
ナノデ明日會ッテ會見ノ日時ヲ打合セテ居イテ貰フコトニシタ 夕食ヲ馳走ニナリ鳥飼
ニヨル 高橋君ノ送別會ニ生洲へ行ッテ留都(ママ) ソコへお春サンカラ電話ガカ、ッテお
母サンガ來テ居ラレテ會ヒタイトノコト 明日行カナケレバ十六日僕ノ在宅日ニ行クト
ノコト。阿部ニテ立花ノ激方ナルモノヲ見タ 甚ダ激方デアッタ 事務所ハ壯士ノ様ナモ
ノバカリダトノコトニ當方行カナイト極メタ

▲▼240ページ▲▼ 大正7(1918)年8月13日(火)

天気晴

金銭出入ヲ付ケ手紙ヲ見設計ニカ、ル
ナホ、キン、ト一所ニ吉ヲ稲毛ヘヤル筈ノ處ヘ河村ノお母サント要チヤント外ニ要チヤン
ノ姉サントデ來タ 田舎ニ居ラレナイノデ東京デ家ヲ持チタイトノコト お春サンガ
月々十円位出シテ呉レルト云フ話デアッタ 外ニ神田カラ交渉シテ呉レテ家賃ヲ貰ヘル
様ニスルトイナルダロトモ云ツタ 兎ニ角東京ニお住イニナツタラヨイデシヨト答エテ
居イタ ドノ程度迄御補助スルトハ云ワナカッタガ五十円カラ百円位ハ入ルダロー 處
デ内ノ現在金ガ五百円足ラズヨリナイノデ少々心細イ時ナノデ好マシクハナイガ仕方
モアルマイ 老イテカラノ苦勞ダカラ 然シ女中ヲ居クナドハ僕ニ取ツテハ不賛成ナコト
デアッタ

▲▼241ページ▲▼ 大正7(1918)年8月14日(水)

天気晴

少シ設計 晝食後河村母ト同道上京 車中小イサナ家ヲ持ツ事ヲ承諾ス 三十円内
金トシテ渡ス 夕方神田ノお母サンニ會フコトヲ約シテ鳥飼ニ立寄ル 山県佐野全帰ッ
タトノコト 行チガイニナル 俱樂部ニ行ク 今夜十二時出發ニナツタコトヲ報告シテ散
髪シ鳥飼ニ帰ル 高橋君洋行 發動機ノ件鳥飼氏八千円位ニテ東京着ノ予定ナソウナ
アマリアイト思タガソレナラニ台ハ大丈夫ト思テ最(ママ)非頼ム事ニシタ

河村ト神田ノ母來 共ニ永坂ノ更科ニ行キ夕食ヲナシ河村母ノ事ヲ頼ミ頼マレテ余ハ
立花ノ約束ニテ俱樂部ニ行ク パタソン事件ニツキ金ヲ四五百立替テ貰ヒタイトノコト
デアッタガ余ノ今日ノ手紙許デハトテモダメナノデコトワツタ

十一時迄横ニナツタガヨク眠レナカッタ 今夜ハ大分米ソウドウガハゲシイトノコト

十一時半起テ新宿ニ行 山県ト石野居ル 入場間モナク列車來ル 徳川氏モ居ラレタ

白戸ニ俱樂部ト鳥飼ヨリノ送別ヲワタス 兵士ハ中々元氣デアッタ 二時帰俱樂部

二時半眠ル 阿部ト共ニ

▲▼242ページ▲▼ 大正7(1918)年8月15日(木)

天気晴

五時半起床 六時阿部ト大江氏訪問ニ行ク マダ休ンデ居ラレタ 少時待ツテ會フ 数
見氏ノ事ヤ大江氏ノ経歴ヲ聞ク 大ニ感動スベキ點バカリデアッタガタゞ一ツ氏ガ人ニ
厚キコトヲ自カラ人ニシラシメラルハノガマダ少シ若イト思ツタ ソシテ自分ニ引クラベ大
ニ自分モ今後人ノ世話シタコトヲ人ニ語ラナイト極メタ

イヨ、本問題ニ入り氏自身金ガナイカラガストムノ石川氏ニ紹介(ママ)仕様 シカシ一度照會シタ以上八氏自身責任ヲ負ノ性分ダカラ夫ヲ信用シナケレバシナイノデアルシ自分ハ君ヲ信ズルカラ近日シテヤロートノコトデアッタ 余リ悪イ心持ハシナカッタ 帰リニ飛行協會ニ高木氏ヲ訪フ 一時間バカリ會談 井上幾太郎少将ニ照會ヲ貰ツテ途中井門曹長ニ會フ 晝後上野ノ博覽會ニ行キ三時ニテ帰津ス

▲▼243ページ▲▼ 大正7(1918)年8月16日(金)

天気晴

午前中練習機設計 十時頃白戸ノ妻君札ニ來ル 晝食後帰ル 午後頭痛ノ爲メ寢ル

▲▼244ページ▲▼ 大正7(1918)年8月17日(土)

天気晴

午前山県練習写真眞取ル 雲ガヨク写ツテ居タ
練習機設計 四時頃頭ガ痛ミ出シタノデ中止
大坂ヨリ米イクラデモ買エル安心セヨトノ電報アリタリ

▲▼245ページ▲▼ 大正7(1918)年8月18日(日)

天気晴

練習機設計ト材料書出シ青島ニ渡ス
滑車製圖 講義録合本ニス
夕方庭掃除ス
山県帰京

▲▼246ページ▲▼ 大正7(1918)年8月19日(月)

天気晴

八時ニテ千葉ニ行キ岩田鉄工所ニテ鋳物受取り白戸ニ行ク 申込ミ一人アッタ 十月一日入所スル様返事出スコトニシタ 田村ガ飛行機コワシ白戸ノヲ借りニ行ツタトノコト尚同機ハ金ノカワリニ押エル権利アリナド云ヒフラシ居ル由 場合ニヨリ同機ハ小生譲リ受ケタルコトニ証書作クルコトニス
アンザニ滑走シテ居タガシヤフトノベメ方足ラナカッタ爲メスツビル道トプロペラヲ小破シタ

十一時ニテ稲毛ニ行キ晝食ヲ馳走ニナリ四時ニテ帰津ス

▲▼247ページ▲▼ 大正7(1918)年8月20日(火)

天気晴

午前中手紙ノ整理 金銭収納 大坂ニ見セル計算書等ヲツクル
午後上京 須原ニ行ク お母サンニ五十円敷金渡ス お春サンモ丁度居タ スシトビー
ルヲ馳走ニナリ鳥飼ニ行ク 知覧ニ電話カケル 三十分程シタラ行クトノコトニ待ツ 例
ノパタソンノコトデアッタ 一所ニ名ヲ出シタコトハヨクナイトノコトデアッタ 自分ハ別ニ
何ントモ考ヘテ居ナイシ名ヲ貸シテ呉レト云ノデ貸シタ迄ダト云ツタ 後鳥飼ノ馳走デ
花月ニテ夕食 大ニ話ガハツンデ今製作所ヲ作ルニ最モ好機會ナルコトヲ知ツタ 大ニヤ
ロー
事務所ニ行キ磯部氏ノ切符返シ五円金拂フ 中沢君居タ シバラクスルト立花君來タ
自分ハ白戸ノ方ト急(ママ)ガシイカラ中沢君ニヤツテ貰フコトヲ頼ンダ

▲▼248ページ▲▼ 大正7(1918)年8月21日(水)

天気晴

機体ノ現圖ヲ引ク

夜大江氏へ手紙出サセル

阿部ヨリ五十円送ツテ來タ

夜藤原來 母ヨリ最(ママ)非帰ツテ飛ベトノ手紙來タ由 自分デハ過日練習ヲウントヤ
ラネバナラスト云ツテ居イタノデ相談ニ來タノデアッタガ兎ニ角修理シタ機体ガマダ試
験ガスンデイナイノダカラ一ニ日練習シタ上ノコトニシタラヨカロウト云ツテ居イタ

▲▼249ページ▲▼ 大正7(1918)年8月22日(木)

天気晴

練習機製圖 午後フオカー三葉製圖 製作ノコト山県ヲ顧問トシ木工青島金物佐野ニ

依頼ス

夕方夕陽ヲハイ影(ママ)ニ荷馬車ヲ一枚取リスグ現像 ウマクイッテ居タ

▲▼250ページ▲▼ 大正7(1918)年8月23日(金)

天気晴

朝宅ノ全影(ママ)ヲ写シ晝迄ニ仕上げル

晝食後一時二十分ニテ成田行クツモリノ處銚子行デアッタノデ約一時間待チ二時十

分ニテ行ク お参リヲスマシ停車場ニ帰り發車迄約十分アツタノデドーボンヤリシタノカベルノ鳴ル迄待合所ニウロツキ乗リオクレニ二時間待ツコトニナツタノデ成田利生記ヲ二十五銭デ買ツテ讀ム 千葉ニ下車 白戸へ一寸行キ高橋君ヨリノ手紙ヲ見テ九時ニテ帰ル 夕食ヲタバナカッタノデ宅デ喰ツタガお飯ガナク少シ別ニタクヤラ大變オソクナツタ ヤット床ニ入ツテカラ吉ノ様子ガドーモ朝カラオカシイデ話シテ見ルトお母サンノ宅ヲ持タセタコトデ大坂デ井上ガ話シタコトヲ思ヒ出シ何ンダカオカシイ様ニ思テプリ、シテ居ルノデアツタ 馬鹿々々シイ お陰デ寢ソビレテオソクナツタ

▲▼251ページ▲▼ 大正7(1918)年8月24日(土)

天気 晴

お吉今日ハ一日氣(ママ)嫌悪シク自分モ氣持チ悪ルカッタ トートーシカリツケタラ泣キ出シタガソレデモワカッタカタ方カラ氣(ママ)嫌ヲ直スノニツトメルノガ目ニ見エタ 然シゴウ性(ママ)ナヤツダケニアヤマツタリお世辭ヲ取ル様ナコトヲシナイ タゞ自分ノイカリヲシヅメ様トスルダケノコトダ
日野式ノ配電盤ヲ製圖ス

▲▼252ページ▲▼ 大正7(1918)年8月25日(日)

天気 晴

～パタソン所沢へ飛ブ
兄ニヤルビンガ見エナクテ大サワギシタ 爲メガナカッタ ビールデー一杯出シタノデノム車ガ迎エニ來タ 佐野ニ郵便ノコトヲ託シ山県ニ配電盤ノコトヲタノム
十一時ニテ上京 鳥飼氏ニヨリスグ阿部ニ行ク 大江氏ノ方依頼ス 夕方知覽ニ電話カケル 土産物ナド買物ヲ終リテ七時出發 割合ニ混マナカッタノデ樂ニ眠レタ。本ヲ一冊買ツテ這入ツタガ横浜過ギルトスグ眠ツテシマツタ

▲▼253ページ▲▼ 大正7(1918)年8月26日(月)

天気 晴

朝九時帰宅シタ ソレ、土産物ヲクバリ午後西ノ宅ニ行キ晝寢シタリ御馳走ニナツテ帰ル 井上來ル

▲▼254ページ▲▼ 大正7(1918)年8月27日(火)

天気 晴

今朝兄ニ計畫ヲ話シス 午後大山館ノ活動ヲ見ル 夕食ハ裏テ鳥ヲ買ツテ呉レタ 食後兄ノ小供ヲ皆連レテ新世界ニ行ク

▲▼2555ページ▲▼ 大正7(1918)年8月28日(水)

天気 晴

西ノ兄ガ迎ヘニ來テ呉レタ 共ニ行ク 長堀橋カラ整列シテ育英校ニ入ル 校庭ヲ二ツニシキリ余等ハ乙組ニテ點呼ヲ受ケル 一時終ル 工場ニ行ク。更ニ計畫ニツキクワシク話シ同意ヲモトム
今夕河野坂口君等ガ馳走スルトノコトナリシモ坂口君所用アリ明日ニ延期。帰宅スベク西ノ宅ニヨリ井上長居リ西ノ兄ト三人ニテ夕食ニ行ク 自分拂フ

▲▼2556ページ▲▼ 大正7(1918)年8月29日(木)

天気 曇後雨

朝入浴 父ト九時半宅ヲ出テ池田ノ福永ヲ訪フ エンジンモナオリ試運轉モスンダトノコト

買物ヲタノマレ百円受取ル スグ箕面ヘ行ク 瀧ノ前ニテ二時半頃ヨリ晝食ニカハル 寒イクライデアッタ 父ハ兄ノ事ガウルサクシバラクドコカエ行キタイナド云ツテ居タ
五時半帰宅 兄ニ電話ヲカケル 菱富ニ居ルトノコトニ行ク 河野坂口両氏ト會食後新世界ニ歸リ兄ト松葉屋ニテ遊ビ十二時帰宅 雨風ハゲシ

▲▼2557ページ▲▼ 大正7(1918)年8月30日(金)

天気 晴

十一時漸ク目醒メル 晝食後工場ニ行ク 兄不在 三時半頃歸ル迄待チ工場健(ママ)設費ノ予算書ヲ渡ス 五千ト八十円ニナッタ 夕方入浴後帰宅 父ト浪花坐ニ奈良丸ヲ聞キニ行ク 裏ノ兄後チ來ル 十一時終ツテ歸ル 奈良丸ノ語り初ハ南部坂雪ノワカレデアッタ 七年前岡山デ聞イタ時ト多少違ッタ處ガアッタ ハタシテドチラガヨイカハ分カラナイガヤリロガ益々軽クナッタ來タ様ニ思ツタ

▲▼2558ページ▲▼ 大正7(1918)年8月31日(土)

天気 晴

佐渡島ヘ行クベク住吉ニ行ク 御不在中ニテスグ歸ル 帰途呉服券ヲ求メ下大和橋ニ行ク 井上不在 荒瀬ト妻君ニ會フ 十円券ヲ贈ル 藤原歸リ來リタリトノコト スグ歸

宅ス 丁度十二時 藤原ヤハリ來タガ明日來ルトテ歸タトノコト
午後アンマヲ取ル 夕食ハ裏デカシワガ出テ皆一所ニ喰フ 夜後ノ巖島伯爵ヲ讀ム 十
二時過ギ下痢シテ一度目ヲ醒シ三時頃迄ニヨミ終ル

◆◆259ページ◆◆ 補遺

練習機製作初マル

予定ハ全成サレザリシモ行フベキ一步ハ踏ミタリ ヤ、望ミアリ

◆◆260ページ◆◆ 九月

工場設立、練習機完成

◆◆261ページ◆◆ 大正7(1918)年9月1日(日)

天気晴

今日ハ正午藤原ニ會ヒ晝食ヲ共ニシタルノミ 發動機クランクケース作り替ニ式三百円
入ルトノコト マダ母ニ話サナイトハ余ニナントカシテホシイト云ヒタカッタノダローガ今
ノ場合自分ノ方ガアヤシイノデ氣ハ附イテ居タガ知ラヌ顔シタ 動物園ヲ一寸見テ歸
リ本二三冊求メ讀ム
ツル姉伊セニ行ク

◆◆262ページ◆◆ 大正7(1918)年9月2日(月)

天気晴

兄氣弱ク今日モ竹島ニ話シ得ナカッタノデ自分モ色々考へお晝ヲ見込デ西店ニ行キ
小主人ニ予算書ヲ見セ大ニ話ニツトメタ甲斐アリ大分心動イタ様デアッタ 兎三角ニ
日バカリ貸シテ呉レトノコトニナツタ。後野島氏ヲ訪ネ雑談ニ時間。酒井君ヲ訪フ 丁
度エーテルノ安イノガアッタノデ一箱買フ。夜人來リ運送屋ガ受入レテ呉レタトノコト
明日返事スルコトニシタ 今日北ヨリノ帰途黒田君ニ會フ 数年振りノ會合 夜宅ニ來
リ新世界ヲ散歩ス 大ニ努力論ヲ述べ氏ヲハゲマス後チニ考へ余モマダマンザラ頭ハ悪クナ
イト思ツタ

◆◆263ページ◆◆ 大正7(1918)年9月3日(火)

天気晴

今朝漸ク竹島主人ニ話シテ呉レタトノコトニ後チ余モ行キ計畫ト時機ニツイテ話シ御考ヘノ上何分宜シクト頼ンデ帰ツタ 晝食後佐々木サンエ行キ一時間バカリ話シテ帰ル

夜延次郎君ト一寸新世界ヲ散歩シタ

▲▼264ページ▲▼ 大正7(1918)年9月4日(水)

天気晴

今日ハ最(ママ)非取キメテ帰ルツモリノ處兄ガ話シテ呉レナカッタノト自分デ二度行ツタガ二度共來客ガアッタノデ云エナカッタ

白戸ヨリ電報ニテ十五日岩見沢極メタトノコトヲ云ツテ來タ

午後塗料ヲトカシ荷造ヲナス

▲▼265ページ▲▼ 大正7(1918)年9月5日(木)

天気晴

午前朝兄ガ竹島へ行ツテ呉レテ佐渡島ガ三千元出シタラ式千元出ソウカトノ話シデアツタトノコトニ晝食後西店ニ行ク 不在 シバラク待ツ 帰ツテ來ラレタノデ話ス 式千五百円ト云ツタノデヨシ來タトバカリ承知サレタ モット云エバヨカッタト思タガアトチビ、出スノハイヤダト云ワレタノデ五千元三年間借りテ式千五百円ハスグ貰フ分アト二千五百円ハ預ケ分ト云フコトニ話シタ 快ダクトハ行カナカッタガ笑テ居ラレタ處へ來客ガアッタノデ帰りニ工場ニヨリ兄ニ□話シヲナシ竹島ニ行キ西店ノ通りニ話シス カイダクトハ行カナカッタガ兄ノ相談ノ上下キマタノデ辭シテ今夜出ツコトニシタ 自動車デ送ツテ呉レタ

▲▼266ページ▲▼ 大正7(1918)年9月6日(金)

天気晴

コンダガ多少眠レタ 四時目醒メル 富士ガヨク見ラレタ 帰京ト同時ニ鳥飼ニ行キ阿部ニ行ク 同宅ニテ海野氏ニ會フ 朝鮮鳥飼氏ト相談ノ上三千元ニテキメルコトニシタ 午後三時帰宅 夕食ヲ皆ト共ニス

信太郎顔ヲ見テ一寸ハジカンダガダカリニ來タ

▲▼267ページ▲▼ 大正7(1918)年9月7日(土)

天気 晴

十時頃二三回廻シテ見タ後山県一回ヤル

晝食後稲毛ニ立寄り千葉へ行ク 入所者ノ仕(ママ)末ヲナシ石間、島田、ニ發動機ヲ明日津田沼へ運ブコト、尚來月ヨリモ練習サセテモヨイトノコトモ話シテ見タ 彼レ等ハソレニツキ考ヘタ上返事スルコトニナツタ。石野君へ二十円預ケ出發サセルコトニシタ
夕方帰途板本ニテ道具類ヲ少シ買物ナシ帰ル 夜大工ヲ呼ビニヤル 遠イノデ明朝來ルコトニナツタ

▲▼268ページ▲▼ 大正7(1918)年9月8日(日)

天気 晴後雨

山県一回 佐野直線一回練習

今日保智太郎ノ本宅ヲ作ル チヤボノ箆ハ注文ヲ発ス 茲ニ家族ガ又増シタワケダ
朝早く大工來ル 工場ノ圖ヲ引ク 夕方見積リヲ持ッテ來タ 材木屋ダケガ千二百余円 手間ガ約五百円 金物約四百円 健(ママ)具約二百六十円 家(ママ)根五百円、頭五十円 合計式千九百円 之レデハ下ノコンクリートヲスルト大変高クナルノデ尚詳細ノ見積リヤリナホササルコトニシタ 材木屋ハ他ヲ二、三軒聞合セルト云ツテ居イタ
低気圧來ルオソレアリ準備ス
井上貞夫來ル 將來ノ身ニ振り方ニツイテナル 大器晩成ヲ説ク 夕食後帰ル

▲▼269ページ▲▼ 大正7(1918)年9月9日(月)

天気 雨

今朝大工尚詳細ノ見積リヲナスベシトテ帰ッタ

白戸妻君來 小島ヨリノ電報ニヨレバ宮古ト云フ處出來タトノコト 其他ハモ一御面(ママ)コウムルコトニシタ
アンザニー持参ス 調べテ晝食後石間君ト右田へ持ッテ行ク。余ハ鈴木ニ行キ寄留届ノ印ヲ貰フ。河村ノ宅へ初メテ行ッタ。吉ノ手紙ノ事ニツキお春サンガ最(ママ)非會ヒタイトノ由デアッタガ今日ハ不在ナノデ神田ノお母サン來ル 吉ノ手紙ニヨリ今後お世話ヲ受ケルコト出來ナクナリヤセンカト心配シタル由。九時四十分ニテ帰ル 少シビールヲノミ過ギテ幕張迄乗り越シ徒歩ニテ帰ル

▲▼270ページ▲▼ 大正7(1918)年9月10日(火)

天気 晴

稲垣氏來ルト云フノデ朝カラ待ッ お晝前來ル 丁度鳥飼氏トハツチヤンモ來タ 豊サ

ンノ飛行ヲ見ニ來タノダガ丁度東京へ歸ッタノト行違ニナッタ 稲垣ハ今夜泊ルコトニナル 夕方藤原氏モ歸ツテ來テ夕食ヲ共ニス 稲垣氏ハ來ルコトヲ承諾セラレタガ僕ノ方モスグト云フ訳ニモ行カズ氏モ又學校へ出ラレルノデ今年一パイ位ハ休暇々々ニ來ラレルコトニナッタ

大工大体ノ見積リ作ル。全部デ二千七百円ニナッタ

▲▼271ページ▲▼ 大正7(1918)年9月11日(水)

天気晴

大工來ル 松本デ買ツタ道具モ來ル カザリ付ヲナシ晝食後十二時四十分ニテ立ツ

鳥飼ニ到ル 知覽ニ電話カケシモ不在 阿部ツヒニ來ラズ。お母サンお春サンカラトテサンドウイチヲ持ツテ來テ呉レル

小島氏來 宮古三十日延期出來兼ネル由 ヤムヲ得ズ色々不安ナコトトモアリシモ五百五十円ニテ塩釜宮古間船賃小島持チニテ話マトマリ立ツ

兄ニ金請求セシモ要領ヲ得ザレバ尚念ノ爲メ佐渡島へ借用証書へ二千五百円ト名ヲ書キ入レ東京ヨリ送ル 実印ヲ藤原ニ事傳ケル

▲▼272ページ▲▼ 大正7(1918)年9月12日(木)

天気晴

昨夜カロージテ眠リ得タ 三時青森着 入浴 夕食 スグ船ニノル 中々込ンダ 夜九時半函館着 前ニ來タ時ト港ノ様が大分変テ立派ニナツテ居タ 棧橋停車場ナドモ前ニナカツタモノダ 汽車ハヤハリ込ンダ ヨク眠レナカツタ 青森ヨリ岩見沢へ明朝着ノ旨打電ス

▲▼273ページ▲▼ 大正7(1918)年9月13日(金)

天気晴

八時四十分着 高橋石野君出迎エテ呉レタ 宿ハ駅ノスグ前ノ大キナキタナイ家デアッタ 田村屋トカ云フ

朝食後飛行場ヲ見ニ行ク 場ガセマイ上ニ週(ママ)リガコトゞク植木ガアルノデ飛ビニクイガ幸イナコトニ六南北ニ風ガ吹クガ其方面ダケガヤ、開イテ居ルノデヤレルダロト思ツタ 機体ヲ見ル 今朝五分間、バカリ廻シテ見タトノコト

晝食後吉トハツ子君ニ手紙出ス 主催者カラ一所ニ挨拶ニ廻ソテ呉レトノコトニ行キ役場農學校、警察、支廳、北海タイムス、小樽新聞へ廻リ帰宿後清沢氏ト三十分バカリ余ノ経歴ト飛行界ヲ談ジル ビール半打贈ラル 夜肉ヲ喰ツタガカタカツタ

▲▼274ページ▲▼ 大正7(1918)年9月14日(土)

天気 曇後雨

今朝高橋主催者ヨリ式百円受取ル 後チ飛行機手入ニ行ク 自分モ場ヲ見ニ行ク
ヤ、確信ヲ得ル 正午帰ル 夕方ヨリ雨ニナル 夜清沢氏來 九分九厘迄明日延期ノコ
トト話シテ帰ル 世界ノ三聖人ノ傳ヲ購フ 夜之レヲ讀ム
吉卜久太郎發信

▲▼275ページ▲▼ 大正7(1918)年9月15日(日)

天気 曇後雨

朝ステキナ上天気デアッタが見ル、曇ッテ來タ
九時場ニ行ク 大分組立ガ出來テ居タ

十時半一回發動機試験ヲ行ヒ十一時飛行 風ハ東南七八米突 雲ハ西へ、ト流ガレテ
居タ 三四回百米突位ニテ旋回シテ着陸 着陸ハ馬鹿ニ樂デアッタガ飛行機ハダラ、
シテ右カジノ利カナイニモノ一寸面喰ッタ 降リルトスグ雨が降り出シタ 風モカワ
リ、曇風雨ニ變ジ午後二時頃ニイタリ回復ノ見込ミナク中止スルコトニ主催者側ノ
要求モアリヤメルコトニシタ 少数ノ入場者中金ヲ返ヘセト云フモノガアリ少シゴツイ
タガ最初カラ風雨順延トカイテアルノデ問題ニハナラナカッタ 夕方帰ル

▲▼276ページ▲▼ 大正7(1918)年9月16日(月)

天気 風強シ

天気晴朗ナレドモ風アリ 但シヤレナイコトハナイノデ午前九時頃ニヤル 昨日ノ話ニテ
主催者ニセマッタガ金ガナイノデ二時頃迄入場者ノアルノヲ待ッテ呉レトノコトニシタガ
十一時頃ヨリ風益々ハゲシク二時ニ六風雨トナリ雷サエ加ワリタレバ全々中止トナル
但シ金其後一文モヨサヌ上明日ヤル氣力ナク來月一日カ來年ニシテ呉レトノコト。カ
レコレ一日モ早く帰ル必要アルノデ來春渡道ノツイデガアレバヤルトノコトニ書キ改メ帰
ルコトニナッタ 高橋ハ飛行機ト共ニ室蘭へ明日出發 七時半石野山県ヲ連レ汽車ニ乗
ル 飛電アリ 佐渡島ヨリ式千五百円 兄ヨリ五百円來ルト 大ニヨシ

▲▼277ページ▲▼ 大正7(1918)年9月17日(火)

天気 晴

十五日大坂方面大アレノ由 今日アタリ連絡船ハドウカト思タガ案外タヤスク昨日一

昨日ハヒドカッタトノコトデアッタ 船中兄、佐渡島、吉等へ手紙出ス 青森ニテ晝食
一時半ニテ出發 七時半ガ遅レ八時少シ前盛岡着 三島屋旅館ヲ思ヒ出シテ行ク 坐
敷ナク外ニ軒聞イタガ皆ダメ 一流ダト思テ馬鹿ニシテ居ルト見エル 照又ト云フノニ
泊ル スグ宮古行キノ自動車ヲ聞クト今日行ツタカラ明後日デナケレバダメトノコトニ
他ノ方法ヲ研究スルニ花巻ヨリ釜石ニ出テ釜石ヨリ船ニテ行クヨリ外ナク花巻釜石間ニ
一里半バカリ籠デ峠ヲ越サナケレバナナイトノコト ソコデ山県石野ハ釜石マワリ 自
分ハ自動車ト云フコトニシタ 向フへ着ク時間ハ丁度十九日ノ三時頃ニドチラモナルノデ
アッタ

◆▼278ページ◆▼ 大正7(1918)年9月18日(水)

天気 晴後曇リ少雨

七時半ニテ山県石野釜石へ出發 後チ朝食後鳥飼氏ニ打電 散髪後シヤカヲ讀ミ十時
頃宿ヲ出テ物産館ニ禿氏ヲ訪フ マダ來ラズ 公園散歩後再ビ行ク 面會約一時間後
同氏経営ノ同所ニ於ケル展覽會ヲ見分カレテ晝食ヲ取り帰宅 シヤカヲ讀ミ大ニ得ル
處アリタリ タ方禿氏氏來。旗亭ニトモナワレタ食ト盛岡美人ノ馳走ヲ受ケ八時帰宅
アンマヲ取り床ニ入ル 吉へ手紙出ス

◆▼279ページ◆▼ 大正7(1918)年9月19日(木)

天気 雨後晴

三時目サメタレドモ雨ハゲシク五時頃女中來 自動車出カネルトノコト 再ビ床ニ入ル
五時半頃小ヤミトナル 出ルトノコト 大急ギニ仕度シテ出ル ファイアットノ乗合 中々
ヨク出來テ居タ ラジエーターニパチガアッタノデ墜落自動車ダナト思ツタ ソシテ心ニ
無事ヲ念ジタ

六時出發 川内ニテ晝食 五時宮古着 沿道風光絶佳 時ニ危険ヲモワスル、程ナリキ
佐野迎へニ來テ居タノデ飛行機ガツイタコトハ安心シタ シカモ展覽會ヲヤツテ居ルトノ
コト 山県ハ夜ニナル由 一寸宿ニ行キスグ展覽會場ニ行キ分解 運送ハ明早朝トシテ場
ヲ見ニ行ク 風サエナケレバ上等ノ場所ニテ之レモ安心 食後小島氏ヨリ展覽會ノ話ア
リ 式百円手取り入用向持一ヶ所ダケ承知ノ旨返スル

◆▼280ページ◆▼ 大正7(1918)年9月20日(金)

天気 雨後曇リ

ピシヤ、雨 午後漸ク止ム 中止シテエンジンテスヲ行フ

余写真一葉写ス 夜アンマヲ取ル 菊池長兵衛氏ヨリ照待(ママ)アリ小島山縣ト行ク

來會者約十四五名 町長モアリタリ 約二時間ニテ辭シ歸リテ床ニ入ル 満月ナレドモ
月僅カニ見エタルノミ

◆▼281ページ◆▼ 大正7(1918)年9月21日(土)

天気 晴

曇リタレドモ静カニ晴レ風ナシ 五時起床運搬ニ行ク 余ハ六時起床 場ニ行ク 組立
九時前ヨリ第一回飛行 五百米突ニ達シ三週(ママ)シテ着陸 二週(ママ)目迄ハ何ンダ
カ不安デムネガドキ、シテ居タガボールプランニ写ッテカラハナントモナカッタ 変ナモ
ノダ ソレデモ無事着陸シタ 自分ハ写真ヲ二枚写シタ 十時過ぎ第二回ヲ二週(ママ)
シテ着陸 入場多数大成功デアッタ 發動機調子變リ非常ニ飛ビニクカッタトノコト
午後ハ其故ヲ以テ中止ス 山田展覽會ダケニス 然シタ方最(ママ)非場所ダケ見テ呉レ
トノコトニ自分モ行クコトニシタ 六時飛行機ト共ニ發動機船ニノル 九時過ぎ山田着
木傳旅館ニ入ル 機ハ芝居小屋ニ入レル 夕食後十二時床ニ入ル

◆▼282ページ◆▼ 大正7(1918)年9月22日(日)

天気 曇リ

朝起キルトスグ飛行場ヲ見ニ行ク 地ナラシスレバドーニカコーニカ出來ナイコトハナイガ
飛行スルロガ一方ナノト發動機ガ思ワシクナイ爲メ山県モ乗リタクナイノデコトワルコ
トニシタ 主催者ハ非常ニ熱心デ其後ニ三ヶ所見セテ呉レタガイヅレモ問題ニナラナカッ
タ 少時舟遊ビヲナシ晝食後展覽會ノ契約書ヲ作り金モ全額受取ル 金ハスベテ山県ニ
渡ス 今日迄ノ勘定モ

◆▼283ページ◆▼ 大正7(1918)年9月23日(月)

天気 曇リ

午前二時汽笛ノ音ニスグ飛ビ起キ小島、佐野山県ノ見送りヲ受ケ出發ス 其間ギワ山
県ニ此處ノ二百円ハ鳥飼氏モ不意ノ入金ニ付僕ノ方へ入レテ貰フ様依頼ス 金渡シタモ
其爲メナリ 三時出航 十時釜石着 鈴子迄車 駅前ニテ朝食ト晝食ヲ兼ネテビール
ヲノム 十二時発 一時大橋着 梨子二個ヲ求メクツノマ、登ル 小學生ノ多数下ルニ
會フ 登リ三十丁ヲ一時間十分 下リ二十二丁ハ三十五分ニテ仙人峠駅着 四時發ニ
テ七時半花巻着 余リ寒イノト腹ガヘッタノデソバニ杯ヲ喰フ 列車ヤ、遅レテ着 車
中中外ノ内藤氏ニ會フ 鉄鉦山ノ用件ニテ津輕ニ行キ帰ルナリト 仙台ニ下車ス

◆▼284ページ◆▼ 大正7(1918)年9月24日(火)

天気 雨曇風

宇都ノ宮辺ヨリ風雨ハゲシクナル 上野着 車ニテ鳥飼ニ行ク 雨ヤム 白戸ノ妻君モ居
タ 花月ニテ晝食ヲ馳走ニナル 藤原ニ會フ 一時ニテ帰ル 風マス、ハゲシク帰宅後格
納庫ヲ方ツケル 夕方波高クナル 左官屋モ非難(ママ)シ來リ今夜ハ大勢ニテ寢ル 八
時過ギヨリヤ、静カニナル 水モ出ズ無事

▲▼2855ページ▲▼ 大正7(1918)年9月25日(水)

天気 晴

六時起床 高橋君來 運賃ノ勘定書キナド居イテ帰ル 手紙ヲ讀ミニ二枚ダケ返出ス
金錢勘定ヲナシ午後千葉ニ行ク 材木屋ニ依ル 廿八九日頃運ブトノコトデアッタ 表
具師ニヨリカケジヲ頼ミ白戸ニ行キ勘定ヲスマセテ帰ル

▲▼286ページ▲▼ 大正7(1918)年9月26日(木)

天気 晴

上京スルツモリノ處トードー出來ナクナッタ
藤原ノ發動機廻ス 二百ポンドヨリ引カズ一人デ止マルノデモット廻シテ見タラト云ッ
タガ、何ンダカ大イソギデ機体ダケ夜ニ入ルマデニハコビ積込ミヲ青島ニタノンデ夜大急
ギデ宅ニモゴズ帰ツテシマッタ 不思議ナ男ダ。

夕方方島田發動機ヲ取りニ來ル 待チキレナイノデ便利屋ニ持タセテヤルコトニシタ

▲▼287ページ▲▼ 大正7(1918)年9月27日(金)

天気 雨

九時半ニテ上京 佐藤ニ金ヲ拂ヒ太田工場主人不在 阿部ニ行ク 朝鮮マダ未確定
晝食後俱樂部ニ立寄ル 中沢君ト白水ニ會フ 河村ニヨリ金ヲ居キ鳥飼ニ行ク 青島來
テ材木屋ニ行キシトノコト

材料高ク中止ス 知覽ヲ呼び共ニ夕食ニ行ク 帰途銀坐ニテ少々買物 帰宅十時 湯ニ
入りシルコヲ喰フ

▲▼288ページ▲▼ 大正7(1918)年9月28日(土)

天気 曇

小山黒天風へ訪問 見學イツヨイカ手紙出ス

稲垣氏ヨリ一日行クトノコトデアッタ

大工一人 午後八池ヨリ地ナラシ水ノ溝ヲツクル

◆◆289ページ◆◆ 大正7(1918)年9月29日(日)

天気 曇雨風

昨日午後ヨリ風終日ヤマズ 二時三時頃最モ強シ

晝食後千葉ニ行キ散髪後小川ニ戸ノ材料注文 白戸ニ行ク 高橋所沢ニ行キ不在
ンザニ其マニアリ 明日組立ノ爲メ再ビ行クコトニシテ帰ル 稲毛ノ母稲毛ニ帰リ夕
方スグ來ル 帰ツテモ一言モ誰ニモロヲ聞カナカッタトノコト 豚ヲ持ツテ帰ツテ呉レタ
トノコトデーパイノム

◆◆290ページ◆◆ 大正7(1918)年9月30日(月)

天気 風曇雨

終日風止マズ 雨サエ時ニアリタリ 今日千葉へ行ク予定ナリシモ中止ス

中島製作所ノ職工河野、信田ヲ尋ネテ來ル 雑談シテ帰ル 夜夕食前石川君來 練
習入所來月廿日頃ニシタイトノコト 申込ダケスグ提出サレル様云ツテ居ク
日本橋通ノ金井商店ヨリ飛行機ノ見積リヲ得タシトノコト 一台式万五千五百円ト
云ツテヤル 但シ百廿五馬力ニテ

◆◆291ページ◆◆ 補遺

工場設立成ル 練習機未成 地方旅行ノ爲メ

◆◆292ページ◆◆ 十月

モーター持約ノコト

陸軍交渉開始手ヅルヲ得ルコト

工場健(ママ)築

練習機完成

◆◆293ページ◆◆ 大正7(1918)年10月1日(火)

天気 雨

八時四十七分ニテ千葉行キ アンザニ廻ス 一寸デアッタガヨサソウデアッタ 晝食
後平岡ニ操縦心得ヲ話シ後稲垣氏ヨリ發動機ニツキ談話アリ 夕六時ニテ帰場 十時
就眠

▲▼294ページ▲▼ 大正7(1918)年10月2日(水)

天気 雨

カストムウイリアムニ照会サレバク十時十分ニテ上京 スグ阿部ニ行ク 大停電ニテオソ
クナリ一時頃着 不在 梁瀬ニ行キタリト 鳥飼ニ行ク稲垣氏來 丸善ニ行キエイリア
ルエッジヲ注文 一三冊書籍ヲ求テ鳥飼ニ帰ル 阿部來ラズ梁瀬ニ電話スル 早く帰ッタ
トノコトニ稲垣氏ト夕食ヲ共ニシ分カレテ阿部ニ行ク 今帰ッタトノコト 大江氏ノ方へ
午前中ナライツデモ大ガイヨシトノコト 朝鮮十日ニ金受取ルトノコト 八時半津田沼
着ニテ帰ル 車ナシ 雨ノ中ヲ歩ク 頭痛シテ困ル
藤原へ自重セヨト手紙出ス 尚昨日波賀ヨリ請求書來リシニヨリ藤原ニ送ル 僕ガ支拂
フ様云ツタトノコト ケシカラシコトダ 帰神ヲ急イダノモソシナコトカシレナイ

▲▼295ページ▲▼ 大正7(1918)年10月3日(木)

天気 曇雨

今日モ雨 アキ、シタ 終日宅ニ居ル 十時頃三人帰ツテ來タ 晝食ヲ馳走ス 山県福
山ノ土地見ル爲メスグ立ツ ツヒデニ藤原ノ方ヲ頼ム 佐野福永ノ方ハヤル 夕方立ツ
青島上京 遊ビニヤル 石野君モ帰ル マタ元ノ淋シサニナッタ 佐野ヨリ平井君へ來ル
様手紙出サセル

▲▼296ページ▲▼ 大正7(1918)年10月4日(金)

天気 曇リ少雨

青島夕方帰ル 晝食ノ時地震アリ 同時ニ駅ヨリ飛行機着ノ通知アリ 午後行ク 山
縣ヨリ通知ナク止ム得ズ下車セシメマグネットヲハツシテ帰ル
夜秀雄來 送ルコトニナッタトノコト

▲▼297ページ▲▼ 大正7(1918)年10月5日(土)

天気 曇リ

秀雄オ一番ニテ千葉ニ行キ練習生ニ話シヲナシカーブレーターヲ借り佛壇ヲ求メテ帰
ル 秀雄ニマグネットトカーブレーターヲ持タセテヤル

夜八トシナラスグ積ムトノコトニ行キシニツメズ 鳥飼ヨリ貨車番知ラセロトノ電報アリ
シモ返出來ズ
午後仕事 練習機ヲ初ム アセチリンヲ發生セシム
今日ハ母ノ十二年 精進シテマツル

▲▼298ページ▲▼ 大正7(1918)年10月6日(日)

天気 曇少晴

機体金物ノ製作ヲナス 十時頃稲垣氏來 今日ハ設計上ノコトニツキ大ニ得ル處ガアツ
タ
夕方バイスノ破レヲウエルトシタ

▲▼299ページ▲▼ 大正7(1918)年10月7日(月)

天気 雨

六時二十分ニテ出發 佐藤ニタンバックヲ請求シ阿部ニ行ク 在宅 十時頃共ニ三洋社
ニ行キ大江氏ノ出社ヲ待チ十一時半同氏ト共ニガストムノ宮本氏ニ會フ 過日立花君
處デ會ツタ人デアツタ 發動機ヲ取ツテ貰フコト 陸軍へ賣込ムコト等商會ト提携シテ
ヤツテモヨシ 發動機ダケ貸シテ貰ツテモ宜シ 御想(ママ)談ノ上ニテト頼ンデ帰ル 呉
服橋ギワノレストランニテ晝食 死ンダ坂元中尉ガヨク來タ處ダト聞イタ 鳥飼ニ行ク
山県ト吉ト今河村サンへ行ツタトノコト 待ツウチ山県一人帰ル 吉ワカレタトノコト
四時阿部ニ行ク 小山氏來 共ニ登浪ニ行キ夕食シナガラ小山氏ノ快辨ヲ聞ク 中島
氏ニ照會ト工場見学ヲ依頼シ八時四十分ニテ帰宅 ナホガ來テモ一寢テ居タ 信太郎
ハマダ起キイツマデモ元氣デアツタ 入浴後床ニ入ル
福永今日モ延期 山県明日出發 青島同行 佐野へスミ次第藤原へ行く様打電ス

▲▼300ページ▲▼ 大正7(1918)年10月8日(火)

天気 晴

青島晝前出發ス 久太郎、佐渡島、竹島、佐野ニアテ手紙出ス
機体ノ金物ツクル

▲▼301ページ▲▼ 大正7(1918)年10月9日(水)

天気 曇リ

庭掃除ヲ終リ朝食後日記手紙等一通リ終タ處へ電報ガ來タ 福永昨日ヤツタガ上ガ

ラナカッタトノコト 見ニ行ッテヤロカト思ッテ居ル處へ秀雄來タノデ行クコトニシタ 晝食後迎へニ來タト云フ入山ト云フ男ト四時十分ニテ發 十二時過ギ袋井着 駅前ニ宿ヲ取ル 入山森町へ電話スル

▲▼302ページ▲▼ 大正7(1918)年10月10日(木)

天気 曇リ

朝食後福永ノ兄濱松ヨリ來ルニ會フ 八時過ギ福永佐野迎へニ來ル 自動車ニテ行キ發動機試験ヲナス 二百八十瓦引イタノデ角度ヲシラベル 約四度ニナッテ居タノデ之レモヨシ 塗料ヲ塗ラセル 大分薄イコト□カッタ 之レヨリ原因ハ見ラレナカッタ 持參ノプロペラハ三百瓦近ク引イタ 飛行場ヲ見ル 山近ク人家近ク面白クナイノデ下流ノヨイ場所へ變ヘルコトニシタ ソコデ石ヲヒロッタ 今歸ルツモリナク宅見テ居テ貰イタイト云フノデ宿ルコトニシタ

▲▼303ページ▲▼ 大正7(1918)年10月11日(金)

天気 雨後晴

大降りニテ飛行場水ニツカル 午後晴レタレドモ明日如何カト思ワレタ方出發 福永佐野送ル 夜十一時ニル

▲▼304ページ▲▼ 大正7(1918)年10月12日(土)

天気 曇リ

六時品川着 田町へ下車 阿部ニ行ク ガストン成功 陸軍ノ照会サエアレバスグ注文シテヤルトノコト 尚工場ヲ一度見タイトノコト 健(マ)築ヲ急グコトトシタ 鳥飼ニヨリ帰宅 入山ヨリ破壊スグ來テ呉レトノ電アリ 行ケヌト返スル 夜滑走 テール上ゲ過ギテンプク プロペラ折レタノミトノコト

宮本大江氏へ礼状出ス 藤原へモ手紙
児島氏來 白戸行キ中止ス
平居君今朝來タトノコト

▲▼305ページ▲▼ 大正7(1918)年10月13日(日)

天気 曇リ

午前白戸へ行ク スデニ練習終ッテ居タ 晝食前帰宅 稲垣氏四時頃迄居ル

▲▼306ページ▲▼ 大正7(1918)年10月14日(月)

天気 晴

一番ニテ千葉ニ行ク 練習一回終タ處デアッタ アヒニク風ガ出テ來タノデ中止
歸リテ仕事ヲナス ハイニセメラレテ思フ様ニ出來ナカッタ

夕方大口來 今日千葉ノ頭へ母ガナホヲコトニツキ事ツケシタコトニツキ大曾(ママ)怒テ
來タガナホノ話ノ話ノ間違デアッタコトガ分カツタガマダカレコレアッタガナダメテ帰シ
二三日内ニ僕ガ行クコトニシタ
ウルサイ人等ダ

▲▼307ページ▲▼ 大正7(1918)年10月15日(火)

天気 曇リ雨

平井タンバクト柱ヲケヅリ

十一時ノ汽車ニテ材料請求ノ爲メ千葉ニ行キ十二時幾分ニテ歸ル

今日ハ仕事初メニ付早仕舞シテ一杯出シ一円ヅ、祝儀ヲ出ス 但シ二人
白戸カラ手紙ガ來タ 返事出ス

▲▼308ページ▲▼ 大正7(1918)年10月16日(水)

天気 曇少雨

今日ハ宅デオチツイテ仕事ヲ仕様ト思ツテエンジン組立テニカッタ處工秀雄ガ手紙ヲ持
ツテ來テ鳥飼氏ガ朝鮮行キヲ止メルカラトノコトダト云フノデ午後ノ汽車デ上京 八
時半ノ汽車迄ニヤット話ヲマトメテ歸ル 山県青島歸ル モー寢テ居タ 入浴後床ニツ
ク 福永ヨリ電報アリ 二十五分間トシタトノコト ヤット安心

▲▼309ページ▲▼ 大正7(1918)年10月17日(木)

天気 曇後晴

山県青島千葉へ行ク 夕方歸ル 広島キマツタトノ電アリ

山県ノ話ニヨレバ藤原無理ハ(ママ)理ニヤツテコワシテシマツタトノコト
今日ハ立志十週(ママ)年記念ニ付夜祝宴ヲ張ル

福永明日天気ナレバ飛行 悪シケレバ中止シテ終ルトノコトナリ

▲▼310ページ▲▼ 大正7(1918)年10月18日(金)

天気晴

久シ振リノ晴レデ朝大変気持ヨカッタ
青島千葉ノ材木屋へ使ニヤル
自分ハ一寸仕事シタ後チ花壇ヲツクル
近來自分デコン気ノナクナッタニハ実ニ驚ク 何事ニモ熱中出來ナイ コンナコトハ絶対ニ
ナカッタノダガ実ニ不思議ダ
山県朝立ツ

▲▼311ページ▲▼ 大正7(1918)年10月19日(土)

天気晴

佐野帰ル スグ行クベクデアッタガウエルトヲセツテ貰フ爲メ泊ツテ貰フ
青島東京へ買物ニヤル
山県出發ス

▲▼312ページ▲▼ 大正7(1918)年10月20日(日)

天気晴

七時半頃車ニテ船橋ニ行ク 手土産ヲ持ツテ鳴尾氏ヲ訪フ 會談二十分バカリニテ暇シ
テ帰ル
佐野青島出發ス

▲▼313ページ▲▼ 大正7(1918)年10月21日(月)

天気晴

七時ニテ上京 車中亀沢ノ主人ニ會フ
太田へ廿六円アンザニー修理費支拂 佐藤ニパイプヲ求メ八丁堀ノ材木屋へ行き桜ト
桂ヲ注文ス 鳥飼ニ行ク 二百円受取ル
河村カラ電話ガアッタトノコトニ行ク 四十円居ク 要次ヲ連レ鳥飼氏ト文展ヲ見ニ行
ク 入口ノ間違カラ番人ト口論ヲヤラカシ馬鹿々々シカッタガ鳥飼氏ガムキニヤツテ居
ルノデ気ノ毒デアッタ お蔭デ一寸トモ面白クナカッタ ムシロアンナ低級ナモノヨリ紙
ニ書イテ張ツテ居ケバヨイノダ
夜帰ル

▲▼314ページ▲▼ 大正7(1918)年10月22日(火)

天気 晴

十一時頃迄床ノ中デ宇宙飛行ヲ讀ム 晝食後白戸ヘ行ク 丁度今終ツタ處ダトノコト
今日ハ石野高橋島田ノ順序ニテ旋回飛行ヲナシ島田着陸後水ノ中ニ突進シテ轉プクシ
タトテ分解中デアッタ マグネットガ随分ヒドクヨゴレテ居タ 夕食ヲ馳走ニナリ皆ニ送ラ
レテ帰ル

▲▼315ページ▲▼ 大正7(1918)年10月23日(水)

天気 曇晴雨

今日ハ少シ仕事ガ出来タ

此頃ドウモ前途ガ不安デナラナイ 第一ノ原因ハ井上少将ニ會フコトダ

▲▼316ページ▲▼ 大正7(1918)年10月24日(木)

天気 晴

大原氏ヨリノ手紙ニヨリ七時二十分ニテ上京 スグ訪問ス ローン二千五百円現金引
替ト話シタガツヒニモノ分カレニナッタ 稲垣氏ノ訪ヲヤットノコトデタツネニ行ツタ 昨
日羽田ヘ行ツテマダ帰ラナイトノコト シキリニ上ガレト進メラレタガ帰ツタ 山田ト佐
藤ヘ立寄リワイヤー注文シテ久シ振りデ浅草ニ行キ夕食後帰ル 浪六ノ書ヲ求メ夜三
時迄ニ讀ミ終ル

▲▼317ページ▲▼ 大正7(1918)年10月25日(金)

天気 晴風アリ

北西ノ風ヤ、強シ 練習機製作

平居小鳥小屋ヲ作ル

夜昨夜遅カッタノデ非常ニ眠ク早ク床ニ入

山県広島無事終リ今暁ニ時出發セリト

▲▼318ページ▲▼ 大正7(1918)年10月26日(土)

天気 曇リ

少晴レ風ナシ

二サイクル組立ヲナス 機体ノ金物ニ個作ル プレーンツギ合セヲナス

菊三鉢求メ草花種ヲ蒔ク

今朝床ノ中ニテホールスカットヲ借り水上ヲ作ルコトヲ考ヘル

▲▼319ページ▲▼ 大正7(1918)年10月27日(日)

天気 雨

エジンヤリカケタ處へ稲垣氏ト戸川君トガ來タ 水上ノ話ナド聞ク 夕方帰ル
朝石野信君、知覽、他一人發信

▲▼320ページ▲▼ 大正7(1918)年10月28日(月)

天気 晴

午前プレッギ合セ 午後上京 佐藤、青木、前川、原、加藤、清水、鳥飼ニ寄り帰宅
後夕食

▲▼321ページ▲▼ 大正7(1918)年10月29日(火)

天気 晴

下リ一番ニテ千葉ニ行ク 初メテ練習振りヲ見ル 石野旋回中々ヨシ 島田、高橋ノ直
線ヲ見ル 平岡ノ滑走モヨシ 帰途稲毛ニ立寄り一時半ニテ帰場 小鳥ヲ入レカエル
夜天気觀測法ヲ讀ム

▲▼322ページ▲▼ 大正7(1918)年10月30日(水)

天気 晴曇リ

プレッギヲ平居 温室ニカゝル
白戸ノ妻君來 晝食後帰ル

▲▼323ページ▲▼ 大正7(1918)年10月31日(木)

天気 快晴

北東ノ風少シアリ 高橋、島田、鈴木、晝頃來ル プレンヲ手ツダフ 夕食後帰ル

▲▼324ページ▲▼ 補遺

モーター特約成ル

陸軍側未交渉 ガストン商會ト交渉進む

工場健(ママ)築
練習機未完
稲垣君休日出勤の約出来る

◆▼325ページ◆▼十一月

陸軍側交渉
工場健(ママ)築
練習機完成

◆▼326ページ◆▼大正7(1918)年11月1日(金)

天気晴

プレーン中ノ金物ヲツクル タガネ直シニ半日ヲツヒヤシタガ今日ハ近來ニナイ働イタ
左官屋ノ人タチ職人共三人デ風ヲ引イテ寝テ居ルトノコト 大ニ注意ヲ要スル
山県ヨリブジ飛ンダトノ電アリタリ
夜練習機ト宙返機ノ計算ヲ一寸ヤル
昨日迄ノ計算ヲナス 大分使ヒ過ギテ居ルノデ今月カラ大ニ引ベナケレバナライノト
陸軍ノ方早ク道ヲ開カナケレバナライ

◆▼327ページ◆▼大正7(1918)年11月2日(土)

天気曇少雨

午前六時起床 大工ノ仕事申ト髪結ノ仕事ヲ写真ニ取ル
金物終日カゝル 切ハシヲ使フノデ手ニ豆ヲニツコシラエテ痛カッタ
夜兄へ請求ノ手紙 日記後プレーンノ布ヲ切ル

◆▼328ページ◆▼大正7(1918)年11月3日(日)

天気晴

昨夜ノ大雨ニ傘ヲ持ッテ出カケタガ次第ニ晴レテ好晴ニナッタ
七時頃河村ニツク 十時頃カラ出懸ケルトノコトニ麻布ニ芳賀氏ヲ訪フ 不在 原ニ行
ク 電車ニテ相羽ニ會フ 阿部ノ件ニツキ兄ガガンコナモノデスカラトシキリニ辨解シテ
居タ グリーン僕ガお願ヒニ上ガルカモ知レマセンナド云ッテ居タ 其内ニノ橋ニナッタ
ノデ下車 ボールトヲ少シ買ヒ板金ガ幸ヒアッタノデ注文シタ 九時半頃河村ニ行ク

お春サンモ來テ居タ。パント紅茶ヲ馳走ニナル。神田ノお母サン來ルノヲ待ツテ出縣(マ)
マケタ。高折ノお榮サ來ル。十一時ヨリ初マリ十二時寺ヲ出タ。丁度ナノデ皆一所ニ
上野ノダルマヘ行キ晝食後余ハ鳥飼氏ヲ訪フ。丁度広島ノ百太郎氏モ來テ居テ腹ハヨカ
ツタガ日比谷ノ松本ヲ馳走ニナル。河村ニ行キ傘ヲ受取り土産ヲ貰ツテ帰ル。夜八時
帰宅

▲▼329ページ▲▼ 大正7(1918)年11月4日(月)

天気 晴

大邱金半分シカ受取ラズアト十日トノコトニ手紙ヲ長々ト阿部ニ出ス。山県、佐野、長
谷氏ニモ禮状ヲ出ス。
中君十時頃來。晝食後白戸へ案内シタ方帰ル。
材木屋五百円支拂フ。

▲▼330ページ▲▼ 大正7(1918)年11月5日(火)

天気 曇少雨

今日ハウエルトヲ主ニヤッタ。プレーンノ金物
平居温室

▲▼331ページ▲▼ 大正7(1918)年11月6日(水)

天気 曇少雨

約束ニヨリ七時九分ニテ上京。稲垣氏スデニステーションニアリ。渡辺佐藤、青木ニ行キ
テ協会ヘハ電話スル。高木氏群馬地方ヲ講演中ニテ不在。文展ヲ見上野ニテ晝食後赤
羽ニ行ク。知覽ヨリ社ヲ止メテスデニ先月中頃ヨリ來テ居ルトノコト。工場ヲ全部井上
君ノ案内ニテ見宗里君ニモ會ヒ知覽ト共ニ歸リ丸万ニテ夕食後分カレテ帰ル。知覽ハ大
演習後井上少将へ手紙ヲ書クトノコトデアッタ。

▲▼332ページ▲▼ 大正7(1918)年11月7日(木)

天気 晴

金物請求ノ爲メ松本上京セシム。
午前中金銭出納手紙。温室出來上ル。
午後プレーンヲヤル。平居ト二人ニテ
夜夕食後ナホ東京ヲ暇取ツテ來タトノコト。泊ル。

▲▼333ページ▲▼ 大正7(1918)年11月8日(金)

天気 曇り

プレーンヨヤル 丁番ヲモ作ル

兄ノ處へ又請求ノ手紙出ス

稲毛スダレ屋夫妻ヨシヲ買ヒニ來タトテ立寄ル 大口ガ過日來テ帰ツテカラ津田沼ヘケンカニ行ツテ來タト云ツテ居タト宮下ノ妻ガ笑ツテ居タトノ話シデアッタ アノ時ハ母ガ頭ニコトツケタノヲ他人ニコトツケタトテ怒ツテ來タクセニ自分デ言ヒフラストハ馬鹿ナ奴ダ

▲▼334ページ▲▼ 大正7(1918)年11月9日(土)

天気 曇夜雨

プレーント金物

関根ヨリ洋服來ル 百五十七円余 オ、痛イ

晝前鳥飼氏ト山県百太郎氏來場晝食 鳥飼氏白戸ヘ行キ帰ツテ三時頃帰ル

油屋へ辨賞(ママ)ノ舟ヲ見ニ行ク 十円ノヲ二艘求メタ

釘引替証來ラズ 明日健(ママ)前二最(ママ)非必要ニ付代價丸通へ預ケテ品受取ル 平

鉄ボールト來ル 代支拂ヲ

柱格納庫ノ方ダケ健(ママ)ツ

夜金銭ノ出納ヲナシ今月ノ勘定ヲ予算ス

手紙書ク 白戸ヨリ返信アリ

▲▼335ページ▲▼ 大正7(1918)年11月10日(日)

天気 晴

出ガケハマダ少シ降ツテ居タガ七時東京駅ニツイタ頃カラ晴レ初メスツカリ晴天ニナツタ傘ヲ一時預ケニナス 七時半皆ソロツテ乗車 四人連レダケニタイクツモセズ田浦着 里余リ歩ンデ追濱着 戸川君ノ案内ニテ栗野機関大尉ニ面會ヲ求メ少時雑談後格納庫發動機工場ヲ見晝食ノ馳走ニナル 同大尉ハ午後上京セラレタノデアトハ戸川君ノ案内デ誰レニモ見セナイト云フ五號格納庫ニ入りシヨート大型飛行機ヲ見タ 実ニ大シタモノデアッタ 二時場ヲ辭シ田浦三時三十分發ニテ帰京 日本橋茅場横道ノ笹屋ニテ夕食ヲ取り帰ル 車ナク歩ム

吉ガ寝テ居タ シヤクニサワツタノデ本デお面一本

▲▼336ページ▲▼ 大正7(1918)年11月11日(月)

天気 晴

今日八工場ノ上棟式 全部上リキラナカッタガ式ダケヤル 式ト云ツテモ田舎ノコトデ何ソノコトモナカッタ 余リ景氣ヨクナカッタ
稲垣氏十時頃ヨリ三時頃迄居タ

▲▼337ページ▲▼ 大正7(1918)年11月12日(火)

天気 晴

下リ一番ニテ白戸ニ行ク 島田ノ旋回振りヨカッタ 新入生崎山一人アリ 金受取り明日ヨリヤラセル 晝食後帰ル一杯馳走ニナッタノデ一寢入シタラ船橋迄行ツテシマッタ キマリ悪カッタ

▲▼338ページ▲▼ 大正7(1918)年11月13日(水)

天気 晴後曇

プレーン布張ルバカリニナッタ

明日ヨリ機体ニカ、ル

夜梁瀬ヨリ材料來ル

氣象觀測法夜讀ミ終ル

小川材木屋残金取りニ來タ 月末ニサセル

兄へ又請求出ス 返事ガ一ツモ來ナイノデ頼リナイコトオビタ、シイ 山県、佐野、阿部、長谷へ手紙出ス

▲▼339ページ▲▼ 大正7(1918)年11月14日(木)

天気 雨

機体前ヲ組初メル 杉本補助 平居ストラット

夜航海術ヲ讀ム 風強ク一時心配セシモ一時間バカリニテ止ム

佐渡島ヨリ手紙來 白戸ヨリモ多分帰レルト云フテ來タ

▲▼340ページ▲▼ 大正7(1918)年11月15日(金)

天気 晴

朝兄へ○イツイクラ送ルト打電シタガ返事ガナカッタ 夜心配デ寢ラレナカッタ

機体前組立出來ル
昨夜物置デ乞喰(ママ)ガ寢タトノコト 終日サワイデ居タ 夕方又ヤツテ來テトード
―幕張ノ方ヘヤツタ

▲▼341ページ▲▼ 大正7(1918)年11月16日(土)

天気 晴

機体後部組立 平居ストラット 杉本銅管巻キ 午後二人デ稲毛ヘ舟ヲ返シニヤル
夕方兄ヘ今度六宅ノ方ヘ電報ウツ後手紙出ス 今日ハナシダカ氣ガイラヽシテナラナ
カツタ
夜大ニ飲ンデ寢ル

▲▼342ページ▲▼ 大正7(1918)年11月17日(日)

天気 雨

朝兄ヨリ五〇〇二十日送ルトノ電アリタリ 委細又トノコト 委細ガ早ク知リタイモ
ノダ
機体組立 台坐ノウラウエルトデ作ル
夕方白水來 夕食後帰ル 渡米免状下附ニツキ照会ガアツタヲヨキ様ニ云ツテ呉レトノ
コトデアッタ
大坂風流行ニツキ父ヲ預ツテ呉レトノ手紙ガ來タ

▲▼343ページ▲▼ 大正7(1918)年11月18日(月)

天気 曇リ

機体組立トエンジンシートヲ初メル
白戸ノ妻君來 夕方帰ル
朝喜代市兄ヘ返出ス
夜白戸、阿部弟、夫人ヘ手紙出ス
一時晴レタガ後又曇ツタイヤナ天気ダ

▲▼344ページ▲▼ 大正7(1918)年11月19日(火)

天気 晴

朝仕事ヲ與ヘテ居イテ九時ニテ成田山ヘ參詣 スグ後ノ列車ニテ千葉ヘ歸リ晝食ヲ白戸
ニテ馳走ニナリ島田、石間ノ勘定書ヲ作り四時八分ニテ帰稻

阿部稻垣両氏ヨリ手紙來

▲▼345ページ▲▼ 大正7(1918)年11月20日(水)

天気 晴

今日ハ梁瀬カラ屋根屋ガ來タ 一人ト店員ガツイテ來タ 職人ハ宅デトマル
山県無事終リ廿二日元山デヤルトノ電報アリタリ

▲▼346ページ▲▼ 大正7(1918)年11月21日(木)

天気 晴

足ノ金物ヲ作ル 平居ニ機体後部ノ杭ヲツクラセル
所沢ヨリ飯沼君來 練習生ヲ頼ミタイトテ一人同行シテ來タ 白戸ノ方へ入レルコトニ
話シタ
山県佐野へ發信

▲▼347ページ▲▼ 大正7(1918)年11月22日(金)

天気 曇リ雨

夜大雨アリタリ 格納庫屋根全部張レル
今日ハ足トエンジンシートノウエルトニ一日カヽッタ
朝右ノ耳ガ馬鹿ニカイカッタと思ツタラ兄カラ五百円來タ

▲▼348ページ▲▼ 大正7(1918)年11月23日(土)

天気 晴

好晴無類 ストラット塗り方 機体足取付方
夕方稲垣氏來 泊ル ノーム製圖ヲ見ル
大工本日手バナレ 明日ヨリ事務所ニカヽル

▲▼349ページ▲▼ 大正7(1918)年11月24日(日)

天気 曇リ少晴

稲垣氏ト青写真ヲ取り又ハ氏ノ肖像ヲ取ル 夕方帰ル アトへ那須君外二名來
發動機於(ママ)イテ行キプロペラ注文受ケタ
山県元山無事昨日終リ鎮南浦ニ行クト

▲▼350ページ▲▼ 大正7(1918)年11月25日(月)

天気晴

プレーン組立初メ 機体前部出来

午後三時頃高橋、石野、鈴木、石川、崎山、來 鈴木島田今後出発スルトノコト

▲▼351ページ▲▼ 大正7(1918)年11月26日(火)

天気晴

七時九分ニテ上京スベク五時半起床 杉本同行 太田ニテプロペラノ注文ヲ受ケレバー
ヲ頼ミ佐藤ニ行キ板金ヲ求メ支拂金ヲナシボールトヲ注文ス 大戸ノ車見本ヲ買ヒ上
野ノ發明品博覽會ヲ見テ鳥飼氏ニ行キ阿部ヘ丁度手紙出ス處デアッタノデ共ニ出シ阿
部ニ行ク 梁瀬トノ關係モ面白クナサソウナノデ大ニ失望シタ 河村ヘ寄ル お春サンガ
本月廿一日カラ寢テ居ルトノコト 醫師ガ來タリシテ居タ 風引ダソウダ 急イデ帰
ル 鳥飼氏ニテ夕食

▲▼352ページ▲▼ 大正7(1918)年11月27日(水)

天気晴

今日ハプレーンヲ組ムベクヤリ初メルト千葉カラスグ來テ呉レトノ電報アリ 壊シタナト
思ヒナガラ晝食後行ク ハタシテソウデアッタガ大分ヒドカッタ 離陸ヲシテスグデアッ
タト 高橋ハ眼鏡デ右ノ目ノ下ヲケガシ大ニ色ガ変ツテ居タ 石野君ヲ連レテ材料ヲシ
ラベ三時二十分ニテ帰り 夜九時迄夜業ス

▲▼353ページ▲▼ 大正7(1918)年11月28日(木)

天気晴

昨日ノ記事今日ノアヤマリ

▲▼354ページ▲▼ 大正7(1918)年11月29日(金)

天気晴

午前中宅ニテ金物ヲ作り午後二時十九分ニテ寒川ニ行ク 十時頃白戸ノ兄サント正
雄君 お母サンモ來 晝食後上京ス
夜終ル

杉本君ヲ上京サセ鳥飼氏ヨリ金借ル 百五十円呉レタトノコト

▲▼355ページ▲▼ 大正7(1918)年11月30日(土)

天気 晴

晝食後千葉へ行ク 夕食後帰ル ドウモ風ヲ引イタラシイ 早ク寝ル

▲▼356ページ▲▼ 補遺

今月ハツヒニ何事モ出来ズ失敗々々

▲▼357ページ▲▼ 十二月

練習機完成

陸軍井上少將訪問ノコト

ガストム確定セシムルコト

原廿九円 梁瀬二百十円、健(ママ)具屋百円、窓五十円、佐藤五十二円 レバー十円

事務所五十円 〆五百〇一円

外二内費用三百円也

関根五十七円 加藤三十五円也 〆七百九十三円也

▲▼358ページ▲▼ 大正7(1918)年12月1日(日)

天気 晴

今日ハ試運轉出来マイト思ッタノデ材料ヲ平居ニ持タセテヤル 午後稻垣氏渡辺、横

山両氏ヲ連レテ來ル 夕照ノ写真ヲ取リ夕食後帰ル

左官本日ヨリ來ル

夜床ニツイテカラ余リ眠レナイノデセルロイドノ研究ヲヤッタ

▲▼359ページ▲▼ 大正7(1918)年12月2日(月)

天気 雨

今日ハ雨デお蔭デ一日練習機ヲヤル 車輪装置ヲ作ル 大ニ天祐ヲ保有スルノデウマク

飛ブダロウ

佐野カラコマカナ返信ガアッタ
大坂ノ兄ヘ金ノコト相談シテヤッタ

▲▼360ページ▲▼ 大正7(1918)年12月3日(火)

天気晴

鳥飼ヨリ來テ呉レトノ手紙ニ七時ニテ行ク 帝国飛行學校ヲ買受ケタトノコト 飛行機ヲ其儘ツカエルカ見テ呉レトノコトニ大森ニ行ク 立派ニ出來テ居タ 途中落合ニ會ニ共ニ行ク 落合ガ鳥飼ノ處ヘ持チ込シカッタ 自動車ニ台ト道具ガ随分アッタ 道具ハ入ラナイモノダケユツツテ貰フコトニシタ 実ニイ、買物デアッタガ自分ノ計画シテ居タ水上ガ之レデ駄目ニナリソウダ
帰宅後頭痛ガシテナラナカッタノデ早ク床ニツク
山県無事終リスグ帰ル、トノ電來ル 井上長ヨリ荒瀬ノ父ノ處シラセト云ツテ來タガ分カラナイ 何事ガ起ツタノカシラ
終夜將來ノコトヲ考ヘ通シテマトマラズ一番鳥ノ声ヲ聞テ少シク眠ル

▲▼361ページ▲▼ 大正7(1918)年12月4日(水)

天気晴

今日ハ左ノ頭ガキリデモマレル様ニ時々痛ンデ困ツタ 酒ヲヤメル
プレーン組ミ出來 プロペラハギ合セル

▲▼362ページ▲▼ 大正7(1918)年12月5日(木)

天気晴

エンジン取付ケ終日
熊木氏ヨリ至急賣リタイカラ見ニ來テ呉レトノコト 金ガホシイガナシ 終日考ヘル
早朝信田五平君來 石橋君ノ處ヘ行クトノコト 僕ニアノエンジン引取ル呉レルカト念ヲ押シニ來タノデアッタ 千円位迄ナラ十日前ニ云ツテ呉レバ引取ルト答ヘテ居イタ

▲▼363ページ▲▼ 大正7(1918)年12月6日(金)

天気晴

エンジン取付終ル
今日ハ山県ガ來ルカト思ツタガ來ナカッタ

▲▼364ページ▲▼ 大正7(1918)年12月7日(土)

天気 曇り

七時九分發上京 散髪ヲナシ九時五分丁度熊木氏ヲ訪フ 之レモ散髪ニ行ツテ不在
三十分程待ツ 雑談ノ後要件ニ入ル井上氏ノ見リ(ママ)書キガアッタガソレニヨルト六
百円以上ノ價格ニナルガヨク、シラベルトドーモ手ノツケヨウガナイノデ値ヲ付ケニク
カッタガ氏ガイクラデモヨイト云ノデ決極(ママ)三百円迄ツケタ 氏ハ四百円カラ二百
五十円迄下ゲラレタガアト五十円ノ差デモノワカレトナリ考ヘテ返事シテ貰フコトニシ
タ
協会ニ立寄り徳永氏矢部氏ニモ會フ 高木氏ニ井上閣下ニ対スル照會ヲ書キ直シテ貰
フ

河村ニ行き晝食後海野氏ヲ訪フ ウェルトノコトガ聞キタカッタノダトノコト
四時鳥飼氏ニ行ク 山県マダ帰ラズ 阿部帰ツテ居ル筈トノコト 馬鹿ニシタ男ダ
六時小栗氏ノ送別會ニ列ス 相羽立花君モ居タ 丁度ヨカッタ

▲▼365ページ▲▼ 大正7(1918)年12月8日(日)

天気 晴

山県明日帰ルトノ電來ル
大口夕方來 当屋敷ヲ第三者ニ悪人アリ何ニカタクミツ、アル由 契約ヲ確カニシテ居
ク必要(ママ)ルベシト注意ニ來テ呉レタ 八時頃帰ル

▲▼366ページ▲▼ 大正7(1918)年12月9日(月)

天気 晴風

今日ハイヨ、山県ノ帰ル日ダ 午後上京 夕方宮本氏ニ行キ一泊 明早朝大江氏ヲ
訪ヒ所沢ニ行クベク予定シテ居タガ朝カラ北ノ烈風ハゲシクツヒニ中止シテ明日ニシタ
兄其他へ手紙三四通出ス

▲▼367ページ▲▼ 大正7(1918)年12月10日(火)

天気 晴

今日ハ朝カラ山県ガ帰ルト云フノデ御馳走ヲ作ツテ待ツガ晝ニナツテモ來ラズ二時頃
來ル 夜十時頃迄朝鮮ノ話ニ華ガ咲イテニギヤカデアッタ
耐火塗料ヲツクル 試験シタ處頗ル良好 マッチデ火ヲツケテモマッチノモエテ居ル間ダ
ケシカ焼ケナカッタ 大成功々々々

▲▼368ページ▲▼ 大正7(1918)年12月11日(水)

天気 雪

朝五時半起床 山県、杉本上京 自分、練習所ニ行キ午後上京 一泊 明朝大江氏ヲ訪問後所沢ニ出張スベク予定ニテ出ダタルニ練習所ニイタレバ汐スデニ満チテ練習後ナリ シカモ機ハ眞黒ニコゲテテールノミ残ツテ居レリ 高橋試験中火災ヲ起セリト 妻君ヤ高橋ヲナグサメ、ノームニテ僕ノ練習機出來ル迄同乗飛行ヲヤルコトニシタ
午後上京 阿部ニ會フ 鳥飼ニヨリ夜十一時帰宅。大江、宮本両氏へ贈物杉本ニタノミ又

▲▼369ページ▲▼ 大正7(1918)年12月12日(木)

天気 晴

朝食後日記手紙ヲ書キ九時五十分ニテ千葉ニ行キノーム分解組立テ
女中鳥二三日ガアブナイトノコトデアッタ上ニお母サンガハイエン、妻君モ風引キ皆寢テ居ルノデ妻君ノ非(マ)観此上ナク充分ナグサメテ帰ル

▲▼370ページ▲▼ 大正7(1918)年12月13日(金)

天気 晴

手紙日記後九時五十七分ニテ千葉行キ スツカリ手入レヲナシ發動機試運轉ヲ行フ
ヨシ 明早朝取りニ來ルコトニス

▲▼371ページ▲▼ 大正7(1918)年12月14日(土)

天気 晴

五時半起床 六時半ニテ千葉ニ行ク 手入レ遅クナル。汐マダ引クツモリノ處引カズ僅カニコレル處ニ引出シテ山県帰ル。自分ハアト差(マ)圖ヲナシ妻君ヲナグサメテ帰ル
山県鳥飼ヨリ井上ノコトニツキスグ帰レトノ電來リ帰ル

正午岩名來 蔭山ノ手紙持參 三四十円借りタイトノコトナリシモ自分モ今日財産ソツクリデ四十円シカナイノデ二十円ダケ貸シテヤル。山県ニ鳥飼氏ヨリ佐野ノ帰ル迄五十円程タノム
夜練習生千葉ヨリ來ル

▲▼372ページ▲▼ 大正7(1918)年12月15日(日)

天気 晴

北風寒カッタガ天気ヨカッタノデ機ヲ引出シ石川、崎山、栄ノ順ニ三回飛ンダ 久シ振リデアッタ

午後山県帰ル。高橋十一時頃荷物持ッテ來ル 操縦線取替エサセル
十時頃稲垣氏來近々コチラへ來タイカラ坐敷ヲサガシテ居イテ呉レトノコトデアッタ
佐野ヨリ二千円話極リタアス持ッテ帰ルトノ電アリ 思ワズ電報デニ拝シタ

▲▼373ページ▲▼ 大正7(1918)年12月16日(月)

天気 曇リ

雪デモ降ルト思ッタガツヒニ降ラナカッタ

山県ト練習機ヲヤル 高橋アンザニ、青島平居ハ格納庫ノ障子ヲツクル
午後山県上京 佐野ガ帰ッテ居ルダロウカラ一所ニ行コウト云フノデ停車場迄行ツタ
ガ氣ガ進マズ帰ッテ來タ 夕食中丁度佐野ガ帰ッテ來テ二千円受取ツタ
今日ノ練習ハ山県ガヤッテ呉レタ

▲▼374ページ▲▼ 大正7(1918)年12月17日(火)

天気 晴

今日ハ自分デヤランナラント思ッテ居タラ丁度豊サンガ帰テヤッテ呉レタ 晝食後佐野
青島ト四人デ鳥飼氏ノ招待ニ應ジテ上京 大ニノンデ終列車ニテ帰ル

▲▼375ページ▲▼ 大正7(1918)年12月18日(水)

天気 曇後雨

今日ハ練習休 格納庫前ニテ發動機廻轉ノ練習ト取付注意ヲ與ヘル
プレーン全部張レル
格納庫大戸今日完成ス

▲▼376ページ▲▼ 大正7(1918)年12月19日(木)

天気 曇リ

記事ナシ

▲▼377ページ▲▼ 大正7(1918)年12月20日(金)

天気 雨
記事ナシ

▲▼378ページ▲▼ 大正7(1918)年12月21日(土)

天気 曇

練習有り 山県行フ

佐野タンク

山県スタンション

青島戸障子

夕方広島ノ佐伯氏來 佐野山県ト船橋佐渡屋ヘ夕食ニ行ク 十一時帰ル

▲▼379ページ▲▼ 大正7(1918)年12月22日(日)

天気 雨

練習中止 十時頃玉井藤一郎來 晝食後帰ル

山県プロヘラハギ合セ

稲垣氏來ラズ

佐野鳥飼氏用事ニテ上京

白戸ヨリ廿四日ノ船ニ乗レルダロートノ手紙有リタリ

宮本氏ノ宅漸ク分リ佐野ニ持タセテヤル

▲▼380ページ▲▼ 大正7(1918)年12月23日(月)

天気 雪

上京ノ予定ナリシモ雪ニテ中止

山県ノノーム分解 午後帰京ス

佐野タンク

プレイン出來上ル 格納庫片付ケ整理

夜年賀状百五十枚ばかり佐野ト二人デ書ク 十一時終ル

▲▼381ページ▲▼ 大正7(1918)年12月24日(火)

天気 晴

プレイン塗ル

午後千葉行 事務所用椅子テーブルヲ買フ 白戸ニ一寸立寄り石川、崎山、ニ注意ヲ

與へテ帰ル

▲▼382ページ▲▼ 大正7(1918)年12月25日(水)

天気 曇リ

曇リタレドモ上京 太田、佐藤、鳥飼、加藤、阿部、ヨリ新宿ニ一泊
夕方ヨリ雪降りタチマチ積リテ白ガイ、タリ

▲▼383ページ▲▼ 大正7(1918)年12月26日(木)

天気 晴

七時起床 マダチラ、降ッテ居タ 五寸以上六積ツタロー 北伊賀町ノ大江氏ヲ訪フ
昨夜ヨリ帰ラナイトノコト 失望シテ雪ヲ見ナガラ四ツ谷見付ケヨリ外堀ニソヒ河村ニ
行キ朝食後元ノ三洋社ニ行ク 大江氏ハ有楽町ノ方トノコトニ鳥飼ニ立寄ル 阿部ノ件
ニツキ佐野ト豊ニスグ來ル様打電シタトノコト 余イソギ帰リテ夕方二人上京セシム
夕方山県鶴羽ニテ飛行 低空ニテ見事ニ飛ブ

▲▼384ページ▲▼ 大正7(1918)年12月27日(金)

天気 曇リ

山県佐野終日帰ラズ心配

▲▼385ページ▲▼ 大正7(1918)年12月28日(土)

天気 曇リ

佐野山県夜帰ル 昨日鴨打チニ出カケタトノ話シ 馬鹿々々シイ
事務所ヲ塗ル
高橋帰ル 白戸昨日門司着セシヨシ 廣島病院ニ入ル

▲▼386ページ▲▼ 大正7(1918)年12月29日(日)

天気 晴

佐野クイゴ 山県フツシャー組立
盛岡ノ練習生來ル 白戸へ入所
大江、宮本、佐渡島へ手紙出ス

◆▼387ページ◆▲▼ 大正7(1918)年12月30日(月)

天気 晴

格納庫整理ヲ初メル

夕方稲垣氏來 夕食後帰ラル

盛岡ノ照井氏練習申込アリ

◆▼388ページ◆▲▼ 大正7(1918)年12月31日(火)

天気 快晴

格納庫方付 事務所出來上ル

晝食後山県東京ヨリ帰ル

高橋昨夜泊リ晝前千葉へ帰ル

◆▼389ページ◆▲▼ 補遺

薄弱ナガラ基楚(ママ)ヲ作り得タレバ明年度ハ確固増大セシムルニ努力スベシ

本年オモナル出來コト

飛行機二台ヲ賣ル

津田沼ニ移轉

工場健(ママ)築

白戸出征

山県巡回飛行

吉カイニン

◆▼392ページ◆▲▼ 補遺

(91ページから続く)

此度八道ヲ麥全木曾川ノ渡船ヲ渡リ犬山ニ出テ電車ニテ名古屋着 飛行場ヨリ鵜沼宿

込約一里 鵜沼ヨリ木曾川込約十町 木曾川ヨリ犬山電車込約十町余 電車一時間

二十分バカリニテ名古屋柳橋着 駅ニ手荷物ヲ預ケ大須ニテ晝食後立石氏ヲ訪問 發

動機値段シラセテ貰フコトニシタ。新柳町五丁目小松屋ニ入りヤット安樂ニナル 二人ハ

六時十何分デ出發 余ハ奈良原ヲ聞キ十一時過帰宿 アンマヲ取り眠ル

401～412 ページ

知人名簿 (412 ページは「持物番號控」の欄に名簿を記入)

住所	電話	氏名	関係
千葉県千葉町寒川海岸		白戸栄之助	
大坂東区博労町一ノ二		高左右隆之	
尾張海部郡十四山村		立石関二	
		磯部?吉	
武州所沢		後藤正雄	
々		佐藤要蔵	
東京府下岩淵村字神谷		井上武三郎	
々		原工學士	
々		宗里悦太郎	
群馬県新田郡尾島町大字前小屋		中島知久平	
402 ページ			
東京府下大森		川上親孝	
伊セ山田町		尾崎行輝	
東京有楽町三ノ五		馬詰俊太郎	
々		中沢家康	
大坂南区宮津町		佐々木洋帳製造所	
東京小石川区白山御殿町一〇六		稲垣知足	
東京青山高木町十二ノ十五		海野幾ノ助	
所沢町		鳴瀧紫麿	
芝区新堀町廿九		宮口清太郎	
日本区堀留町二丁目八		前川太良兵衛	
青森県三戸町停留所前		白木興蔵	
403 ページ			
大坂府下鷺洲町字大仁 夫広戸一番地		大西光蔵	
京都五條川端		稲垣文次郎	
東京府下千駄ヶ谷一五三一		日野熊蔵	
芝桜川町二		数見周穂	
麴町区鉄瓶町二		堤七郎	梁瀬
京都市竹島町通り麴屋町西へ		松味光松豊	

入			
神戸市仲山手通り七丁目三十一ノ五 井村方		田中幾太郎	
神戸水木通り八ノ一二二		太田重次郎	
所沢金山町		松定古物商	
々 元幸町		三上綱吉	
麻布笄町廿八 吉岡方		高林清之	
404 ページ			
所沢町御幸町五一九		細村屋旅館	
尼ヶ崎坂神電車会社		山口覺二	
牛込区二十騎町一二		岩橋義隆	
恵美須町三		中谷九一	
東区空堀通り三ノ二二一		斎藤岩三郎	
高岡市新横町		今井八百次郎	中越鉄道
坂神電車会社 公園係リ		寺沢直人	
々 運輸主任		上野	
北区西野田玉川町一ノ一五五〇		矢寺應六	
西成郡勝間村玉出駅附近學校 東ノ辻北へ入西側		斎藤研一	
広島市鉄砲町		柴義彦	
405 ページ			
広島市大手町三		花屋事渡辺	
々 西新町五		吉村ヨネ方トク	
々 猿楽町		大平楽佐伯卓造	
々		々庄兵衛	
々		二葉舎	
々		大場自轉車商	
南区難波芦原町		西村化学陶業試験所	ブラック
飛行協会主事		宍戸甲子郎	
神戸原町七十二		沢野忠三	ワイマーク
本郷元町一丁目 写真化学研 究所		長谷川保定	マグナリユー ム
芝区三田四国町九		スピード 阿部康蔵	
堺市東三町東一丁		久保直温	

406 ページ			
神戸御幸通り九丁目三十四ノ 十九 西脇方		米光親男	プレーン
麴町区隼町七番地		川流堂小林又七	地図
大坂西区阿波堀通り五丁目	新町一四一 一四二	笠村製鋼所	ワイヤロープ
大坂西区阿波坐一番町	新町五一〇	関西瓦斯鋸接所	安井勇次郎
北区曾根崎上三丁目梅田新道 西へ入北側	北一七五七	日本自動車会社支店	
西区九條通り一丁目	西六四四	関亀ノ助	
東京芝区二本榎西町二		河村包亮	
大坂府下三島郡玉櫛村大字澤 良宜西 蓮照寺		奥村富肇	
赤坂溜池町卅二		極東書院	
々 九		山本愿太	
神戸三ノ宮三丁目		藤原正章	
407 ページ			
東京府荏原郡南品川町利田新 田新地八番地		知覧健彦	
京橋三十間堀 ヤマト新聞		石田金ノ助	
京都下京区大和大路通四條南 四丁目小松町五五七		平岡達蔵	
小樽区花園町西二ノ廿六		武田豊吉	
麻布笄町二六		藤木九三	
北区西野田中江町二四九		高居廣蔵	
滋賀県八日市町		熊木九兵衛	
稲毛		大越万太郎	
々		上總屋	
広島研屋町角 榎本写真館		井上春珠	
内藤新宿町大字南町三〇		飯田勇蔵	
兵庫県津名郡洲本町三ノ内紺 屋町(三階)		田村敏一	
408 ページ			
兵庫県明石郡塩屋村二七七		井上国一	
北区梅田町桜橋交叉點	北一五七一	梁瀬商会山県政夫	

	一七二七		
南区天王寺伶人町四八二四地		猪野庄太郎	関西日報
東京府下羽田海岸		玉井照高	
紀伊田辺町		佐野豊七	
広島市袋町電車通り		佐野耕一郎	
神田三崎町一ノ一五	神田一六五三	浅野木工場	
神田美倉町貳番地	神田一五一八	桜井末吉	材木屋
麴町区上六番町四七 藤井嘉市方		中沢長太郎	
攝津御影町		引田春洋	
麴町七丁目十番地	番町二五四	山田重兵衛	
409 ページ			
京橋区築地小田原町三ノ九	中橋組	中橋平三郎	広告代理
東京巢鴨庚申塚六六〇	小石川五七二	利根康暢	
四日市市江田町		玉井豊太郎	
南区清水町 三休橋角		中正夫	
芝区今入町十二番地	新三五七八	馬場驥	三洋社 モービル貰フ
内幸町一ノ一	三洋社	鈴川忠策	
麴町区内幸町一ノ六	新橋四二七一〇七八	中井直吉	日本商事
右自宅荏原郡大井町一一九三	芝一一二	々	
麴町区銭瓶町二		肥塚七兵衛	梁瀬工務
神田今川橋	神田三三四	無三四堂	写真屋
東区北久宝寺町二丁目堺筋東へ入		柴田商店方播磨赤一	
近江国八日市町倉屋五三七			
410 ページ			
麴町区内幸町一ノ六 日本商事会社	新四二七一〇七八	中井直吉	
府下荏原郡大井町一一九三 自宅	芝一一二	々	
麻布富士見町九		桜井信四郎	
神田錦町三ノ十 玉井方		宮内臣	
名古屋市東区神楽町三丁目		立石関二	

福永飛行場			
大坂東区内淡路町一ノ二		米沢小枝	プロペラ屋
岐阜縣む儀郡東む藝村		河村甚七方サダ	
桑名町長		飯田一敏	
本所区林町一ノ二 齋藤商店		二瓶大助	
大坂南区宮津町三六〇番地ノ四		木村一馬	
桑名町 伊勢新報社長		横山新次郎	
411 ページ			
三重縣桑名郡七取村字香取		服部長四郎	
本郷区駒込曙町一四 横山方		戸田淳一	
長崎市八幡町 四五七		浦川長太郎	
鹿児島市平之町		小川三郎	
神田須田町二十五		日本商店	スポーク
神田東福田町九		宮崎鶴松	板金
芝区琴平町八番地		安部金属溶接所	
芝区高輪南町五十二		都築鉄三郎	
府下亀戸町押上三十三番地		永峯セルロイド工業株式会社	
京都市上七軒町 平野自動車商会		柳原美行	
東京府下上目黒五六九		中沢家康	
大坂南区塩町一丁目十九番地 林サト方		野島銀蔵	
412 ページ			
懐中時計	一四五〇七二	大正七年六月玉屋ニテ買フ 側秒針付キ	
大坂市東区石町一丁目八番地 善安筋突當り東へ入		藤井靖造	
東京市外巢鴨町二ノ七		大原哲治	
赤坂区田町七ノ六		立花了觀	
々溜池町二番地 中外社	芝一〇三二番		
本所菊川町二ノ廿五	本所一四〇二	峯岸商店	
浜名郡飯田村下飯田 杉本守 三郎方		福永朝雄	

大坂市西区市岡細工町八一ノ 二		大西光蔵	
大坂砲兵工廠		河田正太少将	
神田柳原河岸廿二号		太田工場	
芝区白金三光町三〇二 片桐 久義方		小林一郎	